

第五十一回帝國議會
衆議院

勞働爭議調停法案(政府提出)外一件(勞働爭議調停法案(政府提出)治安警察法中改正)委員會會議錄(速記)第七回

會議

大正十五年三月三日(水曜日)午前十時
二十九分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 森田 茂君

理事 杉浦 武雄君

理事 安藤 正純君

理事 藏園三四郎君

理事 山口 政二君

高橋元四郎君

加藤 綱一君

内ヶ崎作三郎君

比佐 昌平君

木暮武太夫君

濱田 國松君

渡邊 伍君

有馬 賴寧君

栗林 五朔君

本多貞次郎君

清瀬 一郎君

出席政府委員左ノ如シ

內務參典官 鈴木富士彌君

內務書記官 赤木 朝治君

社會局長官 長岡隆一郎君

司法政務次官 本田 恒之君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

勞働爭議調停法案(政府提出)

治安警察法中改正法律案(政府提出)

勞働組合法案(政府提出)

○森田委員長 是カラ開會致シマス、山口君ガ御質問ガアルヤウデスカラ、此場合山口君ノ發言ヲ許シマス

○山口(義)委員 唯一點ダケニ付テ、今通告者ガ御在デニナリマセヌカラ、其間一點ダケ御伺ヒ致シマス、大體此間カラノ委員諸君ノ御質問デ、政府ノ御答ガ分ッタクデアリマスルガ、聯合體ノ事ダケマダ能ク分ラナイ、是等ニ付キマシテハ、本會議ニ於キマシテ若槻總理大臣モ、又此委員會ニ於テ政府委員ノ方カラモ、屢御答辯ニナツテ居リマスルガ、其御答辯ハ、何時モ聯合體ハ法律上ニ於テハ認メテ居ナイケレドモ、唯事實上ニ於テハ之ヲ認メテ居ルノデアアル、事實上認メテ置イタナラバ、ソレデ差支ナイノデアアル、斯ウ云フ御答辯デアリマスルケレドモ、ドウモソレハ一種ノ胡魔化シノヤウナ答辯デアツテ、満足ガ出來ナイノデアアリマスルガ、事實上認メテ置イテ、ソレデ差支ナイト云フコトハナイノデ、大ニ差支ガアルノデアアル、唯事實上ダケ認メテ居ルト云フコトダケデハ、色ミノ不便ガアリ、不利益ガアルト云フノデ、法律上確認シナケレバナラヌト云フコトニナツテ來ルノデアアル、若シモ政府委員ノ仰シヤルヤウニ、事實上認メテ置イテソレデ差支ナイ、ソレデ十分デア

ルトスルナラバ、全然勞働組合法ハ要ラナイコトニナル、是ハ事實上認メテ置クト云フコトハ、言ヒ換ヘタナラバ、強ヒテ解散ヲ命ジナイト云フコトニ過ギナイト云フコトニナツテ來ルノデアアル、私生兒ト云フモノガ生レテ、殺ス譯ニ行カヌカラ、其儘ニ抛ツテ置ク、是ハ法律上適法ナリト認メナイ、法律上ノ權利ヲ與ヘナイ、斯ウ云フコトニナルカラシテ、事實上認メテソレデ差支ナイト云フコトハ、決シテ此答辯ニナラヌト思フノデアアリマスルカラシテ、ドウ云フ譯デ聯合體ト云フモノヲ法律上御認メニナラヌノカ、不必要ト認メテ御認メニナラヌノカ、不適當ト御考ニナツテ之ヲ法律上御認メニナラナイノカ、此御答辯ヲ率直ニ、虛心坦懷ニ御答辯ヲ願ヒタイ

○長岡政府委員 山口君ノ御質問ニ御答申シマス、只今モ御説ニゴザイマシタ通り、私生兒ト云フ例ヲ御舉ゲニナリマシタガ、事實上アリマスモノヲ、法律上之ヲ公認致シマシテ、法人トシテノ取扱ヲ致シマス方ガ、一步進ムト云フコトニ付テハ、是ハ全ク御意見ノ通りト考ヘマス、併ナガラ是ハ矢張毎々申上ゲマスルヤウニ、世ノ中ノ事情又勞働組合ノ實狀等ニ能ク適應致シマスヤウニ立法致シマスモノガ適當デアルト

云フコトハ、申迄モナイ事デアリマス、今日ノ實狀ニ於キマシテハ、先ヅ其財產狀態ヲ調べテ見マシテモ、先ヅ最も多クノ財產ヲ持つテ居リマスル所ノ海員ノ組合デアリマスルカ云フヤウナモノハ、多ク此聯合體デハゴザイマセヌ、聯合體トシテ有力ナモノモゴザイマスケレドモ、是モ矢張其聯合體ニ屬シテ居リマスル個々ノ組合ガ有力デアリ、ソレヲ包括シテ居ルガ故ニ有力デアルト云フ狀況デアリマシテ、會費ノ如キモ先ヅ近頃ハ聯合體ノ方ニハ澤山ハ引上ゲナイト云フヤウナ狀況ニナツテ居リマスルカラ、此際ト致シマシテハ、先ヅ此個々ノ勞働組合ニ對シテ權利義務ノ關係ヲ明ニシテ、財産ノ保護ヲ法律上ハ厚クスルト云フ程度ニ止メテ置キマシタ方ガ、適當デアラウト云フ趣旨ニ他ナラヌノデゴザイマシテ、之ヲ理論ノ上カラ申シマス、非常ニ距離ガアルヤウニ見エマスケレドモ、マア事實問題トシマシテハ、謂ハバ壁一重ト云ヒマス、紙一重ト云ヒマス、大ナル事實上距離ガアルモノトモ存ジナイ、先ヅノ今同ノ立法ト致シマシテハ、是位ノ程度ガ適當デアラウト云フ趣旨デ、斯ノ如キ規定ヲ置イタ次第デゴザイマス

○山口(義)委員 揚足ヲ取ルヤウデア

リマスケレドモ、本會議デ總理大臣ノ勞働組合法提案ノ理由ヲ御説明ニナツタトキニ、昨日モ山口政二君ガ言ハレタコトデアリマスガ、勞働組合運動ニ對シテ基準ヲ與ヘル爲ニ、又ソレヲ秩序のナラシムルガ爲ニ勞働組合法ヲ出ス、斯ウ云フコトヲ説明シテ居ラレルノデアリマスガ、サウスルト云フト、此事實上認メテ居ル所ノ聯合團體ニ對シテハ、サウスルト風ナ基準ヲ與ヘル必要ガナイノカ、又サウスルト風ニ思ハレ運動ニ對シテハ、秩序のナラシムル必要ガナイノカ、唯此單一組合ダケニサウスルト必要ガアツテ、此大キナ、却テ有力ナル代表的團體ニ對シテハ、秩序のノ又勞働組合運動ノ基準ヲ與ヘル必要ガナイノデスカ、斯ウ云フ風ニ思ハレルノデアリマスガ、ソレハドウ云フコトニナツテ居リマスガ、其點ヲ一寸御伺ヒ致シタイ

○長岡政府委員 聯合體ト申シマシテモ、是ハ聯合體ヲ構成致シテ居リマスル所ノ個々ノ勞働組合ガ基礎ニナツテ居ルノデゴザイマシテ、其個々ノ勞働組合ノ考ナリ意思ナリガ、直接間接ニ聯合體ノ意思ナリ考ナリニ現ハレテ來ルモノデゴザイマスカラ、此組合ヲ組織シテ居リマスル所ノ個々ノ聯合組織シテ居リマスル個々ノ組合ガ基準ヲ與ヘラレ、秩序のニナリマスレバ、隨ヒマシテ直接間接ニ之ヲ包括シテ居リマスル聯合體ナルモノモ、基準ヲ與ヘラレ、

秩序のニナルモノト御認メヲ願フ外ハナイノデアリマス、要スルニ其邊ハ程度問題デアラウト考ヘテ居ル次第デゴザイマス

○山口(義)委員 國際勞働會議ニ代表者ヲ出ス選舉ノ事ニ付テ山口政二君ガ御質問ニナツタ、總理大臣ノ御答辯ニ、ソレハマダ此聯合體ニ對シテハ其選出權ヲ與ヘルカ與ヘナイカハマダ考究中デアアル、斯ウ云フ風ナ御答辯デアリマシタケレドモ、日本ノ此聯合體ノ代表的ノ團體ガ、此國際勞働會議ニ對シテ代表者ヲ出スト云フコトハ、是ハモウ既得權デアルト私ハ考ヘマスガ、總理大臣ハ之ヲマダ考慮中デアツテ、將來考ヘテ見テ、ソレガ不必要デアルト思ッタナラバ、ソレハヤナイト云フ風ナ御答辯ニナツテ居リマスケレドモ、私ハソレハ既得權デアルト云フ風ニ考ヘマスガ、サウスルト風ニ御考ヘナリマスガ、將來是ハ不必要ト御認メニナツテ、斯ウ云フ有力ナル團體ニ對シテサウスルト權利ハ與ヘナイ、剝奪スルト云フコトモ出來ルノデアリマスガ

省內ニ會議デモ開キマシテ、委員會ノ終了迄ニハハッキリシタ事ヲ申上ゲルヤウニ相談ヲ致シテ置ケバ宜カッタノデアリマスガ、連日此方ニ答辯ニ罷リ出テ居ル爲ニ、ツヒ暇ガゴザイマセヌデシタガ、併シ大體ニ於テ從前通りノ方針ヲ採リタイ、過日モ清瀬君ニ御答申上ゲマス際ニ、此組合法ニ據ラザル勞働組合ニ對シテモ、決シテ繼子扱ヲスル意思ハナイト云フコトヲ申上ゲテ置キマシタ次第デ、既得權ヲ剝奪スルト云フヤウナ考ハ十中九マデ持つテ居ラスト云フヤウニ御諒解ヲ願ッテ置キタイト思ヒマス

○山口(義)委員 大體既得權ヲ剝奪シナイト云フヤウナ御意見デアリマスガ、サウスルト風ニ御意見デアリマスガ、サウスルト風ニ御意見デアリマスガ、勞働會議デ受付ケナイデアラウト思ヒマス、平和條約三百八十九條ニ、其國ニ存在スル所ノ有力ナル團體ト協議ノ上選出サレルト、斯ウ云フ風ニ書イテアリマス、サウスルト云フト、先ヅ政府ノ行政上ノ取扱ニ於テ之ヲ認メナケレバナラス、斯ウ云フ事ニナル、サウスルト云フト、政府自ラ行政上ノ取扱ノ上ニ於テ之ヲドウシテモ認メナケレバナラス團體ヲ、法律上ニ於テハ之ヲ確認シナイト云フコトニナルト、非常ナ不公平、矛盾ニナリマスガ、サウスルト之ヲ事實上認メテ、法律上認メナイト云フ理由ハ、少シモナイヤウニ考ヘマスガ、行政上取扱ハナケレバナラス所ノ此團體

ニ對シテ、却テ是ハ法律上認メナイ、斯ウ云フ事ハ何モ理窟ナシニ斯ウ云フコトヲヤッタト云フコトニナルノデアリマスガ、ドウデアリマス

○長岡政府委員 先程ノ答辯ヲ繰返スヤウデ、甚ダ恐縮デゴザイマスガ、要スルニ法人トナリ法ノ保護ヲ受ケルト云フノハ、法人トシテ權利義務ノ關係ヲ明カニシ、尙ホ財産ノ保護ヲ厚クスルト云フヤウナコトガ、主ナ利益デアリマスカラ、是等ノ保護ノ關係ト、勞働代表ヲ選出致ス選舉權ト云フモノトハ、是ハ別々ニナリマシテモ、觀念ノ上ニ於テ矛盾ガアルヤウニハ考ヘラレマセヌノデアリマス、法ニ於テ認メマセヌ、即チ法人トナリマセヌ、又法人トナルコトヲ欲セザル勞働組合ニ對シマシテモ、行政上手心ヲ加ヘテ、サウスルト繼子扱ニ致シマスルトカ、又ハ無理ニ政府ガ勸誘シテ、強ヒテ此法律ニ依テ法人ニナレト云フヤウナコトヲ強制致サナイト云フコトハ、繰返シテ清瀬君ニ過日御話申上ゲタヤウナ次第デアリマス、行政上ノ取扱ト致シマシテハ、政府ハ決シテ不公平ナル取扱ハ致シマセヌ、隨テ勞働代表ノ選出權モ、法人タラザル組合ニ與ヘテモ、差支ナカラウト、十中九分マデサウスルト居リマスル、併ナガラ組合自體ノ財産保護ナリ、權利義務ナリノ關係ヲ明カニスル爲ニ、法人タル資格ヲ與ヘルト云フヤウナコトハ、此法律上ニ於テモ、觀念上ニ

於テモ、矛盾スルト云フ程、左様ニ窮竄

ニ考ヘテ居リマセヌ次第デアリマス

○多木委員 一寸伺ヒタウゴザイマス

ガ、此法律案ハ未曾有ノ法律デアリマ

ス、政府ハ如何ニ勞働者ヲ待遇シ、如何

ニシテ勞働者ノ利益幸福ヲ増進シタラ

宜カラウカ、又多少資本家ノ利害モ考

ヘラレテ、非常ナル是ハ御苦心ノ結果

作ラレタ所ノ法律案デアアル、而シテ又

各條項ニ付テ、法律ノ實際ニ付キマシ

テハ、専門家ノ方ガ法律上ノ事ニ付テ

色々御尋ニナツタ、私ハ此實驗上實際問

題ニ付テ一ツ伺ヒタイト思ヒマス、成程

勞働ハ神聖デ、實ニ是ハ國ノ根本、生

活ノ本デアアル、各種ノ勞働ハ總テ洵ニ

神聖、勞働ハ神聖デアリマス、勞働ト云

フ此言葉ハ、智識階級ト云ハズ、下層社

會ト云ハズ、勞働ハ興國ノ本デアアルコ

トハ申ス迄モゴザイマセヌガ、是等ノ

方面ヲ大ニ待遇スルト云フコトガ、又

是ハ國ヲ興ス本ト云フコトニナル次第

デアリマス、併ナガラ此勞働組合法案

ト云フモノデ、マア兎ニ角私ハ第一番

ニ勞働罷業調停問題ニ付キマシテ、將

來非常ナル私ハ杞憂ヲ懷ク者デアリマ

ス、政府ノ御考ハ如何、其結果私ハ却テ

大ナル爭議ガ起キハスマイカト思フ、

之ガ爲ニ起ラナイ罷業モ起ルヤウナコ

トニナリハスマイカ、而シテ勞働者ヲ

モ失業サセ、ソレガ爲ニ無形ニ興ラン

ボスヤウナコトニハナルマイカ、殊ニ

現ニ小作調停法ト云フモノガ出來デ、小

作官ト云フモノガ各地ニ出來マシタ、

是ハ爭議ヲ調停スルト云フト、爭議ヲ

挑發スルノ重大ナル結果ヲ來シテ居

ル、此結果ニ至ラザルヲ得ナイノデス、

是ハ政府ハドウ云フ風ニ御考ニナツテ

居ルカ、農村ハ常ニ泰平無事デアリマ

シテ、温情デ、此良風美俗ヲ獎勵シテ、

一家團圓ノ中ニ起居シナケレバナラ

ヌ、モウ一族ノ如ク生活シナケレバ

ナラヌ農村デアアル、ソレガ農村ニ小作

官ガ出來テ、却テ修羅ノ巷トナリ、小作

米ヲマケロト云フヤウナコトヲ言フ、

全ク脅迫時代ノ狀態ニナツテ居ル、尤モ

此小作米ト云フモノハ、封建時代ニ制

定サレタモノデ、地面ニ依ラナケレバ

命ガ保テナイ、生活ガ出來ナイト云フ

ヤウナ時代ニ定メタ小作デアリマスカ

ラ、比較的小作米ノ如キモノモ高イニ

ハ違ヒナイ、此高イト云フコトニ付テ

ハ、相當政府ガ制限ヲ設ケテ、紛擾ヲ未

發ニ防ガナケレバナラヌニ拘ラズ、此

小作調停官ナド、云フモノヲ置イテ、

甲ト乙トノ個人的ノ契約ナド、云フモ

ノハ殆ド無視シテ、團體ト團體トガ話

ヲスルト云フヤウナコトニナリ、遂ニ

ハ脅迫暴行ノヤウナ眞似マデシナケレ

バ納マラナイコトモ往々アルノデア

ル、ソレデナケレバ小作米ハ三年デモ

モ、小作人数數ノ暴力デ之モドウニモ

ナラナイ、殆ド所有權スラモ認めナイ

ヤウナ狀態ガ方々ニアルノデアアル、斯

ウ云フ不法ナ行爲ガ今後長ク續クヤウ

ナコトガアリマシテハ、紛擾ヲ彌ガ上ニ

モ募ラセ、地主ヲ憤ラセ、小作人ノ爲ニ

モナラヌヤウナ狀態デアアル、斯ウ云フヤ

ウナ事ニハ、思想上ニモ、治安上ニモ大ナ

ル影響ヲ及ボシツ、アルノデアリマス、

政府ハ是等ニ對シテ果シテドウ云フ考

ヲ持ツテ居ラレルカ、今回新タニ提出サ

レタ罷業調停法ナドモ、亦此轍ヲ履ムデ

アラウト私ハ思フ、斯ウ云フ法案ガ出ル

爲ニ、直接ニ間接ニドウ云フ事ガ起ルカ

全ク分ラヌ、御承知ノ通り日本ノ工業ト

云フモノハ百年モ遅レテ居ル、國際間

ノ工業競争ニ伍シテ、ドウシテ日本ガ

立ッテ行クカ、原料品トシテノ鐵モナケ

レバ、石油モナシ、材木亦非常ニ乏シ

イ、ドウシテ是デ今後偉大ナ發展ヲスル

コトガ出來マセウカ、翻ツテ農業ハ日ニ

月ニ衰ヘ行クト云フヤウナ、極メテ情

ナイ狀態ニアルノデアアル、斯ウ云フ際

デアアルカラ、此際政府ハ之ニ手ヲ著ケ

ナイデ、——寧ロ斯ウ云フ事ヲヤルノ

ナラバ、進ンデ利益ノ一部ヲ配當スル

ト云フヤウナ法案デモ設ケテ、所謂共

存共榮ノ途ヲ講ズルノガ適當デアルト

思フ、果シテ政府ハ斯ウ云フヤウナ意

思ヲ持ツテ居ルカドウカ、斯ウ云フ事ニ

フ、御互ノ利益幸福ヲ増進スルコトニ

ナルノデアアル、私ノ方ニ船ヲ持ツテ居ル

者ガアル、是ガ持主ガ不況ノ爲ニ、使用

人ニ思フヤウナ拂ヒガ出來ナイ、五十

圓ナリ百圓ナリ僅カノモノデアアルガ、

使用人ノ側ハ船ヲ壞シタリシテ、ドウ

ニモナライヤウニシテシマフ、自分ノ

利害ニ關係シナイカラト云ウテ、三十

圓カ五十圓ヲ呉レナイト云フ爲ニ船ヲ

壞シテ、自分ノ身ノ安全ヲ圖ルヤウナ

事ヲスル、全ク無茶デアアル、利害ヲ共ニ

シ、共存共榮ヲ圖ルナド、云フコトハ

思ヒモヨラス、此案ナドヲ見テモ、政府

ガ餘リニ勞働者ノ機嫌ヲ取り過ギテ居

ルヤウナ條文デハナイカト思フ、何ト

ナレバ私ハ別段資本家ヲ保護スルコト

ハナイト思フガ、此罷業ト云フコトニ

對シテモ、勞働者ハマルデ資本主ヲ敵

ノヤウニ思ツテ居ル、敵ト味方ト對峙ス

ルヤウナ心持デアルト云フノハ宜クナ

イ、ドウシテモ共存共榮デ行カナケレ

バナラヌ、ソレデモウ一ツ御尋シタイ

ノハ、此條項ヲ限ツテ、サウシテ一部ニハ

此調停法ニ依テ「ストライキ」ノ起ツタ

場合ニハ、放任シタイト云フコトデア

ルガ、ソレデハマダ政府ガ手緩イ、眞ニ

國利民福ヲ圖ルナラバ——眞ニ國利民

福ヲ増進スル精神ニ缺ケテ居ルヤウニ

思フノデアリマスガ、丁度此船ノ船頭

ガ「ストライキ」ヲ起シタト同様、兩方

與へ、待遇ヲ善クスルト共ニ、或ル場合ニハ此「ストライキ」ト云フモノヲ國法デ以テ嚴禁シテ貰フト云フコトデハ如何デアラウカ、ソレノミナラズ、醬油トカ、酒トカ、或ハ藥品デモ、其他又一日モ休メバ非常ナル損害ヲ與ヘルト云フヤウナモノ、或ハ其醬油、酒、麥酒ノ如キ醱酵ノ期間ダケハ「ストライキ」ヲ禁ズルト云フ理窟デヤラナクテハイカント思フ、ソレデナケレバ工業モ益衰へ、今後又興ルベキモノモ興ラヌト云フコトニナリ、其影響ハ頗ル大キナモノデアラウト思フ、此點ニ付テハ政府ハドウ云フヤウニ御考ニナッテ居リマスカ、モウ少シ實際ニアル所ノ事ニ付テ御考ヲ願フヤウナコトハ出來マセヌカ、之ヲ一寸伺ッテ置キマス

○長岡政府委員 只今ノ御質問ニ御答申上ゲマス、多木サシハ小作調停法ガ全然失敗デアッテ、小作調停法ヲ施行シタ爲ニ、農村ニ於テ小作爭議ヲ刺戟シタト云フヤウナ御觀察デゴザイマシタガ、是ハ內務省ノ管轄デアリマセヌカラ、私詳細ノ事ハ存ジマセヌケレドモ、小作調停法施行ノ結果、農村ニ於テ小作爭議ヲ刺戟シタト云フヤウナコトハ、事實ニ於テ無イカノヤウニ心得テ居リマス、小作爭議ノ件數ヲ見マシテモ、大正十年ハ千六百八十件、大正十一年ハ千五百七十八件、大正十二年ハ千八百六十五件、年々大正十年カラ小作爭議ハ増加シテ居リマシタガ、大正十三年ノ

十二月一日ニ小作爭議調停法ガ施行サレタノデゴザイマシテ、大正十三年ニハサシタル影響ハ無イカモ存ジマセヌガ、其年ノ爭議件數ハ千二百六十件デゴザイマシテ、大正十四年ハ、是ハ十一月迄ノ統計デアリマシテ、十二月ノ分ハ分リマセヌガ、併ナガラ十一月ノ分迄ニシテ七百四十三件、年々減少シテ居リマス、是ハ他省ノ所管ノ事デゴザイマスカラ、私共ハ能ク心得テハ居リマセヌガ、小作調停法ノ爲ニ惡結果ヲ生ジタモノトハ考ヘテ居リマセヌ、併ナガラ此小作爭議調停ノ勞働爭議調停ト同ジヤウニ、若クハ非常ニ關係ガアルヤウニ御考ヘニナリマスコトハ、吾ノ多少意見ヲ異ニスル所デゴザイマシテ、無論兩者ノ關係ト云フモノハ多少アルモノトハ存ジマセヌケレドモ、小作爭議ト勞働爭議トハ餘程趣ガ違ヒマス、小作爭議ニ於キマシテハ、小作人ガ農業上生産者ト云フ位置ニ立ッテ居リマスカラ、勞働爭議ニ於キマスル資本家對勞働者ノ關係ニ比較致シマシテ、小作人ノ方ニ強味ヲ帶ビテ居リマシテ、爭議ハ著シク持久的ナモノガ多イノデアリマス、隨ヒマシテ爭議ノ結果ハ、勞働爭議ヨリモ小作爭議ノ方ガ小作人ノ利益ニ解決スルモノガ多イノデアリマス、半面ニ地主ハ其都度幾何ゾ、ノ不利益ヲ招イデ居ルモノガ多イノデアリマス、而モ其影響ハ一地方カラ他地方ニ波及シ易イノデアリマシテ、小作條

件、地主小作ノ關係ハ、略隣接地方ニ於テ同様デアリマスカラ、一地方ノ小作爭議ガ他地方ニ波及シ易イト云フ傾向ヲ持ッテ居リマス、併ナガラ勞働爭議ハ是ト全ク趣ヲ異ニシテ居リマシテ、小作人程勞働者ハ強味ヲ持ッテ居リマセヌノデ、直ニ衣食ニ窮シマス結果、勞働爭議ハ小作トハ趣ヲ異ニシテ居リマス、一片ノ法律ニ依リマシテ勞働爭議ガ殖エル、或ハ之ニ依テ事端ヲ滋クスルト云フヤウナ事ハ想像シ得ナイノデアリマス、申上グル迄モナク、勞働爭議ハ資本側ノ不利益デモアリマスルガ、又同時ニ勞働者側ニ取リマシテモ、其日カラ衣食ニ困ルト云フ、非常ニ苦痛ナルモノデアリマスカラ、一片ノ法律ガ出タ爲ニ、直ニ爭議ヲヤルト云フヤウナ、サウ云フ輕卒ナ態度ヲ執ルモノトハドウシテモ想像出來ナイノデアリマス、勞働爭議ハ利益ノ狀況ナリ、經濟狀況ナリ、又景氣不景氣ノ關係ナリ、社會ノ狀態ナリ、色々ノ問題ト相俟テ、或ハ多クナリ、或ハ少ナクナルモノト考ヘマスカラ、此法律ノ結果、非常ニ爭議ノ件數ヲ増加スルト云フヤウナ憂ハ見エナイト考エマスルノミナラズ、之ニ依リマシテ爭議ヲ未然ニ防ギ、若クハ勞働爭議ノ數ヲ減少スルト云フ、多木サシノ御想像ニナルト反對ノ結果ヲ生ズルデアラウ、良イ結果ヲ生ズルデアラウト云フコトハ、堅ク政府ノ信ジテ居ル所デゴザイマス、何卒此點ニ付キマシ

テハ、御疑念ヲ御解キ下サイマスカラ、希望致ス次第デゴザイマス、尙ホ私ガ勞働者ハ資本家ヲ敵トシテ居ルト云フヤウナ文句ヲ使ッタガ、ソレハ甚ダ輕卒ナ言葉デアッテ、斯ウ云フヤウナ言葉ヲ言フベキデナイト云フ御叱リヲ受ケマシタガ、私ハサウ云フヤウナ言葉ヲ使ッタ覺ハゴザイマセヌ、寧ロ社會局ト致シマシテハ、勞資ノ利害ハ相反スルモノデナイト、共存共榮、勞資協調シテ行クノガ、吾ミガ最モ希望スル所デルアルト、繰返シテ申上ゲタ記憶ハゴザイマスルガ、只今御引用ニナリマシタヤウナ、勞働者ガ資本家ヲ敵トスルト云フヤウナコトハ、私ノ口カラモ、亦他ノ政府委員ノ口カラモ、決シテ申上ゲタヤウナ記憶ハゴザイマセヌ、尙又利益ノ分配ト云フコトニ付キマシテハ、是ハ本會議ノ席デモ御意見ガ出マシタ、此事ハ特ニ私ハ尊敬スベキ立派ナ御意見ト考ヘテ居リマス、只今御話ノ中ニモ出マシタヤウニ、日本ハ外國ニ較ベテ産業狀況ガ遅レテ居リマシテ、天然ノ資源モ尠イヤウデゴザイマス、又勞働者ノ力モ、肉體のニ弱イ所モアルノデゴザイマスカラ、歐羅巴デ八時間働クナラバ此方デハ八時間半働ク、九時間働クト、多少歐羅巴亞米利加ノ人ヨリモ賃銀ヲ安ク働ナケレバナラス、ソレデナケレバ國際競争ノ上ニ於テ打勝テナイト云フコトハ、言フ迄モナイ事デゴザイマシテ、ソレ故ニ華盛頓會議ニ於キマシテモ、日本ハ八時間制限

ニ服従シナカッタコト、考ヘマスルガ、是ト同時ニ勞働者ダケニ少イ賃銀ヲ以テ、永イ時間ヲ外國人ニ比シテ働ケト云フコトデハ、此勞資ノ問題ハ解決シナイ、之ヲ使フ方ノ側デモ、多木サンノ御話ノヤウニ、歐羅巴、亞米利加人ヨリモ多少生活ナリ利益ナリノ點ニ於テ、歐羅巴、亞米利加ニ比シテ不利益ナ條件ニ甘ンズル、私ハ實ハ多木サンノ御家庭ナリ御人格ナリヲ能ク承知シテ居リマスカラ、此席デ決シテ阿諛シテ申上グルノデハアリマセヌガ、多木サンノヤウニ經營ヲシテ居ラレル方デ、非常ニ質素ナ身持ヲ致スト云フヤウナ風ニ、總テノ資本家ガ御考ヘ下サイマシテ、一割配當ガナケレバイカヌトカ、重役ハ三ツモ四ツモノ會社ヲ受持ッテ居ッテ、數十萬圓ノ報酬ヲ受ケルト云フヤウナコトハ、成ベク之ハ報酬ヲ少クシテ多ク働ク、或ハ生活モ大戰時代ノ成金ノヤッタヤウナ奢侈ノコトハ、社會ニ對スル影響ヲ慮ッテ慎ムト云フヤウニ、勞資兩方面ニ於テ、國際競争ニ打勝ツタケノ努力ヲ致サナケレバナラヌ、此事ニ付テハ多木サンノ御説ト全ク同感デアリマシテ、此御意見ニ對シテハ、大ナル尊敬ヲ持ツモノデゴザイマスルガ、併ナガラ之ハ法律ニ依リマシテ利益ノ配當ヲ制限致シマスルトカ、若クハ勞働者ニ對スル利益ノ分配ノ制度ヲ強制スルト云フヤウナコトハ、今日ハ其時期ニモアラズ、是等ハ今少シ研究ヲ致シ

マセヌト、輕シク法律ノ力ニ依テ強

制スルト云フコトハ御答申上ケ兼ネルノデアリマス、尙又「ストライキ」ノ禁止ト云フヤウナ御説モゴザイマシタガ、之ハ今日マデ法制ノ上ニ於テ原則トシテ「ストライキ」ヲ禁止シテ居ルノデゴザイマセヌカラ、今日更ニ法律ヲ作リマシテ「ストライキ」ヲ嚴禁スルト云フヤウナコトニ付キマシテハ、遺憾ナガラ御同意申上グル譯ニハ行カナイノデアリマス

○多木委員 私ハ長岡長官ガ勞働者ガ資本家ヲ敵ニ見テ居ルト云フヤウナコトヲ言ハレタヤウニ、何トナク質問ノ御話ノ直接間接ノ言語ノ狀態ガサウ云フ風ニ私ガ聽取レルヤウナ風ニ言ッテ居ル、又小作ノ狀態ハ、之ハ統計ノ事ハ私ハ知リマセヌガ、實際ハ實ニ猛烈デアリマシテ、長岡長官ハ何時モ都會ニ御住居ニナッテゴザイマスカラ、實際ノ事ハ存ジマセヌカ知リマセヌガ、數ガ減ツタト云フコトハ、決シテ爭議ノ數ガ減ツタノデナクシテ、團體ノ數ガ大キクナッテ來テ居ル譯デアアル、デアアルカ

數ダケヲ以テカラニ、是ガ小作爭議、小作紛議ガ減ツタト云フヤウニ見テ居ルト云フコトハ、之ハ少シク事實ニ當倏ラヌカノヤウニ私ハ思ヒマス、ソレデ詰リ勞働者ノ目的ハ、比較的勞ガ少ナクシテ報酬ガ多イノガ宜イ、是ヨリ外ニ目的ガナイカト思ッテ居リマス、デアアルカラ此點ニ付キマシテハ、工場ノ設備

モ共ニ改メテ行カナケレバナラヌ、政府ハ此遲レタル工場ヲ今少シ改善スル御考ハナイカ、又會社ノ重役ノ中ニハ、隨分如何ハシイ者ガアリマシテ、單ニ勞働者ヲ虐待スルバカリデナク、株主ニ對シテモ迷惑ヲ掛ケ、種々ナル方面ニ惡影響ヲ及ボシテ居ル者ガアル、今日ノ工場ノ進歩發達ヲ圖リマス爲ニ、是等ノ點ニ付テ如何ナル考ヲ持ッテ居リマスカ、是ハ勞働問題ニハ密接ナル關係ガアル、而モ地方ノ役人ノ中ニハ、工場ナドニ對シテ餘リ權利ヲ振ヒ過ギテ、斯ウセイ、ア、セイト、途方途轍モナイヤウナ指揮ヲ致シマシテ、工場ノ發達ヲ妨害スルコトガアル、法律ガドウデアアル斯ウデアアル言ッテ、法律ガ責メ立テル、又法律家ニ聞クト、法律家ハ法律ヲ作ツタ精神ガ何處ニ在ルカト云フヤウナコトヲ仰シヤルガ、結果ニ付テ見ルト、法律家ハ實際ノ事ヲ十分御存ジガナイ爲デアアルカ、誠ニ迷惑ヲ致スヤウナ事ガアリマス、今ノ日本ハ餘リ法律ヲ作り過ギテ、餘リニ法律ヅクメニナッテ居ルヤウナ感ガゴザイマス、其結果、民業ノ發達ヲ害シ進歩ヲ阻止スルヤウナコトガ甚ダ多イ、今ノ小作

調停法ノ如キモ、是ガ爲ニ大變小作爭議ガ少クナッタト云フヤウナ御話デゴザイマスケレドモ、當局ノ方ガ御覽ニナッテ居ルヤウナ結果ニハ實際ハナッテ居リマセヌ、是ハ疑フベカラザル事實デアアル、ソレハ天下ハ廣イモノデアアル

カラ、多少減ツタ所モ殖エタ所モアルデアリマセウガ、小作ノ人ハ團結シテ地主ニ當リ、自己ノ利益ヲ圖ルコトニナッテ居リマス、成程小作人ノ利益ヲ圖ルコトモ、必要デアアルニハ相違アリマセヌガ、他方ニハ地主ノ保護ト云フコトモ必要デアリマス、ソレト同様ニ、勞働者ノ進歩發達ヲ圖ルト云フコトモ結構デアアルガ、唯ソレノミデハ、是ハ惡影響ヲ來スコトハ明デアアル、若シ勞働者ノ待遇ガ惡イトカ、給與ガ不十分デアルトカ云フ場合ニハ、其會社ニ對シテ地方官ガ説諭スルトカ、嚴談ヲスルトカ云フコトヲシテモ宜イ、又勞働者ノ賃銀ハドレ程カト云フコトニ付テモ、玆ニ各國ノ勞銀ノ表ヲ頂戴シテアリマスガ、是ハ英國トノ比較ハドウナル、亞米利加トノ比較ハドウナル、獨逸トノ比較ハドウナルト云フコトノ參考トハナリマスガ、一體日本ノ勞働者ニ對スル勞銀ハ、ドウ云フ標準ニ依リ、ドレ程ノ所ガ宜イト御考ニナルカ、斯ウ云フ事ハ實際問題デアリマシテ、法律ヲ作ル時ニハ、其目的標準ガナケレバナラヌ、其點ニ付テハ如何御考ニナッテ居リマスカ、伺ヒマス

○長岡政府委員 小作爭議ノ件數ガ、從來ヨリ著シク減ッテ居ルト云フコトヲ申上ゲマシタ所、多木君ヨリ件數ハ減ッテ居ルカ知ラヌガ、小作爭議ノ參加人ハ増加シテ居ル事實ハナイカ、斯ウ云フ御尋デアリマシタ、小作爭議參加

人員モ十四年ニ至ッテ著シク減ッテ居リマス、尤モ是ハ地方的ニ見マスルト、多木サンノ平生御見聞ニナル地方ニ於テハ、或ハ増加シテ居ルヤウナ事實ガアルカモ知レマセヌガ、全體ヲ通ジテ見マス、大正十四年ニ於ケル小作爭議參加人員ハ、小作人ニ於テ一萬六千人以上減少シテ居リマス、是ハ全體ヲ通ジタ事デゴザイマスカラ、地方的ニハ或ハ多木サンノ御指摘ニナリマシタヤウニ、増加シテ居ル所ガアルカモ知レマセヌ、ソレカラ尙ホ如何ハシイ重役ガ株主其他ニ迷惑ヲ掛ケルコトニ付テ、ドウ考ヘルカト云フ御尋デゴザイマシタガ、是等ハ無論法規ノ命ズル所ニ依テ、嚴重ノ取締ヲ致スベキデアリマシテ、近來銀行類似ノモノ、不正金融業者ニ對シマシテ、嚴重ナル取締ヲ加ヘテ居リマスコトモ、其一端ト御承知ヲ願ヒタイ、唯法規ニ無イ、法規ノ範疇ヲ脱シマシテ干涉ガマシイ事ヲ致シマスノハ、是ハ慎マナケレバナラスコトハ申迄モアリマセヌ、ソレカラ工場ノ設備完全ニ付テノ御尋ガゴザイマシタガ、是モ洵ニ御尤ノ御意見ト思ヒマス、今日全國ニ於キマシテ、不注意ノ爲若クハ工場設備ノ不完全ノ爲ニ、或ハ火災ヲ起ストカ、瓦斯ノ爆發ヲ致シマス

ノデアルト云フヤウナ、公平ノ判斷ヲ致シテ、ソレデ纏メルト云フコトヨリ外ハアリマセヌ

○多木委員 勞働者ニ對シテ、利益配當ノ方法ヲ設ケルト云フコトモ必要デハナカラウカ、ソレハ利益ノ何割トカ云フコトハ出來ナイトシテモ、勞働者ノ一番氣ノ毒ナ事ハ、追々年ヲ取ッテ、老後ノ生活ノ安定ヲ圖ルト云フコトガ必要デアル、現ニ長岡長官モ御承知ノ通り、獨逸デハ日々働イタ勞銀ノ中カラ幾ラカ積立テサセル、又雇ッタ者ハ相當ノ額ヲ積立テ、國家ガ之ヲ取扱ッテ、例ヘバ二十歳カラ五十歳迄トカ云フヤウニ、長期ノ貯金ヲサセルト云フヤウナコトダケデモ、勞働者ニ老後ノ安定ヲ與ヘルト云フ上ニ於テ宜カラウト思フ、サウ云フ事デモヤルト云フ御意思ハアリマセヌカ

トカ云フヤウナ事故ガ中ニ多イ、此爲ニ工場鑛山等ノ被ル損害ハ夥シイモノデアリマシテ、其爲ニ勞働者ガ死傷致シマスルノミナラズ、資本家ト致シマシテモ、大切ノ工場鑛山ヲ烏有ニ歸セシムルト云フヤウナ損害モゴザイマスカラ、是等ノ事ニ付キマシテハ、極メテ金ノ要ラナイ工夫デ改善ヲ加ヘルコトニ依テ、工場鑛山ノ災害ヲ防止スルコトガ出來ルノデアリマス、其事ニ付キマシテハ、數年前ヨリ工場鑛山ノ災害防止ニ關スル調査費ノ豫算ヲ御協賛ヲ得テ頂戴シテ居リマス、近來ニ至ッテ大分此調査モ進ミ、方法モ明白ニナッテ參リマシタカラ、是等ノ事ヲ團體ノ力ニ依テヤラセル、工場鑛山ノ經營者ニ進ンデヤラセルヤウニ努メテ居リマス、是ハ資本家ノ利益ノミニ止マラズ、又勞働者ノ利益ノミニ止マラズ、社會ノ爲ニモ非常ニ利益デアラウト云フ考ヲ以テ、此災害防止ニ付キマシテハ、今後尙ホ大ニ努力致ス積リデアリマス、尙ホ又勞働爭議ノ解決ニ付キマシテ、勞働者ノ賃銀ハドノ位ノ所ニ標準ヲ置クカト云フ御尋デゴザイマシタガ、是ハ個々ノ場合ニ於キマシテ違ヒ、又事業ノ狀況ニ依テモ違ヒ、經營ノ狀況ニ依テモ違ヒ、職工ノ生活狀態、地方的ノ狀況ナドニ依テモ違ッテ參リマスカラ、ソレ等ヲ能ク調査ヲ致シマシテ、無理ノナイ所ニ讓リ合フト云フ所ニ見當ラ

置クヨリ外ハアリマセヌ、是ハ調査會ノ委員ニ加ハリマシタ中立ノ者、若クハ其他ノ關係者ガ慎重ニ調査致シマシテ、其都度凡ソドノ程度迄行クベキモノデアルカ、ドノ程度迄要求スベキモノデアルト云フヤウナ、公平ノ判斷ヲ致シテ、ソレデ纏メルト云フコトヨリ外ハアリマセヌ

○長岡政府委員 勞働者ノ養老保險ニ付キマシテ、多木サンカラ御教示ヲ願ヒマシタコトハ、私共局ニ當リマス者トシテ汗顔ノ次第デゴザイマスガ、御承知ノ通り英國始メ養老年金ノ制度ヲ執ッテ居ル國ガ相當多イノデゴザイマス、平生勞働者ヨリ積金ヲサセマシテ、之ニ依テ或ル年齢以上ニナリマシタ際ニ、保險給付ヲ始メマスモノト、又政府カラ單純ニ養老年金ヲ支出スル國トゴザイマスガ、兎モ角勞働者ノ老後ノ安定ヲ得サセルト云フコトガ、最も必要ナ施設デゴザイマシテ、多木サンガ此

點ニ御著眼ニナリマシタコトハ、敬服ノ至リニ堪ヘナイノデゴザイマスガ、政府ト致シマシテハ、過日私ガ健康保險法中改正法律案ノ委員會ノ席上デ一端ヲ申上ゲマシタヤウニ、只今ノ所、勞働者ガ疾病ニ罹リ、負傷致シタ場合ノ救済ニ付キマシテ、健康保險法ガ漸ク大正十六年一月一日カラ救済ヲ始メルト云フヤウナ程度デアリマスカラ、此養老保險ナリ、失業保險ナリト云フヤウナ社會保險ノ制度ニ付キマシテハ、今日調査ハ致シテ居リマススケレドモ、是等ハ政府ノ財政ノ狀況ナリ、又事業者ノ負擔ノ關係ナリ、慎重ニ調査致シマシテ、漸ク追ッテ進ミタイ、一氣ニヤルト云フコトハ、今日ノ社會ノ實情カラ中出來難イ事情モアリマスカラ、只今ノ所調査ハ怠ラズ致シテ居リマスケレドモ、養老制度ニ付キマシテハ、將來ノ問題トシテ深ク考慮ヲ致シテ、近キ將來ニ於テ許ス限リ實現ヲ致シタイト云フ考ヲ持ッテ居ルト云フコトダケ御答致シテ置キマシテ、何時カラ之ニ付テ施設ヲ始メルト云フヤウナ具體的ノ御答ヲ致スコトガ出來ナイコトヲ、甚ダ遺憾ニ存ズル次第デゴイマス

○多木委員 私ハ是デ一寸打切りマス、後ニ二三殘ッテ居リマスガ……

○森田委員長 安藤君

「森田委員長委員長席ヲ退キ藏園理事代リ著席」

○安藤委員 此間カラ連續質問ガ出マ

シテ、最早既ニ一々ノ内容條項ニ付テハ、質問ガ盡サレテ居ル次第デアリマス、私ハソレ等ノ點ニ付テハ、最早繰返シテ御尋ハ致シマセヌガ、唯遅クナリマシテ質問ノ機會ヲ逸シマシタカラ、少シ後戻リスルヤウデアリマスガ、此案ノ大體ニ付テ簡單ニ一二伺ッテ見タインデアリマス、ドウモ組合法案竝ニ爭議調停法案ノ全部ヲ通觀致シマス、文言ノミナラズ、内容ニ含ンデ居ル所ヲ推測シテ段々考ヘテ見マス、此法案全部ヲ通ジマシテ、労働者ノ利益ニナッテ居ナイ、或ハ利益ニ全體ガナッテ居ラヌト云フコトガ酷イナラバ、寧ロ労働者ノ利益ヨリハ、事業家、資本家ノ方ガ此法案ニ依テ都合ガ好イヤウニナッテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ労働組合法デアリ、斯ウ云フ労働爭議調停法デアラナラバ、現在ノ労働團體ノ狀態及行動ニ委シテ、在ルガ儘ニ棄テ置ク方ガ、労働團體ニハ都合ガ好クシテ、其發達ヲシテ行クノニ便宜デアラウト思フ、労働團體ガ希望スル所ハ、斯ウ云フ組合法等ノ要求ヲシテ居ルノデハナクシテ、モウ少シ根本的ニ労働條件ヲ改善シ得ラレ、發達シ得ラレル所ヲ冀ッテ居ルノデアリマス、獨リソレハ労働者側カラ考ヘルバカリデナク、國家産業ノ立場カラ考ヘマシテ、却テ斯ウ云フ法ガ施行サレマシテハ、手續ガ煩瑣ニナリ、寧ロ産業發展ノ上ニ於テ、利益デハナカラウト思フノデアリマ

ス、大體労働者ガ色々要求ハシマスガ、今日労働者ガ要求スルカラト云ッテ、労働者側カラバカリ見ル譯ニハ行カナイ、労働者ノ要求ト云フモノハ、國家産業ノ發展ト云フ立場カラ考ヘテ、労働者ノ要求ガ至當デアルカナイカト云フコトヲ決メルヨリ致方ガナイノデアリマス、而シテ労働者ガ要求スル窮極ノ目的ハ、團結權ト云フコトニアル、色々要求ガアリマスガ、要スルニ團結權ト云フコトニナルダラウト思フ、今日ノ狀態カラ言ヒ、又國家産業ノ將來カラ考ヘマスレバ、労働者ノ團結權ヲ確認シテ、之ヲ自由ニ行使セシメント云フコトガ、國家産業ノ將來ノ發展ニナクテハナラナイ事デアリマス、然ルニ此法案ノ全部ヲ通ジテ見マス、團結權ノ自由ヲ伸バシテ居ルノデナクシテ、之ヲ束縛スルコトニナッテ居リマス、是ハ少シ各論ニ入ルヤウデスガ、細カイ事ハ言ヒマセヌガ、第一ニ組合法ノ第一條ノ同一又ハ類似ノ職業ト云フコトニ限定ヲシテシマッタコト、而シテ聯合ヲ認メナイト云フコト、成程聯合ヲ認メナイト云フコトハ、附則ニハ現在ノ組合ハ六箇月以内ニ屆ケレバ認めラルト云フコトハアリマスケレドモ、是カラ起ル所ノ聯合團體ハ、之ヲ認めナイト云フコトニナルカラ、現在アルモノ以外ニハ、サウ云フモノハ止メサセラルコトニナル、且又現在ノモノモ、六箇月以内ニ屆ケレバ許サレルノデアリマ

セウガ、何カノ場合ニソレガ解散ラスルコトヲ要求サレ、其組合ガ解散シテシマウ、サウスルト二度目ニ新シク之ヲ作り變ヘル時ニハ、今回ノ組合法ニ依テ捺ヘルノデアリマスカラ、若シ政府ガ現在ノ聯合ト云フコトヲ認めナイ趣旨ヲ徹底シヤウト云フ風ニ取扱ハレマスト、結局ハ現在ノ聯合ト云フモノモナクナッテシマウコトニナル、茲ニ附則ニ現在ノモノダケハ除外例トシテ認めルヤウニナッテ居リマシテモ、將來ニ於テソレ等ノ聯合團結ト云フモノハナクナッテシマウト云フコトノ憂ヲ懷カザルヲ得ナイノデアアル、縱ンバソレハ保障サレテ其儘トシテモ、將來ニ於テ此聯合組合ガ出來ナイト云フコトニナルノハ、即チ團結權ノ自由ヲ破ル、團結ハ成ルベク大キク、成ルベク廣ク固マルコトニ依テ、始メテ團結權ト云フモノガ擴大セラレ、自由ニナリ、而シテソレガ産業發展ノ基トナルノデアリマスガ、ソレヲ茲ニ認めナイト云フコト、ソレカラ第一條ノ同一又ハ類似ノ職業及聯合ヲ認メナイ點ニ付テ言ッタノデアリマス、面倒デアリマスカラ皆一緒ニ言ヒマスガ、ソレカラ第十四條ニ於テ、労働者ガ労働組合員デアルカラト云ッテ、僱傭者ガ之ヲ解雇スルト云フ意思表示ハ無効ダト云フ、然ルニ社會局ノ原案ノ時ニ於キマシテハ、若シ僱傭者ガ——労働者ガ労働組合員デアルガ爲ニ雇ハナイトカ、或ハオ前ガソレヲ拔ケテ來レバ

雇ウテヤルトカ云フヤウナコトヲシテハイカスト云フコトヲ、第十一條ニ規定シタト共ニ、之ニ對スル僱傭者ニ對スル制裁規定ガアッタ、所ガ今度ハ制裁規定ヲ抜イテシマッタノデアリマス、制裁規定ヲ除カレルト云フコトハ、是ハ労働者ニ取ッテハ非常ナ不便ナルノデアリマス、序ニ伺ッテ置キマスガ、此第十四條ヲ存置シテ、若シ是ガ成立ッテ行クナラバ、第十四條ニ關スル僱傭者ノ制裁規定ヲ設ケル意思ガアルカナイカト云フコトモ一ツ伺ッテ置キタイト思ヒマス、ソレカラ社會局ノ原案ノ第十二條ニハ、團體交渉ヲ規定シテ居リマスガ、今度ハ全體取ッテシマッタ、ソレ等ハ全然否定スルノデアリマスガ、實際上ノ問題デアリマスカラ、特別ニ規定シナクテモ宜シイト云フコトニナリマスガ、原案ニアッタモノヲ何故取ッタカ、態前ニ入レタモノヲ取ルニハ及バナカラウト思ヒマス、ソレカラ法人ノコトデアリマスガ、全部法人トシテ、此法人ノ強制ヲシテ居リマスガ、法人ノ強制ト云フコトハ、是ハ名ヲ監督ニ藉リテ、サウシテ内部ノ狀況、財産狀態ヲスツカリ政府ガ知ッテ、其取締ニ便利ニナルノデアッテ、所謂一種ノ「ブラックリスト」ヲ拵ヘテ置キヤウナモノデアアル、労働團體ニ取ッテハ有益デナイ、小サナ組合ナゾデハ、サウ云フ煩瑣ナ手續ヲシテ、面倒ナ事ヲヤラレテハ面倒デアルト云フノデ、法人ニナルコトヲ

欲シナイ、欲スルヤウナ大キナ團體ナ
ラソレヲ屈出テ、登記ヲシテ、色ミナ事
ヲヤラレテハ叶ハナイト云フコトニナ
ルノデアリマス、第十六條ノ報告ノ規
定ノ如キモサウデアリマス「其ノ業務
若ハ財産ノ狀況又ハ組合員ノ員數ニ關
シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得」是ハ平
常ノ場合ニ於テハ何モナイガ、勞働爭
議ガ起ツタ場合ニ、突如トシテ財産ノ狀
況、組合員ノ員數等ノ報告ヲ強制シテ
出サシムルト云フコトニナルト、スッカ
リ内部ノ事ガ分ルノデ、勞働者ニ取ッテ
ハ爭議ノ進行上、斯ノ如キ不利ハナイ
ノデアリマス、而シテ遂ニ解散迄モヤ
リ得ルト云フコトニナツテ居リマスガ、
是等ハ勞働團體ニ取ッテ不利デアル、資
本家ニ取ッテハ非常ニ有利デアル、爭議
調停法ノコトデモ、此點ヲ一二中上ゲ
タイノデアリマスガ、ソレハ一寸切ッ
テ、モウ一度御尋ヲ致シマスガ、要スル
ニ總テカラ觀マシテ、餘リ勞働者ノ爲
ニナラナイ、是ハ寧ロ資本家ノ方ニ便
利デアル、勞働組合員、勞働者ノ保護助
長ノ爲ニ拵ヘル法律デアルナラ、何故
ニ斯ノ如キ基礎ノ上ニ立ッテ御拵ヘニ
ナツタカ、大變後戻リスルヤウデアリマ
スガ、私ハ居タリ居ナカッタリシテ居リ
マスカラ、伺ハナカッタ點モアリマスノ
デ、之ヲ伺ッテ置キタイ

○鈴木政府委員 只今ノ安藤サンノ御
質問ニ對シテ、便宜上私カラ御答シテ、
尙ホ細イ事ハ社會局長ヨリ答辯ヲ申上

ゲルコトニ致シマス、安藤サンノ御話
デハ、此組合法ハ勞働者ニ不利デアッテ、
資本家ニ有利デアル、斯ヤウニ一概ニ
御論斷ニナツタノデアリマスクレドモ、
私共ノ考ト致シマシテハ、此組合法中
ニ、勞働者ニ有利ナル規定ハ隨分澤山
アルノデアリマス、ノミナラズ勞働者
側ニ於テモ、最初ノ此法案ノ内容ガ公
表サレナイ時分ニハ、可ナリ反對ノ氣
勢ガ猛烈デアリマシタクレドモ、内容
ガ明カニナリ、又色ミ面會ヲ致シマシ
テ、其趣旨ノアル所ヲ説明シテ見マス
ルト、大分諒解シテ來タヤウニ私共ハ
思フノデアリマス、而シテ一面ニ於テ
資本家側ハ、此勞働組合法ハ勞働者側
ニノミ有利デアッテ、日本ノ産業ヲ破壊
スルカノ如ク解シテ居ル、其現ハレノ
一端トシテハ、本日質問サレタ多木久米
次郎君ノ御話ノ如キハ、其一例ト觀テ
差支ナイカト思フノデアリマス、斯ノ
如キ次第デ、成程勞働者側ニモ今尙ホ
反對ガアリマセウ、併シ資本家側ニモ
反對ガアツテ、ソコデ長岡長官カラ申シ
マシタ如ク、兩者共ニ賛成スル、又兩者
共ニ反對スル、其處ニ一種ノ眞理ガ存
シテ居ル、所謂公平無私ナル立法ト云
フコトガ出來ルモノデアルト云フ答辯
ヲ致シマシタガ、私共モ實ハ左様ニ考
ヘテ居ル譯デアリマス、而シテ安藤サ
ンノ御話中ニ此組合法ハ團結權ヲ束縛
スルモノデアル、其例トシテハ、第一條
ニ同一又ハ類似ノ職業又ハ產業デアッ

テ、勞働組合ヲ作ラナクレバ認メナイ
ノデアルカラ、其點ニ於テ遙ニ範圍ガ
狭クナツタモノデアル、而シテ尙ホ又聯
合ニ付テ之ヲ認メナイト云フコトハ、
尙ホ更範圍ヲ狭クスルモノデアル、斯
ウ云フ御話デアリマスルクレドモ、第
一條ダケヲ御覽下サレバ、成程一見窮
窟ナヤウニ御解釋ニナルカ知レマセヌ
ケレドモ、第一條ニハ原則ヲ掲ゲテア
リマシテ、更ニ第十二條ニハ「左ニ掲ク
ル者ハ勞働組合ノ組合員トナルコトヲ
得」トシテ可ナリ廣汎ニ互テ茲ニ例外
規定ガアリマスノデ、隨テ只今仰シヤッ
タ程窮窟ナモノデナイト云フコトヲ御
諒承ヲ願ヒタイ、ソレカラ聯合ニ付テ
ハ、是ハ重大ナ問題デアリマスカラ、隨
テ屢質問モアリマシタガ、此法律ハ御
存ジノ通り、聯合ニハ唯法人格ヲ與ヘ
ナイト云フダケデ、事實上聯合ハ認メ
テ居ルノデアリマス、唯法律ニ依ラザ
ルガ爲ニ、此法律ニ依テ受クベキ利益
ト申シマスカ、保護ト申シマスカ、ソ
レハ受ケナイト云フコトニナルノデ、
事實上ノ聯合トシテハ些トモ差支ナイ
ト思ヒマス、而シテ現在ノ勞働界ノ狀
態ハ、別ニ法人格ヲ以テ活動シテ居ル
ノデアリマセヌ、法人格無シニ活動
シテ居ッテ、別ニ不便モ感ジテ居ナイノ
デアリマス、今日ノ勞働組合ノ中デ、法
人格ヲ持ッテ居リマスノハ、海員協會ト
横廠工友會ノ二ツガ法人ニナツテ居ル
ダケデアリマス、是ハ聯合デハアリマ

セヌ、單一組合デゴザイマス、而シテ聯
合體ハ法人デ組織ヲシテ居リマセヌ
デ、何等不便ヲ感ジテ居ナイト云フ點
カラ見マシテ、格別其點ハ勞働組合ノ
運動者ニ對シテ、不利益ヲ與ヘルトハ
考ヘテ居ナイノデアリマス、ソレカラ
「フアンド」ノ關係等ニ付キマシテ、先
日清瀨君ナドカラ御質問ガアリマシ
テ、寧ロ聯合ニ法人格ヲ與ヘル方ガ必
要デナイカト云フ御議論ガアリマシタ
クレドモ「フアンド」ノ事ハ色ミニ調ベ
テ見マシタガ、本日ノ或ル新聞ヲ見マ
スト、野田ノ醬油釀造ノ勞働組合ナド
ハ、色ミナ「フアンド」ヲ集メマス、約
四十萬圓ニモナルト云フ記事ガゴザイ
マシタ、是ハ私聯合デナク、單一組合ノ
ヤウニ讀ンデ居リマス、而シテ又二十
萬圓ヲ有シ、或ハ五萬圓ヲ有シテ居ル
云フヤウナ勞働組合ハ、何レモ聯合ニ
アラズシテ、單一組合デアリマシテ、勞働
組合ノ聯合ニハ、餘リ「フアンド」ガ無イ
ノガ常態デハナイカト推測致シマス、是ハ
違ッテ居ルカモ知レマセヌガ、清瀨サ
ンハ其方ガ必要ダト仰シヤルクレドモ、
單一組合デ會費ヲ取ッテ、其中カラ更ニ
聯合體ニ出シテヤルノデアリマス、ト、
大變金ガ餘計要リマス、而シテ聯合體
ハ多ク提携運動ト云フヤウナ形ニ於テ、
勞働運動ヲヤルコトニナリマスカラ、
左程其點ハ必要デ無イノデハナイカト
云フ考ヲ持ッテ居リマス、ソレカラ第二
ノ御質問ハ、第十四條ニハ罰則ヲ拔イ

テアルガ、不都合デハナイカ、社會局原案ニハ罰則ガ有ツタデハナイカ、如何ニモ御説ノ通りデゴザイマス、併ナガラ是ハ各種ノ機關ニ掛ケテ諮リマシタ結果、斯様ナ司法的ノ意思表示ニ付テハ、別ニ罰則マデヲ以テ臨マンデモ宜カラウ、唯其效果サヘ無効ニスレバソレデ足ルデハナイカト云フ意見モゴザイマシタ、政府ト致シマシテハ、其意見ニ依テ罰則ダケハ附ケヌコトニ致シマシタ、ソレカラ第三ノ團體協約ノ件デゴザイマスガ、是ハ前ニ社會局長官カラ述ベマシタ通り、今日迄團體協約ヲ結ンダ――

労働争議ノ結果トシテ左様ナモノヲ結ンダ事例ト致シマシテハ、大阪ノ川北電氣會社ノ争議ガ一件アリマス、其他ニハ今日迄アリマセヌ、ノミナラズ社會局案ニハ一遍ゴザイマシタガ、是ダケデハ十分デアルカラ、別ニ單行法ヲ以テ制定スルト云フ趣旨ヲ申上ゲマシタノデ、此團體協約ヲ作リマシテモ、ソレハ一ツノ債權關係者トシテ私ハ有效デアラウト思フ、是ハ清瀬サンナドノ御専門デアリマシテ、又是カラ色ミ議論ノ花ガ咲クト困リマスガ、債權關係トシテ有效デアラウト存ジマス、唯其效果ガ團體協約ト云フ一ノ債權關係ヲ結ンダガ爲ニ、個々ノ労働者ト雇傭者ノ間ニ結ンデアル個々ノ契約ガ有效デアルカ無効デアルカト云フ、其點ダケハ法律デ規定シナケレバナラヌ筋合ノモノデアル、結リ團體協約ノ效力ガ、個々ノ労働契約ニ

及ブヤ否ヤト云フ其點デアラウト存ジマス、之ヲ規定スルニ付キマシテハ、唯ソレダケノ一箇條ヲ突然掲ゲタダケデハ、實際上ノ運用ニ甚ダ迷惑ヲスルノミナラズ、餘リ有效デモナイト云フ所カラ、是ハ別ニ單行法ニ譲リ、而シテ社會事相トシテ團體協約ト云フヤウナモノハ、餘リ日本ニハ無イノデアリマスカラ、サウ是ト同時ニ急イデヤラヌデモ、サウ云フ現象ノ現レタ時、段々其必要ヲ感じテ來ルノデアリマスカラ、近キ將來ニヤルコトニ致シマスレバ差支ナイデハナイカ、斯ウ云フ趣旨カラ除キマシタ次第デアリマス、第四ノ御質問ハ、法人トスレバ内容ヲ容易ニ外部ニ知ラレルコトニナルカラ、隨テハ労働組合ノ「ブラックリスト」ヲ作ルヤウナ結果ニ終ルモノデハナイカト云フ御議論デゴザイマシタ、ソレハ多少サウ云フ傾ヘアラウト存ジマスガ、法人トナルコトニ依テ、權利義務ノ關係ガ極メテ明白ニナル、此點ニ於キマシテ、労働組合内部ニ於テ色ミナ財産上ノ疑問ヲ惹起シ、或ハ紛擾ヲ起スト云フヤウナコトハ、極メテ少クナルノミナラズ、此財産ヲ普通ノ組合デハ、其代表者ガ死ンダ時、何人カノ名義ニ變ヘルト云フコトニ付テ面倒ガゴザイマスガ、法人デアレバ、其點ハ極メテ樂デアリマス、法人ハ死ニマセヌカラ――斯様ナ點カラ考ヘマスト、餘程便利デハナイカト思ヒマス、而シテ小サイ組合ハ法人ニナルノガ

面倒ダ、是ハ如何ニモ左様カト存ジマスガ、一體労働組合ナドハ、餘リ少數デハ效果ガナイモノデ、別ニ多數ヲ欲スル趣旨デハアリマセヌガ、左程少數ノ組合ニ眼ヲ著ケヌデモ宜イデハナイカト云フ考ヲ持ッテ居ル次第デゴザイマス、而シテ第十六條ノ内容ノ報告義務デゴザイマス、是ハ報告ヲ爲サシムルコトヲ得ト云フノデアリマシテ、労働組合ガ必ズ自發的ニ届出或ハ報告ヲシナケレバ、之ニ對シテ制裁ヲ加ヘルト云フ趣旨デモ何デモアリマセヌ、成程御説ノ通り労働争議ノ最中ニ、色ミナ報告ヲ徵サレルト云フコトハ、迷惑至極ノ事デアリマス、此點ハ當局ト致シマシテ、別段左様ナ場合ニ此條文ヲ振廻スト云フコトハ、重々致サナイ考デアリマスカラ、此點ハ一ツ御諒承ノ程ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、是デ大體御答ヲ致シタカト思ヒマス

○安藤委員 同ジ事ヲ議論ニ互リマスカラ餘リ言ヒマセヌガ、十四條ニ付テモ、唯雇傭者ニ對シ労働組合ノ組合員タルノ故ヲ以テ爲シタ解雇ハ無効トスト云フ、其原則ヲ示シテ置ケバ宜シイト云フ鈴木參與官ノ御答デアルガ、併シ實際労働團體ヲ保護スルト云フコトガ必要デアルト云フナラバ、實際上ノ效果ガ伴ハナケレバナラヌ、唯サウデアッタ所デ、資本案ノ方デ、労働組合ニ入ッテ居ル者ハ嫌ダカラ雇ハヌト云フコトニナツテシマヒバ、原則ニアツテモ、被イ資本案ナラバドン――ヤル、或ハ之デ訴訟ヲスルコトニナル、併ナガラ訴訟トカ民法上ノ行爲ニ移セバ、時間ハ掛ル、金ハ掛ル、到底労働者ノ堪ヘ得ナイ事デアアル、結局放リ出シテシマフコトニナツテ、労働者ノ損ニナル、之ヲ刑罰ノ上ニ規定シテ置ケバ、十四條ノ原則デ直ニ罰セラルルノデアアルカラ、労働者ノ方カラ訴訟スルノ何ヲスルノト云フ時間ト費用ト手數トヲ要セナイカラ、ソレ自體ガ罰セラレルコトニナル、三百圓トカ五百圓トカ云フ罰金ハ、大資本案ハ大シタ苦痛デナイデセウガ、刑罰ヲ科セラレタト云フコトガ、資本案ニ對スル制裁ニナルノデアリマスカラ、若シ労働者ヲ保護シ、労働組合ヲ保護スル深切ノ所ガアルナラバ、之ニ制裁規定ヲ附ケテ置クコトガ必要デアラウ、サウデナケレバ是ハ空文ニナリハシナイカ、隨テ資本案ノ方ガ便宜ト云フ譯デハナイデセウカ、労働者ト資本案ト比ベテ見ルト、労働者ノ方ガ詰ラナイ結果ニナルノデアリマス、ソレカラ聯合ニハ法人格ヲ與ヘナイ、是ハ唯法律ニ依テノ便宜ヲ與ヘナイバカリデ、其組合ヲ認メナイノデハナイ、ソレハ勿論サウデアアルガ、然ラバ團結權ノ自由ト云フコトヲ認メテ、ソレヲ以テ國家産業ノ發展ニ資セヤウト云フナラバ、認メテモ宜シイデハナイカ、何故ニ之ヲ認メナイノデアアルカ、寧ろ是ハ一歩進メテ認メテ貰ッタ方ガ

——皆シナ法人格ヲ與ヘタ方ガ宜クハ
 ナイカト思フノデアリマス、ソレカラ
 十六條ノ報告ノ義務ニ關スル事モ、今
 私ガ質問シタ事ニ對シテ、參與官ハ
 成程勞働爭議中ニ色々報告ヲ徵收スル
 ト云フコトガアツテハ、勞働者ノ不利ニ
 ナルダラウ、ソレハ御説ノ通りデア
 ル、併ナガラウ云フコトハ重々致サナイ
 積リデアルト仰ッシャルケレドモ、併シ
 今アナタ方ガ重々致サナイト仰ッシャ
 テモ、アナタ方ガ何時マデモ内務省ニ
 居ル譯デハナイ、或ハ居ルカモ知レマ
 セヌガ——人ガ變ッテ來レバ、取扱モ變
 ルト云フコトニナルカラ、斯ウ云フヤ
 ウナ規定ヲ致サナイ方ガ宜クハナイ
 カ、或ハ又明カニサウ云フ意思ヲ表示
 スル規定ニシタ方ガ宜クハナイカト思
 フノデアリマス、ソレカラ是等ハモウ
 少シ論ジテ行キタイガ、後ハ議論ニナ
 リマスカラ此位デ止メマス、一番初メ
 ニ之ヲ公平無私ダト仰ッシャッタ、成程
 公平無私ト云フ御考デナケレバ立案ガ
 出來ナイデセウ、併シソレハ内務省ナ
 リ政府トシテノアナタ方ガ見テ公平無
 私デアツテ、吾ミカラ見ルト不公平有私
 デアル、ト申スノハ社會局ノ原案ト云
 フモノガ出テ、行政調査會ト云フモ
 ノニ半年位掛ッタガ、其間ニ色々世間
 ニ於テ説ガ出タ、輿論ガアツタ、其輿
 論ヲ公平ニ御採リニナツタカドウカ
 ト云フコトデア
 ル、其輿論ヲ公平ニ
 御採リニナツテ居レバ、此立案ガ公平

無私ト言ヘル、所ガ私ノ見ル所デハ、公
 平無私ニ輿論ヲ採ッテ居ラナイ、而シテ
 其輿論ト云フモノハ先ヅ二ツニ分レテ
 居ル、第三者ノ輿論モアリマセウガ、當
 事者トスレバ實業者側、即チ資本家側
 ノ輿論ト、ソレカラ勞働者側ノ輿論ト
 ガアツタ、然ルニ此行政調査會ニ於テ審
 議ヲシテ、最後ノ立案トナルニ至テハ、
 資本家側ノ輿論ヲ悉ク採ッテシマッタ、サ
 ウシテ勞働者側ノ方ノ輿論ヲ容レナカ
 タト云フ結果ニナツテ居ル、是デハ私ハ
 公平無私トハ言ハレマイト云フノデア
 リマス、其實例ヲ一寸簡單ニ申上ゲマ
 スガ、日本ノ實業界ニ於キマシテ、資本
 家團體ニ於テ最モ有力ト稱サレテ居ル
 所ノ工業俱樂部、商業會議所等ノ團體
 ニ於キマシテ、此勞働法案制定ニ付キマ
 シテハ、非常ニ審議ヲ加ヘテ、幾多ノ議
 論ガアツタ、其結果工業俱樂部ナドノ如
 キニ於キマシテハ、勞働組合法案ニ對
 スル所ノ修正意見ヲ作製ヲ致シテ、是
 ガ公表サレテ居ル、其目的ト云ヒ、組合
 ノ範圍ト云ヒ、同一又ハ類似ノ職業ト
 云フコトニ限定シタコト、云ヒ、ソレ
 カラ組合ヲ法人強制ニシタコト、云
 ヒ、ソレカラ第十五條ノ條文デアリマ
 スガ、是モ後デ但書ニハ是ダケノ免責
 規定ニナツテ居リマスガ、後ノ方ハ他人
 ニ生ゼシメタ損害ヲ賠償セシムルコト
 ト云ヒ、此有力ナル實業團體ノ修正意
 見ガ、今度ノ立案ニナツテ出テ來テ居
 ル、是ハ其修正意見トシテ公表サレテ

居ルモノト、茲ニ出テ居ル勞働組合法
 案ト比較對照シテ見マスルト、一目瞭
 然デア
 ル、即チ有力ナル實業團體、資本
 家團體ノ間ニ起ツタ修正意見ナルモノ
 ガ取入レラレテ、サウシテ行政調査會
 ニ於テソレヲ有力ナル參考トシテ結論
 シタノガ此勞働組合法デア
 ル、而シテ是
 ト反對ニ其間生ジタ勞働組合、勞働團
 體等ノ方ノ輿論ヲ餘リ取入レニナツテ
 居ナイ、シテ見レバ是ハ公平無私トハ
 言ヘヌ、公平無私ト云フコトモ解釋ニ依
 リマスガ、目方ニ掛ケテ兩方同ジニ取
 タトハ言ヘナイ、資本家團體ノ方ノ意
 見ヲ最モ能ク御取入レニナツテ、勞働者
 團體ノ方ノ意見ト云フモノハ取入レテ
 居ラヌ、而モ是ガ勞働組合、勞働保護ナ
 ンダ、ソレニ片方ノ資本家團體ノ方ノ
 意見ノミヲ餘計ニ御取入レニナツタト
 云フコトニ至ッテハ、公平無私ト云フコ
 トハ言ヘナイ、議論ニナツテシマヒマス
 ガ、何故ニ左様ナ風ニ御取扱ニナツタノ
 デアルカ、之ヲ一ツ伺ッテ置キタイト
 思ヒマス

○鈴木政府委員 安藤サンノ前段ノ御
 言葉ハ、大體御意見ガ多クタヤウニ存
 ジマスカラ、之ニ就キマシテハ御答スル
 コトヲ遠慮致シタイト思ヒマス、後段
 ノ此法案ハ有力ナル實業團體、即チ資
 本家側ノ意見ヲ餘計取入レテ居ルモノ
 デアツテ、勞働者側ニ餘リ有利デナイ、
 決シテ公平無私ト言ハレナイト云フ御
 意見デゴザイマシタ、而シテ其事例ト
 致シマシテ、第一條ヲ引キ、第三條ヲ引
 キ、第十五條ヲ御引キニナツテ、御議論
 ナスッタノデアリマス、然ル所私共ノ見
 ル所デハ、資本家側ノ意見ハ餘リ餘計
 取入レテナイ、殆ド無イト言ッテモ宜イ
 カモ知レマセヌガ、是レ故ニ資本家側
 ノ反對ガ可ナリ酷イノデアリマス、只
 今御示シノ第一條ノ如キ、所謂職業別
 產業別ノ組合ニシタト云フコトニ付キ
 マシテハ、是ハ資本家側ノ言葉ニ聽イ
 タト云フコトハ、數年前ニ憲政會カラ
 出シマシタ案ガ、大體之ニ似寄ッタヤ
 ナ組立ニナツテ居リマス、清瀬サンナド
 カラ出サレタ革新俱樂部ノ案モ、之ニ
 似寄ッテ居タカト存ジマスルガ、間違ッ
 タラバ後デ取消ヲ致シマス、而シテソ
 レダケデハ尙ホ不十分デア
 ルト云フノ
 デ、更ニ一步ヲ進メマシテ、十二條デ更
 ニ擴張ヲ致シマシタ、此十二條ノ如キ
 ハ、資本家側ノ最モ猛烈ニ反對スル所
 デアル、即チ一條デ原則ヲ掲ゲテ置キ
 ナガラ、第十二條ニハ拔ケ道ヲ置テア
 ルカラ、是ハ殆ド無制限ト同ジヤウナ
 規定ニナツテ居ルト云フ極端ナ議論マ
 デ致シマシテ、反對ヲ致シテ居ル位デ
 アリマシテ、此點ハ決シテ安藤サンノ
 仰ッシャルヤウナ事情ニナツテ居ナイト
 思フノデアリマス、ソレカラ第三條ノ
 勞働組合ヲ法人ニシタト云フノハ、是
 モ數年前ノ憲政會案ガ斯様ニナツテ居
 リマシテ、矢張革新俱樂部ノ案モ左様
 ニナツテ居タカト思ヒマス、決シテ勞

働者側——資本家側ノ言ニ聽イタ譯デモゴザイマセヌ、ソレカラ十五條ノ但書ハ勞働者ノ爲ニ非常ニ有利デアルト云フコトハ、安藤サンモ御認メ下リタノデアリマスルガ、十五條ノ本文ハ、是ハ民法ノ第四十四條ノ第一項ヲ其儘借リテ來タヤウナ關係ニナツテ居リマス、是ハ藏國君デアリマシタカ、先日其點デ御論ジニナリマシタガ、併シ是ハ必シモノレガ惡イト云フ御意見デハナカッタヤウニ思ヒマスガ、斯様ナ法文ヲ作リマスニハ、先ヅ斯様ナ原則ヲ置イテ、而シテ但書デ以テ之ヲ正シテ行ク、即チ制限ヲスルト云フコトガ、法ノ建前トシテハ先ヅ順當ナモノデアルカト存ズルノデアリマスカラ、此精神ノ在ル所ハ、安藤サンモ御諒察ナサルコト、存ジマス、斯様ナ次第デアリマシテ、決シテ資本家側ノ意見ニ聽イタト云フコトノミヲ以テ、此法案ヲ非難サレト云フコトハ、甚ダ私共ノ意外ニ感ズル所デゴザイマシテ、決シテ左様ナ次第デゴザイマセヌカラ、此點ハ惡カラズ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

〔藏園委員長代理委員長席ヲ退キ、森田委員長復席〕

○安藤委員 今鈴木サンヨリノ御話デスガ、議論ニナリマスカラ言ヒマセヌガ、唯一言、資本家側ノ意見ハ殆ド絶對ニ入レテナイト言ハレケレドモ、サウデナイト云フコトダケハ言ツテ置キタイ、工業俱樂部ノ修正案ト云フモノ

ガ、字句迄モ同ジニ這入ツテ居リマス、此同一又ハ類似ト云フコトモ、工業俱樂部ノ修正意見ニキチットアリマス、組合ハ之ヲ法人トスルト云フ強制意見モ、是モソックリアリマス、今十五條ヲ御説明ニナリマシテ、但書ノ方ハ勞働者ノ利益デアアル、本文ハ民法ノ第四十四條ヲ其儘入レタノダト云フ、此民法第四十四條ヲ追加スルト云フコトハ、工業俱樂部ノ修正意見ニキチットアル、ソレカラ營業稅等ノ元社會局ノ原案ノ免除ノ規定、今度ハ登錄稅ダケハ抜イテ、營業稅ナドノコトヲ別ニ規定シテアリマセヌガ、其營業稅ナドニアツタ字句ハ、之ヲ削除スルト云フコトモ、矢張實業團體ノ意見デアアル、第十二條ナドノ削除モ、是モハッキリ此修正意見ニアル、デスカラ私ハ必ズシモ行政調査會ナリ、或ハ政府ナリ、工業俱樂部ナリ、實業團體資本家團體ノ意見ヲソックリ御採リニナツタト云フノデハナイガ、餘程重要ニ參酌ヲシテ御採リニナツテ居ルコトハ事實デアリマス、現ニ文句迄モ同ジ所ガアルノデスカラ——其割ニ勞働者ノ方ハ聽イテ居ラヌト云フコトダケヲ申上ゲテ置クノデス、即チ鈴木サンハサウデナイト前ノ言葉ヲ御否定爲サツタカラ、一言ソレヲ申上ゲテ置キマス、組合ノ方ハソレデ止メマシテ、爭議調停法ニ於キマシテモ、此間カラ連日議論ガ——質問ガ出テ、大體盡サレテ居リマスカラ、モウ申上ゲマセヌ、

唯一二聽イテ置キタイノデアリマスガ、調停法ノ「左ニ掲クル事業ニシテ勞働爭議ヲ發生シタルトキハ」トシテ一、二、三、四、五、六、ト並ベテアリマスガ、是ハ要スルニ公益事業、即チ交通事業トカ、通信事業トカ、供給事業トカ云フ公益事業デアアルガ、第五ニ規定ヲ更ニ致シマシテ「其ノ他公衆ノ日常生活ニ直接關係アル事業ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」トアリマスガ、公益事業デアアルカラ、必要ガアレバ當事者ノ請求ハ縦ンバナクテモ、行政官廳デ調停ヲスル、強制調停ニナツテ居ルノデスガ、併シ勞働者ノ團結權ト云フモノハ、單ニ公益ト云フコトノ名ニ隠レテ、勞働階級ノ團結ノ利益ヲ沒スル理由ハナカラウト思フノデアリマス、公益事業デアアラウト、非公益事業デアアラウト、勞働者ノ團結權ノ及ブ所ハ同ジデナクテハナラヌト思フノデアリマス、殊ニ公益事業ト云ヒマスルガ、其公益ナルモノ、一番及ブ範圍ハ誰デアアルカト云ヘバ、一般民衆、即チ勞働階級ガ一番其公益ノ利益ヲ最モ受ケル所ナンド、ソレデアアルカラ唯公益ト云フコトノ爲ニ調停ヲ強制スルト云フコトハ、感心シナイコト、思フノデアリマス、ソレカラ又今日ノ無論此公益事業ニサウ云フ「ストライキ」ヤ何カガ餘計アルト云フコトヲ私ハ贊成スル譯デハナイ、サウ云フ事ハ甚ダ困ル事ナノデアリマス——困ルコト

デアリマスルカラ、無イコトヲ欲スルノデアアルガ、今日ノ爭議ハ、殊ニ公益事業ナドニ於キマシテハ、一般社會ノ同情ガナケレバ、ソナナ「ストライキ」ヤ何カハ長ク成立ツテハ居ラナイノデアリマス、即チ社會常識社會通念ノ上ニ於テ正義ト認メラレルモノデナケレバ、爭議ヲシテモ勝利ハナイノデアリマスルカラ、斯様ナ事ヲ強制シ、殊ニ第五ニ日常生活ニ直接關係アル事業ハ、勅令ヲ以テ餘程廣イ範圍ニ迄是ガ及ブト云フコトニナツテハ、勞働者保護ト云フ方ノ精神カラ云ツテハ、是ガ矛盾ヲシテ來ハシナイカト云フコトヲ憂ヘルノデアリマス、此點ニ付テノ御意見ヲ伺ツテ置キタイ

○長岡政府委員 只今ノ安藤君ノ御意見ハ、洵ニ御尤ト考ヘマスノミナラズ、考方ニ依リマシテハ、只今ノ御意見ヲモット強ク考ヘル理窟モ成立チ得ルト思ヒマス、ト申シマスルノハ、此公益事業ニ從事シテ居リマスル者ニ付テ、他ト違フタ待遇ヲ受クルコトニ付テ、外ニ何カ利益ガアルカト申シマス、其點ニ付テ寧ロ缺ケテ居ル、即チ電車トカ船舶トカノ同盟罷業ガ起リマス、ト云フト、他ノ紡績トカ鐵工トカト云フ者ノ罷業ト違ヒマシテ、是等ノ事業ハ一般公衆ヲ何トナク敵ニ廻ハスヤウナ傾ガアル、紡績ノ罷業ガアツテモ、一般ノ公衆ハ殆ド我關セズ焉デ、高見ノ見物ト云ツテハ言葉ガ過ギマスガ——ヤツテ居

ルノデアリマス、所ガ電車ガ止マルト、直チニ市民ハ其爲ニ非常ナ脅威ヲ受ケマスカラ、ドウモ「ストライキ」ヲヤルノハ無理ダト云フヤウニ、輿論ガ此方ニ傾キ易イ、此點ニ付テ非常ニ氣ノ毒ナ位置ニナルト云フコトモ言ヒ得ルト思ヒマス、而シテ之ニ反シテ何カ保護ガアルカト云フト、是等ノ公益事業ニ付テハ、何モアリマセヌ、特別ノ保護ヲ受ケズシテ、特別ノ束縛ヲ受クルト云フコトハ、其見方カラ見ルト云フト、不合理デアルト云フ御意見モ立派ニ立チ得ルト思ヒマス、併シ又他ノ方面カラ之ヲ見マス、矢張特別ノ「サーヴィス」ニ服シテ居ル者ハ特別ノ義務ガアル、即チ船員ニ至リマシテハ、矢張勞働狀態ニ於テハ同ジヤウナ狀況デアルケレドモ、併シ何レノ國ニ於テモ、船員ノ航海中ニ擅ニ下船スルト云フヤウナコトヲ禁ジテ居ル、是等ハ港デ殊ニ船員ガ逃ゲテシマヒマス、船ハ立往生ヲシテ、乗客ナリ其他ノ者ニ非常ナ迷惑ヲ及ボスト云フヤウナ所カラ、船員法ノ規定ニ依テ特別ノ制限ヲ受ケル、又官公吏ニ致シマシテモ、寧ロ此待遇ニ付テハ非常ニ薄イト言ヘルト思フ、殆ド吾々ノ收入ト云ヘバ微々タルモノデ、吾々以下ノ位置ニ在ル者ハ、益微微タルモノデアリマス、ケレドモ、此特別ノ服務關係ニアル以上ハ、矢張ドウモ聯合シテ月給ノ増加ヲ迫ルト云フヤウナコトモ出來ナイ、是ハ極端ナ例デ

ゴザイマスルガ、此公衆ノ日常生活ニ直面シテ居ル所ノ仕事ニ從事シテ居ル、所謂「バブリック、ユーチニチー」ニ屬スル事業デアツテ、而モ其事業ガ止マルト云フト、洵ニ公衆ノ日常生活ガ脅カサレルト云フヤウナコトノ「バブリック、サーヴィス」ニ近イヤウナ者ニ對シテハ、特別ノ義務ト云フコトヲ持つテ貰ハスト、今日水道ガ止マレバ、東京デ數百萬ノ人間ガ忽チ其生命ニモ關スルト云フヤウナコトニナリマスルカラ、是等ノ公衆ノ日常生活ニ直面シテ居ツテ、之ガ止マリマスルト、直ニ利害關係ノ無イ第三者ガ其生活自體ヲ脅カサレルト云フヤウナモノニ對シテハ、社會正義ノ上カラ、先ヅ特別ノ義務ヲ負ツテ貰フ、是ハ或ハ道德的ノ議論デ、成ツテ居ラスト云フ御叱リヲ受クレバ夫レ迄デアリマスケレドモ、先ヅサウ云フ公共的、公益的ノ仕事ニ從事シテ居ル者ハ、ソレダケノ事ハ忍ンデ貰ハナケレバイカヌ、隨ヒマシテ是等ニ對シマシテハ、成ベク其待遇ノ點ニ付テ、公共團體ノ豫算ノ點ナリ、其他ノ點ニ付テ監督ヲ加ヘテ、政府自體ハ勿論、徒ニ此義務ノミ負ハセテ、保護ニ於テ缺ケル所ガアツチャナラヌゾト云フ、斯ウ云フ結論デアリマスルト、私共是ハドウモ餘程尊重シナケレバナラヌ議論ト思ヒマス、此點ニ付テハ、將來大ニ留意シナケレバナラスト考ヘマスガ、只今ノ所、保護ニ於テ一般ノ者ヨリ増ス所ガナイノミナラ

ズ、罷業ニ際シテハ直ニ公衆ヲ敵トスルヤウナ傾向ノアル不利益ナ位置ニ立ッテ居ル者ニ義務ヲ負擔サセルコトハ、如何ニモ氣ノ毒ダト云フ考ガ浮ブト云フコトニ付テハ、是ハ洵ニ一理モ二理モアル御意見ト思ヒマスガ、他ノ方面カラ見マシテ、一般ノ公衆ヲ保護スル、日常生活ヲ脅カサレル第三者ヲ保護スル上カラ、是ダケノ義務ヲ特別關係トシテ忍ンデ貰フト云フ立場カラ御諒解ヲ願ヒタイト考ヘルノデアリマス

○安藤委員 今ノ社會局ノ長官ノ御説明デ大分解リマシタガ、私ノ考モ寧ロ此公益事業ニ關係シテ居ル勞働者ハ、其勤務ノ上ニ於テ不斷カラデモ義務的ニ餘計ニ其義務ノ觀念ヲ持つテ、又仕事モ他ノ者ヨリモ義務ヲ増加セラレテ居ル、而モ給與ノ點等ニ於テハ決シテ善クハナイ、而シテ公益デアルカラト云フコトノ名ノ下ニ、勞働團體ノ利益ニナルベキコトヲ、唯之ヲ公益事業ト云フコトノ爲ニ阻止スルト云フコトハ、甚ダ不公平デアルト云フ意味ノ間デアツタノデアリマス、ソレニ對シテ御答ヲ下サイマシタガ、之ニ對シテ私ハ一面ニ斯ウ云フ規定ヲ設ケルナラバ、矢張一面ニ是等公益事業ノ勞働者ニ對シテハ、十分保護ノ途ヲ講ジナケレバナラヌ、且又此強制調停ヲヤルニ付テハ、現ニ片方ニ保護匡救モ其處マデ行ツテ居ラナイノデアリマスカラ、サウシテ公益ト云フ名ノ爲ニ斯ウ云フ事ヲヤラ

レルト云フ今日ノ狀態デアリマスカラ、之ヲ成立セシメルニ付テハ、現在ニ於テ尙ホ攻究シテ考ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス、私ハマダモウ少シアリマスカラ、此處デ一遍打切りマシテ……

○鈴木政府委員 一寸今ノ安藤サンノ御質問ニ對シテ私ノ答辯致シマシタ中ニ、憲政會案ト革新俱樂部案ヲ引キマシタガ、憲政會案ハ「同一又ハ類似」ト云フ言葉ガゴザイマス、革新俱樂部案ハ此處ニ清瀬サンモ御出デ「ゴザイマスガ、是ハ産業別ニモ企業別ニモナツテ居リマセヌカラ、ソレダケ私ハ言損ヒマシタカラ、訂正致シマス

○森田委員長 ソレデハ午後一時カラ時間勵行デ開會スルコトニ致シマシテ是デ休憩致シマス

午後零時二十一分休憩

午後一時十九分開議

○森田委員長 ソレデハ午前ニ引續キマシテ開會致シマス、安藤君

○安藤委員 モウ二三點質問ヲ致シタイノデアリマス、午前ニ爭議調停法ノ方ニ這入リマシタガ、一寸組合法ノ方ニ付テ一二點御尋致シテ見タイノデアリマス、團體交渉權ノコトニ付キマシテ午前ニ質問ヲ致シテ、鈴木參與官カラ御答辯ガアツタノデアリマスガ、尙ホ一應伺ツテ置キタイノデアリマスガ、團體交渉ヲ圓滑ニヤルコトハ、即チ資本家ト勞働者トノ間ノ所謂勞働取引デ

アツテ、産業ヲ平和的ニ進メテ行ク上ニ於テハ、最も重要ナル事デアラウト思フ、寧ロ「ストライキ」デアルトカ何トカ云フヤウナ事モ頻々起サナイデ、労働爭議ナドヲ少クシテ、平和的ニ産業ヲ開發シテ行クニハ、團體交渉ガアツテ、圓滿ニ勞資ノ間ヲ進メテ行ク方ガ宜イノデアアル、然ルニ其團體交渉ナルモノ、一部ヲ、社會局原案ニ認メテ置キナガラ、之ヲ抜イタト云フコトガ、ドウモ理解出來ナイノデゴザイマスガ、何故態々抜イタデアリマスカ

○長岡政府委員 是ハ安藤君ノ御不在ノ時ニ、再々私カラ御答申上ゲテ居リマスノデ、簡單ニ申上ゲマス、社會局私案ノ第十二條ニハ、所謂労働協約ノ規定ガアツタノデゴザイマシテ、是ハ吾共ハ團體交渉ト云フコト、團體契約即チ労働協約ト云フコト、觀念ナリ範圍ナリヲ別ニ考ヘテ居リマス、沒交渉デハゴザイマセヌガ——即チ労働組合ガ企業者ニ對シマシテ團體交渉ノ相手方トシテ労働組合ヲ承認スルコトヲ要求スルコトガ、即チ團體交渉權ノ要求ダラウト考ヘマス、此ノ團體交渉ト云フコトニ付キマシテハ、法案ノ中ニ格別ノ規定ハアリマセヌ、社會局私案ニモゴザイマセヌシ、今度ノ政府原案ニモゴザイマセヌガ、併ナガラ労働組合ヲ國家ガ公認致シ、労働組合ガ労働條件ノ維持改善ヲ圖ルコトヲ目的トスル團體デアルト云フコトヲ公認致シマ

シタ以上ハ、大體ニ於テ團體交渉ト云フモノハ間接ニ認メラレテ居ルモノデアル、勿論獨逸デゴザイマシタカノ規定ノヤウニ、労働組合ノ幹部ニ對シテ、爭議ノ際企業者ハ面會ヲ拒絕シテハイケナイト云フ規定ヲ置キマスレバ明瞭ニナリマセウガ、サウ云フ規定ガゴザイマセヌデモ労働組合法ニ於テ公認致シタ以上ハ、團體交渉ノ相手方トシテ企業者ガ労働組合ヲ承認スルコト云フコトハ、當然生レテ來ナケレバナラヌト思フノデアリマス、併ナガラ少數ノ企業者ノ中ニハ、此法案ガ通過致シマシテモ、尙ホ労働組合ノ幹部ノ交渉ヲ拒絕スル者モゴザイマセウガ、法案大體ノ空氣ハ、労働組合ト云フモノヲ否認セザルノミナラズ、大體ノ空氣ニ於テ之ヲ認メテ居ルト御承認ヲ願ヒタイノデアリマス、團體協約ノコトハ團體交渉ノ結果、團體協約ガ生レテ來ルコトモゴザイマセウシ、其他ノ形ニ於テ生レテ來ルコトモゴザイマセウガ、兎ニ角團體交渉ノ結果、團體協約ノ生レテ來ルコトモアリ、サウデナイコトモゴザイマセヌガ、是等ハ原因結果ノ關係ハゴザイマセヌガ、觀念ニ於テモ範圍ニ於テモ、餘程相違ガアルモノト承知致シテ居リマス、成程舊社會局私案ノ第十二條ニハ、只今御示シノヤウナ規定、即チ團體協約ヲ結ンダ場合ニハ、之ニ相反スル個ノ雇傭契約ハ無効トスルト云フコトハゴザイマセヌガ、是ハ労働協約即チ團體

協約ノ事ヲ規定シタノデゴザイマス、此事ハ規定ノ必要ガアルカドウカト申シマス、再々私カラ申上ゲマシタヤウニ、只今唯一ノ例ハ株式會社川北電氣製作所ト労働組合純向上會ノ間ニ、大正十四年九月四日ニ結バレタ一ツノ協約ガアルダケデゴザイマシテ、マダマダ社會現象ト致シマシテハ、急ニ法規ヲ以テ制定シナケレバナラヌト云フ程切迫致シタトハ考ヘラレヌト云フノガ一ツ、今一ツハ若シ之ヲ置カナケレバナラヌトスレバ、舊社會局私案ノ第十二條ト云フヤウナ唯一ツノ法文デハ不満足デアリマシテ、外國ノ法制ヲ調べテ見マシテモ、團體協約ニ關スル立法ハ、労働組合ニ關スル立法ト別ニ法制ヲ出シテ居ル、組織ヲ異ニシテ作ッテアルト云フノガ普通ノ例デゴザイマスカラ、此際強テ労働組合法ノ中ニ唯一箇條ノ團體協約ニ關スル規定ヲ置ク必要モナシ、又置クトスレバ是ハ不十分デアル、又社會現象ト致シマシテモ、廣イ日本ニ一ツノ事例ガアルダケデゴザイマスカラ、團體協約ニ關スル法制ハ尙ホ篤ト研究ノ上ニ別個ノ單行法ヲ以テ將來制定致シタ方ガ便利デアル、此趣旨ニ付テ決シテ否認致スト云フ考デハゴザイマセヌガ、労働組合法ノ中ニ木ニ竹ヲ接グヤウニタッタ一ツ入レテ置クヨリモ、十分ナ規定ヲ他日單行法トシテ制定致シタ方ガ適當デアラウト云フ趣旨ニ基キマシテ、舊社會局私

案第十二條ニゴザイマスヤウナ規定ハ、今回ノ提案カラ抜イタ次第デゴザイマス、宜シク御諒承ヲ願ヒマス
○安藤委員 サウシマス、詰リ團體交渉ノ趣意ハ、決シテ組合法ニ於テ否認シテ居ラナイ、寧ロ自然ニ認メテ居ルト云フノデスナ
○長岡政府委員 團體交渉ハ……
○安藤委員 續イテ伺ツテ置キマスガ、團體協約ニ關スル立法ハ新聞ナドニ傳ヘラル、所ニ依リマス、引續イテ來年アタリ提案スルト云フヤウナコトデアリマスガ、サウ云フヤウナ風ニ政府ノ方針ガナツテ居リマス、如何デゴザイマス
○長岡政府委員 此法制ニ付キマシテハ、内務省ニ於キマシテ目下調査ヲ進メテ居リマス、近キ將來ニ於テ實現致シタイト云フ考ハゴザイマスケレドモ、必ズ來期議會ニ提出スルト云フ御約束ヲ申上ゲルコトハ、今日ハ致シ兼ルノデゴザイマス、成ベク來期議會ニ提出致シタイト考ヘテ居リマス
○安藤委員 ソレデハ其事ハソレニシテ置キマシテ、此労働組合ハ何カノ場合ニ於キマスレバ、團結ヲシマシテ資ナラヌノデスガ、平素ノ場合ニ於キマシテハ労働組合ノ機能ト云フモノハ、相互ノ扶助、共濟或ハ修養ト云フヤウナコトニアラウト思フノデアリマス、現ニ御提出ニナリマシタ組合法ノ第二

條ニモ、組合員ノ共濟、修養其他共同利益ノ保護増進ヲ目的トスルアリマスカラ、是ハ明カデアリマス、サウ致シマス共同利益ノ保護増進ヲシ、平素ニ在テ相互扶助ヲ致シマスナラバ、茲ニ適度ノ營業ト云フヤウナコトモ認メル方ガ至當デハナイカ、サウスレバ隨テ營業稅ヲ免除スルト云フコトモ至當デアラウト思フデアリマス、現ニ産業組合デハ營業稅所得稅ト云フヤウナモノハ課シテ居ラナイ、中産階級ヲ主トスル所ノ産業組合ニ於キマシテ、是等ノ免稅ヲ設ケルニ拘ラズ、勞働階級——下層階級ト言ッテ宜イカドウカ知ラヌガ、勞働階級ノ勞働組合ニ對シテハ營業稅ノ免除ヲシナイ、唯登錄ヲスル場合ニ登錄稅ノ免稅ダケヲスルト云フコトハ、是ハ寧ロ其均衡ヲ失シテハ居ラナイカ、勞働階級ノ爲メ寧ロ其均衡ヲ失シテハ居ラナイカト思フデアリマス、而モソレガ社會局ノ原案ニ於キマシテハ、營業稅等モ免除スルコトニナツテ居ッタニ拘ラズ、最後ニ御提出ノ案ニ至テハ、登錄稅ダケノ免除デアツテ、營業稅等ヲ除イテシマッタト云フノハ、此間均衡ヲ失シヤシナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、是モ或ハ質問ガ出タカモ知リマセヌガ、簡單ニ御説明ヲ願ヒタイ

熱心ナ御主張ガゴザイマシテ、勞働組合ガ爭議ノ資金ヲ準備スル爲ニ、平素營利事業ヲ營ムト云フコトハ、寧ロ保護スベキモノデアラウ、斯ウ云フ御意見モ出マシテ、洵ニ是ハ尊重スベキ御議論ト拜聽致シテ居リマシタガ、政府ノ原案ニハ共同利益ノ保護増進トアルノミデアリマシテ、共濟的ノ施設デアリマス、講義ヲ致シマス、講義ヲ開キマス、機關誌ヲ發行シテ與望ヲ得ルトカ云フヤウナ、修養共濟ニ關スル事業ハ認メテ居リマス、是ハ勞働組合ガ勞働條件ノ維持改善ヲ圖ル團體デアリマス、營利行爲ヲ爲スト云フコトハ、目的ノ上カラ言ッテ面白クナイノミナラズ、過日來申上ゲマシタヤウニ營利事業ハ得ラヌ場合モアリマス、損ヲスル場合モ可ナリ多イデアリマス、今日ノ勞働者ノ經驗ニ依リマス、今日ノ勞働者ノ經驗ニ依リマス、寧ロ損ヲスル場合ガ多イデアリマス、折角會員ガ粒々辛苦積立テマシタ組合ノ資金ヲ、營利事業ヲ爲ス事ニ依テ之ヲ失フト云フコトハ、却テ組合自體ノ爲ニ不利益ヲ來ス場合モアルノデゴザイマシテ、此事ハ私ハ決シテ架空ノ議論ヲ致シテ居ルノデハゴザイマセヌ、大正十一年ノ頃ハ勞働組合ニシテ營利事業ヲ營ムモノガ相當ゴザイマシタ、例ヘバ大阪ノ印刷工組合ガ自ラ印刷部ヲ設ケマシテ、或ハ宣傳ビラヲ印刷致シマス、トカ、

色々ナ事ヲ引受ケテヤッテ居リマシタ、又大阪ノ友禪工組合ガ自ラ友禪工場ヲ經營シタ事モゴザイマス、其外芝浦勞働組合ガ自ラ製作所ヲ經營シタ事モゴザイマス、色々ノ例ガアルノデゴザイマス、如何致シマシテモ今日迄ノ勞働者ノ經驗及資産狀態デアリマシテハ、斯ル營利事業ヲ致シマシテ他ノ大資本ヲ擁シ、十分ノ經驗ヲ持ッテ居ル者ト競争ヲ致シマシテ、利益ヲ舉ルト云フコトニ立至リマセヌ、是等ノ例ハ悉ク失敗ニ終リマシテ、今日解散ノ憂目ヲ營メテ居リマス、今日營利事業ヲ組合ニ認メル云フコトガ、今日ノ勞働者ノ經驗カラ申シマシテ必ズシモ組合ノ利益デアルト考ヘテ居リマセヌ、併ナガラ共同利益ノ増進ノ爲ニヤル仕事ニシテ、其結果利益ヲ受ケルト云フ事ガアリマシテモ、是ハ禁ズル意志ハナイノデゴザイマス、其目的ガ初カラ繼續シテ營利ヲ目的トスル事業デアリマセヌケレバ、共同利益ノ保護増進ヲ圖ル目的ノ事ハ、何モ必ズシモ常ニ損失ヲシナケレバナラヌト云フ事モゴザイマセヌカラ、目的ガ此共同利益ノ保護増進ニアリマス、其結果トシテ組合ガ利益ヲ享有致シマシテモ、差支ナカラウ、過日モ例ヲ舉ゲマシタガ、今日ノ市町村制、府縣制ニ於キマシテハ市町村、府縣公共團體ノ營利事業ヲ認メテ居リマセヌ、併ナガラ事實公共團體ノ公共ノ利益ヲ増進スル目的デ營

ミマシタ事業デ、或ハ電車トカ電氣ノ經營トカ云フヤウナモノデ、二割以上ノ利益ヲ舉ゲテ居ル例モアリマス、目的ガ共同利益ノ保護増進デアリマシテ、其結果利益ガ舉ルト云フコトハ決シテ法ノ認メナイ所デアリマセヌケレドモ、初カラ營利ヲ目的トシテ繼續的ニ營業ヲ致スト云フコトハ、今日ハ認メテゴザイマセヌ、隨テ營業稅ノ免除ノ規定ヲ省イタ次第デゴザイマス

○安藤委員 ソレハソレダケニシテ置キマシテ、更ニ午前ニ爭議調停法ニ付テ、公益事業ノ強制調停ニ付テ質問ヲ致シマシタガ、モウ一點御尋ラシテ置キタイノハ第十九條デアリマス、是ハ爭議調停法案ガ本會議ニ提出ニナリマシタ時ニ、本會議ニ於キマシテ私ガ質問ヲ致シマシテ、内務大臣カラ答辯ヲ得マシタガ、ソレデハドウモ要領ヲ得マセヌカラ、モウ一應御尋ラ致シテ置キタイノデアリマス、第十九條ノ規定デアリマス、其第一、第二トアリマシテ、第一ハ使用者側ニ對シテ調停期間中ニ作業所ノ閉鎖トカ、作業ノ中止ヲセシムルヤウナ勸誘ヲシテハイカスト云フ、第二ハ勞働者ニ對シテ調停期間中ニ勞働ヲ中止シ、作業ノ進行ヲ阻害スルヤウナ事ヲ勸誘シテハイカスト云フ規定デアリマス、是ハ文面カラ見ルト、使用者、勞働者兩者ニ對スル勸誘ヲ防止シタノデアリマス、公平ノヤウニ見ユルノデア

○長岡政府委員 只今ノ御質問ニ關聯シタ事項ニ付キマシテハ、本會議ノ席上ニ於キマシテ有馬サンカラ非常ニ御

リマスガ、實際ノ事ヲ言フト偏頗ノ規
定デアラウト思フ、即チ使用者ニハ便
利デアツテ、労働者ニハ不便デアル、現
在ノ労働爭議ト云フモノハ、一ノ資本
家ニ對スル労働團體即チ多數ノ爭議デ
アル、一ニ對スル多數ノ爭議デアル、若
シ將來資本家ガ或ハ「シンジケート」ヲ
組織シ、若クハ「トラスト」ト云フヤウ
ナモノデモドン／＼起ツタ場合ニハ、或
ハ此規定ガ公平ニナルカモ知レマセヌ、
併シソレハ遠キ將來ノ事デアツテ現在
ノ狀態デハ資本家ト云フモノハ單一ナ
ルモノデアツテ、其資本家ニ對シテ他ノ
應援ヲ資本家ガ労働ノ爭議ノ場合ニ借
リル必要ハナイノデアル、之ニ反シテ
労働者ノ方ハ多數ガ集ツテ、團結ヲ固ク
シナケレバ效力ガナイノデアリマス、
而モ「ストライキ」ヲスルトカ何トカ云
フヤウナ事ハ労働爭議ヲ起シテ、機會
ヲ見テ迅速ニヤラナケレバナラヌ、其
機會ヲ見ルト云フ事ガ必要デアルニ拘
ラズ、此場合ニ調停ニ付セラレテ、十五
日間一切サウ云フ事ガ出來ナイ、十五
日間サウ云フ事ガ抑止セラレマス、
非常ニ氣勢ヲ殺イデシマツテ、労働者ニ
取ツテ爭議ト云フモノガ甚ダ不利益ニ
ナリ、且ツ無意味ナモノニナツテシマ
フ、言葉ヲ換ヘテ言ヒマスルト、資本
家ノ方ハ爭議ノ場合ニ現狀ヲ維持シテ
居レバ宜シイ、別ニドウ云フ事ヲシナ
クテモ宜シイ、作業ノ中止トカ、作業所
ヲ閉鎖スルト云フヤウナ必要ハナイ、

現狀維持シテ居レバ宜シイ、隨テサウ
云フ勸誘ナドヲ必要トモシナケレバ、
勸誘スル者モ餘リ無イト云フコトニデ
ル、若シ偶アルトスレバ自分ノ方デ
ヤツテ居ル事業ガ頗ル振ハナイデ、工場
ノ資本家ガ、工場ノ閉鎖ヲスルト云フ
ヤウナ場合ガアルカモ知レヌ、併シソ
レハ極メテ稀ナ場合デアツテ普通ノ場
合ハ資本家ハ現狀維持ヲシテ居レバ宜
シイノデアリマスカラ、勸誘モ必要ト
シナイデ其儘デ宜シイ、併シ労働者ノ方
ハサウハ行カヌ、其爭議ヲ起シテ十五
日間ハ最モ必要ナ期間デアル、實際ノ
勸誘ト云フモノハドウ云フヤウナ勸誘
ヲ拒絕シナケレバナラヌト云フコトニ
ナリマス、結局他ノカラ借リルト云
フヤウナコトモ出來ナクナツテ、「スト
ライキ」ヲ起スコトモ出來ナクナル、團
結ト云フコトガ中々出來ナクナツテ、結
局此規定ト云フモノハ資本家ニ對シテ
ハ便利デアルケレドモ、労働者ニ對シ
テハ不便ニナツテ、神聖ナル労働爭議ヲ寧
ロ無意義ニ導ク所以ニナリマスカラ、是
ハ結局片手落ノ規定デアルト考ヘルノデ
アリマスガ、其點ニ付テハ如何デアリ
マスガ、尙ホ續イテ御尋ヲシテ置キマ
スガ、ソレカラ起ツテ來テ居リマス第二
十二條ノ罰則ノ規定、第十九條ノ違反
シタ時ハ三ヶ月以下ノ禁錮又ハ二百圓
以下ノ罰金ニ處スト云フノデアリマス
カラ、結局是モ資本家ノ方ニハ餘リ必要
ナイノデアリマス、餘リ勸誘ヲスルコト

モナイカラ、此罰則ヲ受ケル者ハ結局
労働者側ノ者ガ三ヶ月以下ノ體刑ヲ受
ケ、或ハ罰金ニ處セラレルト云フコト
ニナルカラシテ、此罰ヲ受ケル者モ亦
労働者ノミニナツテシマウ、是ハ甚ダ不
都合デアアル、若シ此法案ヲ成立セシメ
ルトスレバ十九條ノ如キハ要ラナイモ
ノデアアル、十九條ヲ拔ケバ隨テ二十
二條ノ規定ガ要ラナイモノニナツテシマ
イハセヌカト思フノデアリマス、之ヲ
成立セシムルカ、セシメナイカト云フ
コトハ、私共ノ方ニ於キマシテハ只今
何トモ申上ゲルコトハ出來マセヌカ
ラ、假ニ此法案ヲ成立セシムルトスレ
バ、十九條ノ如キ、二十二條ノ如キハ不
用ニ屬スルモノデアアル、殊ニ爭議調停
法案ヲ假ニ成立セシムルニハ、十九條
二十二條ハ無駄ニナルモノデアルト思
ヒマスカラ、之ヲ何ツテ置キタイノデア
リマス

○長岡政府委員 此點ニ付テハ實ニ安
藤君ノ御立場カラハ御尤ト存ジマス、
殊ニ労働者ノ爲ニ深キ理解ト同情トヲ
持ツテ居ラル、安藤君ノ御立場トシテ
ハ、十九條二十二條無シノ調停法ノ方
ガマダ／＼御氣ニ入ッタラウト考ヘマ
スケレドモ、是ハ先程モ申上ゲマシタ
ヤウニ、公益事業ニ從事シテ居ル者ハ
自ラ別ノ、道德ト言ヘバ道德デアリマ
スガ、義務ヲ負擔スル如キ感ガアル、紡
績工場ニ働イテ居ル者ハ賃銀ヲ得テ働
ク、是ガ間接ニ國家産業ニ貢獻シテ居
ルト云フ自覺モアリマセウガ、先ヅ先
ヅ直接ニハ賃銀ヲ得テ生活ヲ營ム、是
ガ間接ニ國家ノ産業ヲ助長シテ、國益
ヲ増進スルト云フコトモアリマセウ
ガ、併ナガラ此一條ニ列舉シテ居リマ
ス仕事ヲヤツテ居リマス者ハ、例ヘバ電
車ノ車掌ヲシテ居ル、運轉手ヲシテ居
ル、無論是ハ自分ノ日常生活ノ爲ニ賃
銀ヲ得ルト云フコトガ目的デアリマセ
ウガ、併シ是ハ一人ノ資本家ニ雇ハレ
テ居ルト云フ以外ニ、矢張公共ノ爲ニ、
多クノ人ヲ安イ賃銀デ郊外カラ市中ニ
運ブ、此機關ガ止レバ市民ノ生活ガ脅
カサレルト云フヤウナ觀念ハ、官吏デ
ナクテモ、軍人デナクテモ、先ヅ此心デ
公共ノ爲ニ働イテ居ルト云フノガ普通
デアラウト思フ、是等ニ對シテ非常ニ
待遇ニ付テ考慮スルコトガ餘リナクシ
テ、義務ノミヲ強ユルト云フコトハ如
何ニモ見方ニ依リマシテハ殘酷ノヤウ
デアリマスケレドモ、何分一般ノ、何ノ
罪モナイ市民ノ日常生活ガ脅威ヲ受ケ
ルト云フコトニ對シテ、救済ヲ與ヘル
爲ニハ十九條ノ規定ガアリマセヌト困リ
マスと思フ、私ハ決シテ愚痴ヲ申ス譯
デハアリマセヌガ、此社會局案モ餘程
苦心ヲ致シマシタガ、各方面ノ御理解
ヲ願ツテ御満足ヲ與ヘルト云フコトハ、
餘程困難ナ事情ノアルモノデアリマシ
テ、十九條二十二條ノ如キハ安藤君ノ
平素ノ御主張カラ伺ヒマスレバ、無論
御氣ニ入ラス規定ト思ヒマスケレド

モ、先日清瀬君ノ御話ニナリマシタヤ
ウニ、社會立法ハ漸ヲ以テ進マナケレ
バナラヌト云フ御意見ニ、枉ゲテ御賛成
願ヒマシテ、治安警察法十七條ト關聯
シテ居ルトハ私ハ申上ゲマセヌガ、マ
ア十七條廢止ノ法案モ此際提出サレテ
居ルコトデモアリマスカラ、此點ダケ
ハ何卒安藤君ニ於テ雅量ヲ示シテ御贊
成アラムコトヲ切ニ希望致ス次第デゴ
ザイマス

○安藤委員 モウ長ク申シマセヌガ、
只今最後ニ御話ニナリマシタ、勞働者
モ斯ウ云フコトノ道德觀念ヲ持ッテ行
カナケレバナラヌ、殊ニ公益事業ニ當
ル勞働者ハ道德ノ觀念ガ必要デアルト
云フコトハ、是ハ勿論ノコトデアッテ、
私共モ非常ニ同感デアリ、且ツ其必要
ヲ認メテ居リマス、併ナガラ只今最後
ニ御話ニナッタ治安警察法十七條ヲ撤
廢スル時デモアルカラ、先ヅ此十九條
ガ氣ニ入ラヌデモ堪ヘテ貫ヒタイ、私
ハソレガ最モ遺憾デアルト思フ、治安
警察法十七條ノ惡法デアルト云フコト
ハ輿論デアアル、長イ期間掛リマシテ、漸
ク政府ガ積年ノ國民ノ希望デアアル惡法
ヲ撤廢スルト云フ機會ニ至ッタコトハ、
甚ダ喜ブベキコトデアアルガ、ソレヲ除
クデアアルカラ、十九條ノ勞働爭議調停
法ノ方ヲ認メテ置イテ宜カラウト云フ
コトハ、即チ政府ガ自ラ語ルニ落チテ
之ヲ證明シテ居ル、ソレ程ニ治安警察法
十七條ガ惡法デアルト云フコトデ除ク

コトニナッタナラバ、サウ云フモノ、
影ヲ全然認メナイヤウニナッテシマウ
方ガ、社會進化ノ今日ノ大勢ニ徴シテ
當然デハアリマセヌカ、私ガ言フノハ
即チ十七條ガ取レテモ、十九條ノ其黑
影ガ代ッテ認メラルト云フコトデハ何モ
ナラナイカラ、此十九條ノ如キハ最モ遺
憾ト深ク主張シテ居ルノデアリマス、此
點ニ付テモウ一應御答辯ヲ願ヒマス

○長岡政府委員 意見ノ相違ニナリマ
スト甚ダ残念デゴザイマスガ、私ハ治
安警察法ノ十七條ヲ撤廢シタ代リニ、
此十九條ヲ立タタト云フ意味ニ申上ゲ
タノデハゴザイマセヌ、此點ハ過日清
瀬君カラモ御同様ノ御質問ニ對シマシ
テ同様ノ御答ヲ申上ゲテ置キマシテ、
十九條ハ全ク公益事業ニ關係アルモ
ノ、日常市民ノ生活ノ脅威ヲ救フト云
フ趣旨カラ出タモノデアリマスケレド
モ、假ニ十七條ト十九條ト比較シテ
見マシテモ、治安警察法十七條ニ於キ
マシテハ全國ノ勞働者皆敵ヲ受ケルノ
デアリマシテ、其數ハ七百八十萬、千萬
ニ近い者ガ皆此拘束ヲ受ケル、此第一
條ニ列舉シテアリマス事業ノ勞働者ノ
數ハ其割ニモ足リマセヌ、ソレカラ
時期ニ關係シテ申シマシテモ、前ノ十
七條ハ一ヶ月ニ於テ適用ガアッタノデ
アリマスケレドモ、今度ノ十九條ハ僅
カ十五日間ダケシカ適用ガナイノデア
リマス、又舊治安警察法ノ十七條ニ於
キマシテハ、何人ガ煽動誘惑ヲ致シマ

シテモ罰セラレタガ、此十九條ハ僅ニ
第三者、爭議ニ關係ノ者ダケガ煽動誘
惑シテハナラヌト云フコトデ、其範圍
ハ今三ツノ點カラ考ヘマシテ實ニ僅ニ
ナッテ居ル、非常ニ黒イ影ガ殘ッテ居ル
ト仰シヤイマシタケレドモ、黒クハナ
イ、鼠色、灰色ニモナラズ、殆ド白ニ近
イモノガ少シバカリ殘ッテ居ルヤウニ
見ラレマス、斯ウ申シマス先程ノヤ
ウニ問フニ落チズ語ルニ落チルノダ、
御前ハ沒交渉ダ、十七條ト十九條ハ別
問題ダト云ヒナガラ、矢張比較スルチ
ヤナイカト仰シヤルカモ知レマセヌ
ガ、ソレハ飽迄十九條ハ公益事業ニ關
スル一般ノ公衆ノ迷惑ヲ救フ爲ニ出來
タ規定デアリマシテ、十七條ノ代リニ
之ヲ押付ケルモノデハナイ、假ニ兩者
ヲ關聯シテ考ヘマシテモ、今申上ゲタ
ヤウニ非常ニ僅デアリマス、私ハ先日
九牛ノ一毛ト云フコトヲ申上ゲテ清瀬
君ノ御感觸ヲ害シマシタカラ、今日ハ
其文字ハ使ヒマセヌガ、黒イモノガ殆
ド灰色ニモ足ラヌヤウナ白イモノニ
ナッテ殘ルト云フコトデアリマスカラ、
如何ニモ首尾一貫シテ御論究ニナル
ト、二十二條ノ如キハ御氣ニ入りマス
マイケレドモ、ソコガドウモ漸進的ニ
一歩々々社會事業ヲ整理シヤウト云フ
上ニ於テ、餘リ大學教授ノ論ジマスル
ヤウニ理論的ニ當局者トシテハ一徹ニ
進ミマシテハ、事効ヲ擧ゲ難イコトハ
御察シノ通りデアリマス、是ハ理論的

ニ安藤君カラ御追窮セラレマス、私
ハ兜ヲ脱グ外ハアリマセヌガ、唯極ク
懇談的ニ、情實の、情實ト云フトド
ウカ知レマセヌガ、先ヅザツクバラシ
御話シテ、何卒御了解ヲ願ヒタイト云
フ趣旨カラ色々廻リクドイ事ヲ申シマ
シタガ、何卒其意味ヲ御諒察アラシ
トヲ偏ニ切望致シマス

○安藤委員 尙ホ質問ハアリマスガ、
此上ハ議論ニ互リマスカラ、後トハ總
テ略シテ討論ノ場合ニ譲リマス、最後
ニ極メテ簡單ニ二點ダケ簡明直截ニ御
返事ヲ願ヘバ宜イ、内容ニ關シテハ
アリマセヌガ、社會局ハ勞働問題等ニ關
シテ御研究ヲシ、且ソレヲ取扱フ所デ
アル、政府ニ於テモ是ガ唯一ノ權威ア
ル局ニナッテ居リマス、而シテ其社會局
ノ原案タル勞働組合法ハ既ニ昨年出來
マシテ、行政調査會ニ提出サレタ、其結
果半年掛ッテ骨抜キニナッテシマッタ、之
ニ對シテ立案者タル、其權威者タル社
會局長官ハ此骨抜ノ現在出シテ居ル組
合法ニ對シテ御満足ニナッテ居リマス
カ、之ヲ伺ヒタイ

○長岡政府委員 只今非常ニ突込シ
御質問デアリマシタガ、曾テ私が政府
ノ提出シタ法律案ト異ツク意見ヲ持ッ
テ居ッタコトハ事實デアリマス、併シ御
承知ノ通り事務官ナル者ハ大臣政務官
ノ命ヲ受ケ事務ニ從事スルノガ官制ノ
立前デゴザイマシテ、此所ニモ社會局
事務官ガ數名參ッテ居リマスガ、腹ノ中

ヲ聞キマス、勞働立法ノ問題ヲ離レ
マシテ、他ノ社會事業、他ノ社會政策ニ
關シマシテモ、色々ナ意見ヲ持ッテ居リ
マセウガ、是ハドウモ羅馬ハ一日ニシ
テ成ラズ、殊ニ行政官廳トシテハ事務
官ノ意見ハ其面ノ異ナル如ク、十人ガ
十人各々意見ハ違フト考ヘマス、此事
務官ノ個々別々ノ意見ヲ悉ク容レマシ
テハ、是ハ一ノ案ガ纏マリマセヌ、舊參
事會現在ノ法令審查會ヲ御覽下サイマ
スト、隨分意見ガ岐レテ激論ヲ闘ハシテ
居リマス、併ナガラ事務官ノ意見ヲ十
ガ十マデ容レマシテハ、是ハ官廳トシ
テ規律ヲ維持シ、秩序ヲ保ツコトハ出
來マセヌカラ、ソレガ練リニ練ラレテ
政府ノ案トナッタ以上ハ一ノ纏ヅモノニ
ナル、是ハ已ムヲ得ナイ、私個人トシテ
ノ考ヲ御追窮ニナリマシタケレドモ、政
府委員ハ唯政府ノ法律案ニ付テ説明ヲ
致スダケノ權限シカ持ッテ居リマセヌノ
デ、私ノ學術上ノ意見ノ變遷ヲ此所デ講
義ガマシク申シテハ却テ失禮ト思ヒマス
カラ、曾テドウ云フ考ヲ持ッテ、今日ハ
如何ナル意見ニ變ッテ居ルカ、自分個人
トシテノ學問上ノ意見ガ如何ニ變遷シ
テ居ルカヲ申上ゲルコトハ、御遠慮致
シマス、唯政府ト致シマシテハ此提案
致シマシタ法律案ガ、今日ノ日本ノ實
情トシテ適當デアラウト考ヘテ居ルト
云フコトニ御諒承ヲ願ヒタイ

キマシテハ、私、又私ノ方ノ會派ニ於キ
マシテ此骨拔案ニ對シテ、根本的大修
正ヲ致スカ、然ラズンバ廢案シテ否決
ヲ致スヨリ致方ナカラウト思ヒマス、
左様ニ決定シタ譯デハアリマセヌガ、
私ハ左様ニ考ヘテ居リマス、唯一ツ伺ッ
テ置キタイノハ、根本的大修正ヲ爲ス
場合ニ、社會局長官ハ御同意下サイマ
スカ如何デスカ

修正條項ガ御極マリニナリマセヌケレ
バ、政府トシテ御同意申上ゲルトカ御
同意申上ゲヌカト云フコトハ、豫メ御
答申上ゲル時期デナカラウト思ヒマス、
其時ニナリマシテ閣議ノ結果ニ依リマ
シテハ、何レ政府ノ態度ヲ明ニスル時
期ガ來ルト考ヘマス

ト云フ場合ヲ想像シナケレバナラヌノ
デスカ、ソレハドウ云フ意味デサウ云
フ方針ノ立テ方ヲシタノデアリマス
○長岡政府委員 只今ノ御質問ハ過日
清瀬君及栗林君ノ御質問ニ對シテ御答
申上ゲマシタ通り、第一條ハ原則トシ
テ飽迄是ハ殘ルノデアリマシテ、第十
二條ハ例外ト致シマシテ、例ヘバ知識
階級ノ者ノ指導ヲ受ケタイト云フノ
デ、同一ノ職業又ハ産業ノモノデナク
トモ加入サセタイト云フ、組合ノ希望
ガアリマシタナラバ、總會ノ決議ガア
レバ組合ノ自由ニ任セヤウト云フ例外
ヲ置イタノデ、決シテ第一條ノ原則ヲ
覆スト云フノデアリマセヌ、ソレカ
ラ資本家ノ利益ヲ代表スルヤウナ者
モ入ルト云フコトデゴザイマシタガ、
是ハ第十二條ノ但書ニ明ニ「但シ雇傭
者又ハ其ノ利益ヲ代表スル者ハ此ノ限
ニ在ラス」ト書イテアルカラシテ、ソレ
ハ這入レマセヌガ、雇傭者若クハ其ノ
利益ヲ代表スル者デナイ、筋肉勞働ノ
經驗ノ無イ知識階級ノ者デモ、組合ガ
自主的ニ希望スルナラバ入レテ差支ナ
カラウ、又組合ヲ今後穩健ニ發達サセ
ルニハ、從來ノ經驗ニ徴シテ知識階級
ノ者ノ加入ヲ認メタ方ガ宜シカラウト
云フ趣旨ニ他ナラヌノデアリマス、過
日清瀬君カラ然ラバ

「森田委員長委員長席ヲ退キ藏
園理事代リ著席」

○安藤委員 モウ一ツデ終リマス、然
ラバ此勞働組合法及爭議調停法案ニ付
云フ希望ヲ申述ベル以外ニ、具體的ノ

○長岡政府委員 是ハ社會局長官ト云
フ御名指シデアリマシタガ、政府トシ
テノ意見ヲ御聞キ下サイマシタ意味ト
承知致シマス、社會局ハ內務省ノ一部
局デアリマシテ、政府ノ意ニ反シタ行
動ハ事務官トシテ執レル譯ハアリマセ
ヌ、又事務官ハ官廳部内ニ於テ政務官
ノ如ク重キヲ成スモノデアリマセヌ、
是ハ安藤君能ク御承知ノ通りデアリマ
ス、私共事務官ノ意見ヲ申上ゲルコト
ハ此御審議ヲ願フ上ニ於テ何等益ノナ
イコト、考ヘマスガ、政府ノ意見ト致
シマシテハ過日鈴木參典官カラ話サレ
マシタ通り、成ベク原案ノ儘御賛成ヲ
願フト云フコトダケデアリマシテ、個
個ノ條文ニ付テ御修正ノ事ガ御決定ニ
ナリマシタ際ニ、更ニ閣議ニ於テ之ニ
御同意申上ゲルカ、或ハ御同意申上ゲヌ
カト云フコトヲ極メルダケデアリマス、
尙ホ政府ノ希望ヲ聞クノデハナイト云
フ御考デアルカモ知レマセヌガ、今日
デハ成ベク原案ニ御賛成ヲ願ヒタイト
云フ希望ヲ申述ベル以外ニ、具體的ノ

○森田委員長 原夫次郎君
○原(夫)委員 私ハ代議士會、幹部會
ヲ開イテ居ルノデ、ドウモ餘リ造詣ヲ
傾ケル譯ニハ行キマセヌ、大分連日ノ
御質問ニ依テ大變ニ了解シタノデアリ
マスガ、私ノ疑點トスル所ヲ拾ヒ集メ
テ、餘リ意見ヲ附サナイデ御尋致シマ
スカラ、其御積リデ御願致シタイノデ
アリマス、先ヅ勞働組合法ノ方カラ伺
ヒマス、第一條ノ同一又ハ類似ノ職業
又ハ産業ノ勞働者ハ勞働組合ヲ設立ス
ルコトガ出來ルト云フノデ、範圍ガ限
定致サレテアルノデアリマス、然ルニ
第十二條ニ行クト是ガ例外ヲ設ケテ、
雜然トシテ何人デモ之ニ加入スルコト
ガ出來ルト云フコトニ相成ルノデアリ
マシテ、サウスルト第一條デ本則ヲ決
メテ居ナガラ、或ハ資本團體デモ入ル
コトモ出來ルシ、或ハ勞働者若クハ資
本者ニ非ザル者デモ此組合ニ入ルコト
ガ出來ル、極端ニ言ヘバ小サイ勞働組
合ハ却テ資本主側ノ方ガ數ガ多クナル
場合モ想像出來ルノデス、又或ル組合
ニ於テハ全ク勞働者若クハ資本主ニ何
ニモ關係ノ無イ、第三者ガ人數ガ多イ

千入ノ紡績職工ノ組合ガアッテ、是ガ二

千人ノ機械工ヲ加入サセルト云フ總會
ノ決議ヲシタラドウカト云フ御質問ガ
アリマシタガ、極端ノ場合ニハサウ云
フコトモアリマセウ、サウ云フ場合ニ
ハ極端ニ之ヲ法律論ヲ致シマスレバ、
第十二條ニ依テソレハ法律ニ反スルモ
ノデアルトシテ取消モ出來マスルガ、實
際問題トシテハサウ云フ非常識ナ
非常識ト云フノハ組合ノ決議ガ非常
識ト云フノデアリマスガ、態サウ云
フ役所ヲ困ラセルヤウナ、殊ニ手數ヤ
時間ヲ費シテカラカウト云フヤウナ餘
裕ヲ只今勞働者ハ持ッテ居リマセスカ
ラ、斯ル場合ニハ能ク懇々話合ヒヲ致
シマシテ、千人ノ紡績工ハ紡績工ノ組
合ヲ造リ、二千人ノ機械工ハ機械工ト
シテ一ツノ組合ヲ造ル、ソレニ依テ又
事實上聯合ヲ造ッテモ宜イ、即チ利害關
係ノ密接ナ者ガ一ツノ組合ヲ造ルト云
フコトガ利益デアアルカト云フコトデア
リマシタナラバ、大概從來ノ經驗ニ徴
シマスルト話合ヒガ付クノデアリマ
ス、其處ニ行政運用ノ妙味ガアルト云
フコトヲ申上ゲタノデアリマス、然ラ
バ其場合之ヲ法理的ニドウスルカト云
フコトニナリマスレバ、二千人ノ機械
工ヲ加入サセルト云フ決議ハ是ハ不當ノ
モノトシテ、十七條ニ依テ取消スヨリ
外ナイト思ヒマスガ、斯ルコトハ實際
起リ得ナイコト、信ジテ居リマス

清瀬君ナリ栗林君ナリガ問ハレタ所ヲ
重複シテ問フノデハナイ、詰リ原則ヲ揭
ゲテ而シテ例外ノ規定ハ無制限ニナッ
テ居ル、サウスルト例外ノ方ガ超過シ
タ場合ニハドウスルカ、其點ダケデア
ル、ソコデ清瀬君ノ問ハレタ例ヘバ機
械部ト紡績部トアルト云フヤウナ例デ
ハナイノデアアル、ソコデ長官ノ話ニ依
ルト、概シテソレハ行政ノ機能ニ依テ
行政官廳ガ然ルベク按排スルト云フ、
之ニ依テ甘ク運行スルト云フ御答辯デ
アッタケレドモ、此組合法ハソナコト
デ出來テ居ル趣意ノモノデハナイ、組
合ハ法人デアッテ、サウシテ行政官廳ハ
ソナニナリヨク、手ヲ出シテ自由自
在ニヤル、鉛細工ノヤウニサウ干涉出
來ル立テ方デハナイ、ソコデ法律ヲ造
ルニハ未來ヲ想像シテサウ云フ矛盾ヲ
避ケテ置クト云フコトガ、所謂是ハ立
法技術トシテ必要デアアル、例外ノ方ガ
原則ヨリ擴大シタラドウスルカ、此問
題デス此點ヲ伺ヒタイ

○長岡政府委員 只今ノ問題モ先程御
答申上ゲマシタ趣旨ト同ジ理由デアラ
ウト思ヒマス、即チ如何ナル規則ニモ
例外ヲ認メナイト云フモノハナイト云
フコトハ、少シ極端カモ知レマセヌガ、
多クハ例外ハ認メテ居ル、併シ例外ハ例
外デアッテ、例外ガ原則ヲ打破ルト云フコ
トハ許スベカラザルコトデアアル、十二條
ノ決議ガ廣クナリマシテ千人二千人ト
云フコトハ極端デアリマセウケレドモ、
兎ニ角第一條ノ原則ヲ打破ルヤウナコ
トニナリマシタナラバ、是ハ法律問題
トシテハ十七條ニ依テ決議ヲ取消スナ
リ、規約ニ變更ヲ命ズルナリ、適宜ノ處置
ヲスル外ナイ、十二條ノ規定ハ一條ノ例
外トシテ主トシテ、知識階級ノ者ノ指導
ヲ受ケタイト云フヤウナモノニ對シテ
「同一又ハ類似ノ職業又ハ產業」ノ者デ
ナケレバイケナイガ、唯ソレ等ノ者ハ相
當ニ勞働ヲヤッテ居ルノデアアルカラ、ソレ
ニ組合ノ事務ヲモヤラセ、役員モヤラセ
ルト云フコトハ、是ハ事實上不可能ナ
コトデアアルカラ、ソコデ或ル種ノ者ノ
加入ヲ希望スルナラバ入レヤウト云フ
ノデアアル、千人、二千人ト云フコトハ極
端デアアルケレドモ、第一條ノ原則ヲ第
十二條ノ例外ニ依テ打破ルト云フコト
ハ、當然認メザルモノデアルト御承知
ヲ願ヒタイ

○原(夫)委員 サウスルト此例外規定
ヲ擴大シタ場合ニハドウ云フ條項ニ依
テ整理スルカト云フコトヲ御尋シタイ
○長岡政府委員 一條ノ規定ニ在ルモ
ノニ違反スルヤウニナリマシタナラバ
十七條、十八條等ノ違法ト云フ、即チ法
令ニ反スル、第一條ニ反スルト云フコ
トニ相成ルダラウト思ヒマス

○原(夫)委員 ソレハ法令ニ反スルト
云フコトハ、ソレハ法律自身デ許シテ
居ル事柄ハ、法令ニ反スルト云フコト
ニハイカナイト思フノデスガ、能ク其
點ヲモウ少シ承リタイト思フ、何處デ
法令ニ違反スルカ、十七條デハ明ニ法
令ニ違反シタル場合、又ハ公益ヲ害ス
ル場合ニ云フ限定的規定ニナッテ居ル、
斯ウ云フコトデ十七條ヲ適用セラレテ
ハ、大變ナ結果ヲ來スモノト思ヒマス

○長岡政府委員 同ジ事ヲ繰返シテ恐
縮デゴザイマスガ、第一條ハ原則デ、第
十二條ガ例外デアルト云フコトヲ、法
ノ立方トシテ申上ゲマシタ以上ハ、例
外ニ依テ原則ヲ打破ルトハ出來マセ
ヌカラ、第一條ノ趣旨ニ全然相反スル
ヤウニ廣ク十二條ヲ用ヒマスコトハ、
是ハ違法デアラウト解釋シテ居リマス

○原(夫)委員 サウスルト云フト、原
則ト同數位迄ハ例外ヲ認メルト云フノ
カ、或ハドウ云フ制限ヲ其處ニ置クノ
カ、今ノ御説明デハ、洵ニ不明瞭デア
ル、其點ヲ伺ヒマス

○長岡政府委員 之ヲ極ク法律的ニ申
シマスルト、或ハ半數以上トカ云フヤ
ウナコトニ突詰メレバナルカ存ジマセ
ヌガ、諄ク申シマスルヤウニ、社會立法
ハ極メテ常識的解釋、社會ノ實情ニ應
ズルヤウニ解釋ヲ致サナケレバナラナ
イノデアリマス、是ハ罰則ノ規定デモ何
デモゴザイマセヌカラ、社會ノ常識、社
會ノ通念カラ見マシテ、第一條ノ原則
ヲ覆ス程多數ニアルト云フ狀態ニ立至
リマシタナラバ、行政官廳ガ處分ヲ爲
シ得ル、社會ノ常識カラ、社會ノ通念カ
ラ申シマシテ、此位少數ノ者ガ這入ッテ
居テモ、第一條ノ原則ヲ覆シテ居リマ

セヌト云フコトハ、是ガ適用ヲ存スベキモノデハナイト考ヘテ居リマス

本法ノ規定ノ範圍内トス、斯様ニ解釋シテ居リマス

○原(夫)委員 此問題ハソレ位ニ致シテ置キマシテ、實際政府委員ノ御説明ハ正シク正鵠ヲ得テ居ナイト思ヒマス、此組合ノ權利ヲ毀損セラレタ時ハ、行政裁判モ何デモ出來ルト云フ規定ガ置イテアリマスカラ、行政權ガ認メラレル、サウ云フ機宜ノ處置トシテノ規定ニ付テハ、一體適當ナモノデナイト私ハ思ヒマスケレドモ、ソレハ意見ノ相違デアリマスカラ此邊デ止メテ置キマシテ、次ニ第二條ノ第二項ノ末段デアリマスガ「其ノ他共同利益ノ保護増進ヲ目的ト爲スコトヲ得」即チ「前項ノ外組合員ノ共濟、修養其ノ他共同利益ノ保護増進ヲ目的ト爲スコトヲ得」此箇條ハ昨日デアリマシタカ、井上君カラモ質問ニナツタヤウデアリマスガ、私ノ間ハントスル所ハ、労働條件ノ維持又ハ改善並ニ共濟、修養、其以外ニ於テ共同利益ノ保護、増進ト云フコトハ、ドウ云フコトヲ目安ニシテ、政府ハ茲ニ斯ウ云フ規定ヲ設ケラレタノデアリマスカ、之ヲ伺ヒマス

○原(夫)委員 ソコデ問題ハ、此労働組合ガ自己ノ共同利益ノ爲ニ、例ヘバ政黨組織ヲスル、政黨組織ヲスルト言ヘバ、ソレハ固ヨリ一面ニ於テ政社法ノ法律ニ依テ是ハ届出ヲスルトカ、或ハ許可ヲ受ケルトカ云フ事ニ相成ルノハ固ヨリデアリマスガ、併シサウ云フ例ヘバ準備行為デス、政黨ヲ組織シヤウ、無產政黨ヲ造ラウト云フ目的ノ下ニ、共同ヲスルト云フコトモ、此ハ此中ニ許サル、事項デアルト思ヒマス、之ヲ伺ヒテ置キマス

○長岡政府委員 是モ先程來御答申上ゲマシタ通り、組合員中ノ共同利益ノ保護増進中ニハ、組合員ノ家族ニ對スル病氣見舞金ノ支出、講演、講習、機關雜誌、機關新聞ノ發行等ヲ包含スルハ勿論、共濟修養等ニ屬スル事項ニシテ、共同利益ヲ保護増進スルモノハ、總テ

○長岡政府委員 只今ノ質問ハ、度々御説明申上ゲマシタガ、労働組合ニ於テ労働條件ノ維持改善、又ハ組合ノ共同利益ノ保護増進ヲ計ルコトヲ目的トスルモノデゴザイマスカラ、政治行動ヲ目的トスルモノデゴザイマセヌ、隨ヒマシテ労働組合ノ政綱ヲ掲ゲテ、政黨トシテ行動スル場合ニハ、別ニ是ハ政黨トシテ治安警察法ノ適用ヲ受ケルモノデゴザイマスカラ、是ハ労働組合ヲ離レテ、同ジ範圍内デ他ノ労働黨ナリ無產黨ナリノ結社ヲシナケレバナラヌモノト考ヘテ居リマス、是ハ其構成ノ上ニ於テ、例ヘバ構成分子ガ同ジデアリマセウガ、此方ハ労働組合、此方ハ無產政黨ト云フ別個ノ存在ト考ヘル、併ナガラ只今ノ例ニ御答ゲニナリマシタヤウニ、時々政治行動ヲスル政治行動

ヲ目的トセズシテ、政治行動ヲ手段トスルコトハ、是ハ差支ナイノデアリマス、例ヘバ他ノ同ジヤウナ政黨ニアラザル團體ト政社ノ届出シテ居ナイ團體ト雖モ、或ハ議會ニ請願ヲ致シ、或ハ政治運動ヲ致スト云フモノハ多クアルノデゴザイマスカラ、目的トシテ政綱ヲ掲ゲテ、繼續シテ政治上ノ行動ヲ致サナイ限り、個々ノ政治運動ハ是ハ默認スル、容認スル外ハナイト考ヘテ居リマス、只今例ニ御答ゲニナリマシタ無產政黨組織ノコトヲ繼續シテ一ツノ政黨ヲ造ルト言ッタナラバ、是ハ組合トシテノ資格デナシニ、他ノ無產政黨ノ構成分子ノ一ツノ自然人格トシテ、他ノ無產政黨ナルモノ、組織ヲスルト云フ結社ノ届出ヲ致サナケレバナラヌト考ヘマス、ケレドモ例ヘバ労働組合トシテ、労働條件ノ維持改善ヲ計ル目的デ、議會ニ法律案ヲ通過ヲ運動シ、請願ヲスルト云フヤウナコトハ、是ハ容認スベキコト、考ヘテ居リマス

○原(夫)委員 政府委員ニ御願ヲシテ置クノデスガ、ドウゾ私ノ間ノ所ノ趣意ニ適切スルヤウニ御答辯ヲ願ヒタイ、私ノ間ハ無產政黨ヲ起スト云ツテモ、是ハ他ノ政黨ノ如ク、其無產政黨其者ノ目的ダケト云フ意味デナイ、無論労働組合ガヤル仕事デ、第二條ノ第一項ノ労働條件ノ維持改善ト云フコトノ範圍内ノ問題デス、私ノ間ノ所ハ、ソコデ其政黨ヲ彼等ガ無產政黨ヲ組織スル

場合ニ於テモ、普通一般ノ政黨ナド、政綱ヲ異ニシテ唯單ニ労働問題ニ限リ、労働條件ノ維持改善ト云フ事ダケデ、サウ云フ政黨ヲ一ツ造ラウト、斯ウ云フ場合ニ於テ、其政黨ナルモノガ無論一方ノ結社法ノ規定ニ從ッテ行動ヲシナケレバナラヌハ、是ハ言フヲ要シナイ、言フヲ要シナイガ、茲ニ私ノ尋ネントスルノハ、詰リ其政黨ヲ起ス爲ニ届出ヲシテ、一方ノ法律ヲ取締ヲ受ケルケレドモ、此労働組合其モノガ、準備行為デアルトカ、労働ノ爲ニ労働條件ノ維持又ハ改善ノ範圍内ニ於テサウ云フ政黨ヲ造ル、即チ取モ直サズ労働者ノ共同ノ利益ヲ保護増進スルト云フコトニビッタリ當嵌ルノデアルカラ、ソレハ爲シテモ、一方ノ結社法ノ法律ニ背カナイ限りハ、矢張此目的ノ中ニ包含スルモノカ、ドウカ此點デアリマス

○長岡政府委員 甚ダ答辯ガ要領ヲ得マセヌデ恐縮デゴザイマス、只今御間ノ事デアリマスカラバ、準備行為ト云フ事ト、政黨組織ト云フコト、二ツゴザイマシタガ、無產政黨ヲ組織シタイト云フコトデ、準備即チ相談ヲスル場合ヲスルト云フ位ノ會合ナラバ、差支ハナイト思ヒマス、唯ハ假令政綱ヲ労働問題ニ限リマシテモ、労働黨ト名乗ッテ政黨ノ届出ヲスル場合ニハ、是ハ觀念ヲ別ニシテ、假令構成分子ガ如何ニアツテモ、労働組合以外ノ政黨トシテ別個ノ考デ進ミタイト考ヘマス

○原(夫)委員 ソコデ一方ノ政社法ニ屬スル法律ガ認メタ場合ニ於テ、玆ニ無產政黨ト云フモノガ樹立セラル、サウシテ法律デハ許サレテ立派ナ政黨デアル、詰リ此勞働組合法ノ中ノ組合トシテ活動シテ、其許サレタ範圍内ニ於テ此組合ガ矢張活動スルコトガ出來ルカドウカ、是ハ差支ナイト思ヒマスガ、ドウデスカ

○長岡政府委員 勞働組合ハ吾々ハ政黨トハ考ヘテ居リマセヌ、是ハ勞働條件ノ維持改善ヲ目的トスルノデアリマシガ、一ツノ産業上ノ團體ト考ヘマス、隨テ無產政黨ト云フモノガ勞働組合ト一體ニナルト云フ事ハ、法ノ認メナイ所デアツテ、此場合ニハ別ノ存在トシテ御考ヲ願ヒタイ

○原(夫)委員 政黨ヲ大變政府委員ハオツカナガッテ居ラレル様デスケレドモ、ドウモ目的トシナクテモ、手段デモ何デモ宜イカラ一面ニ於テ法律ガ許スナラバ、此組合法ニ於テ許シテモ差支ナイト思ヒマス、是ハ意見ニナリマスカラ此邊デ止メマスガ、次ニ第三條ニ勞働組合ハ法人デアルト云フ原則ガ掲ゲテアル、而シテ過日來政府委員ハ、是ハ公益法人ニモ非ズ、私益法人デモナイ、一種特別ナモノデアアル、斯ウ云フ御答辯ヲ承リマシタガ、ソレハドウ云フ譯デアリマスカ

○長岡政府委員 民法ノ規定ニ依ル法人ハ公益法人デ、ソレカラ商事會社等

ハ申ス迄モナク私益法人デス、是ハ原君ノ方ガ御専門デスガ、今迄ノ法人ニ關スル觀念ハ、純然タル公益法人、若クハ純然タル營利ヲ目的トスル私益法人、兩者何レカニ屬スルヤウニ考ヘマシタガ、今日ハ純然タル公益法人ニモ非ズ、又純然タル私益法人ニモ非ズ、所謂中間法人ト云フコトガ學者ノ間ニ認めラレテ來テ居ルヤウニ思ヒマス、勞働組合ハ、性質トシテ是ハ純然タル公益法人ト云フ考デ取扱フ譯ニモ行キマセヌ、又商事會社ノ如ク純然タル營利法人トシテ取扱フ譯ニモ行カナイ、所謂勞働組合ト云フ法人デアルト云フ觀念ヲ以テ、公益法人ニモ非ズ、營利法人ニモ非ズ、兩者何レニモ屬セザル勞働組合ト云フ法人デ認メタモノナリト御解釋ヲ願ヒタイ

○原(夫)委員 民法デ規定シテアル法人ハ皆公益法人デアルト云フ御説ダケレドモ、私ハサウ云フヤウニ承ッテ居リマセヌ、營利ヲ目的トスルモノハ營利法人デ、私益ノ法人デアルケレドモ、民法ノ法人中ニモ營利ヲ目的トスル私益ノ法人モアリ又純然タル公益ノ法人モアルト私ハ丁承シテ居リマス、ソコデ其法人トセラレタル根本義ヲ簡單ニ承ッテ置キタイ

○長岡政府委員 民法ノ法人中營利ヲ目的トスル社團ハ、商事會社設立ノ條件ニ從ヒ、之ヲ法人ト爲スコトラ得ル、前項ノ社團法人ニハ總テ商事會社ニ關

スル規定ヲ準用スルデアリマスカラ、此營利法人ノ規定モ無論三十五條ニアリマス、併シ是ハ先程申シマシタ營利法人デス、民法ノ三十四條ニ於テ、即チ祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社團又ハ財團ニシテ營利ヲ目的トセザルモノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ……(原委員)「サウ云フ條文ノ事ハ承知シテ居リマスカラ」ト呼フ、ソコデ三十四條ノ公益法人若クハ三十五條ノ營利法人ト二ツアリマシテ、此中間ノモノハ民法ニ規定ガ無イト心得マス

○原(夫)委員 デスカラ中間ノ方ガ規定シテ有ル無イト云フコトヲ申シタノデハナイ、民法ニ規定シテアル法人ハ公益法人ダケデアルト云フ御説ガアリマシタカラ、ソコデ私ハサウデハナイガト言ッタノデス、ソレハドウデモ宜イイトシテ、此勞働組合ヲ法人トスルト云フコトハ——宜シウゴザイマスカ、其根本義ハ一體何處ニ在ルノデスカ是迄大分御説明ニナッテ居ッテ、色々ナ組合ヲ法人トスルヤウナコトハ、是ハ利益ガアルカラ目的ニシタノデアアル、ソレハ丁承シテ居リマス、所ガ利益ノ有ル無イニ拘ラズ、組合ト云フモノヲ標準トセラレタ其根本デス、モウ一ツ邊ヲ言ヘバ、根本觀念ハ何處ニ在ルカ、ソレヲ承リタイノデス

○長岡政府委員 只今ノ御質問ノ、ハツキリノニ候マラナイヤウナ御答ニナッテ、又御叱リヲ受ケルカモ知レマセヌ

ガ、法人トスル其理由ガデスナ、先程繰返シテ申上グマシタヤウニ、又繰返スト却テ御氣ニ障ルカト思ヒマスガ、其理由デ之ヲ法人トシタノデス、而シテ其觀念ノ上ニ於テハ、營利法人ニモ非ズ、公益法人ニモ非ズ、公益法人ト云フヤウナモノガ認メテアル、ソレニビツタリ候マルカ候マラナイカハ別トシテ、兎ニ角營利法人ニモ非ズ、公益法人ニモ非ズ、非ザルモノデ、ソレヲ法人トシテモ差支ナイト云フ觀念ガアルノデアリマス

○原(夫)委員 サウスルト其點ハ不満足デスガ、私ハサウ云フ條文ノ上デハ、法人トシタ爲ニ色々ナ效果ガ附イテ居ル、其效果ヲ捉ヘテ、政府委員ハ斯レ斯レノ效果ガアルカラ法人トシタト云フガ、ソレハ丁承シテ居リマス、是ハ結果デアアル、ソコデ自然人ヲ法人ト爲ス、組合ヲ法人ト爲ス、ソレハドウ云フ譯カト云フコトヲ私ハ御尋シテ居ルノデス、若シ之ヲ法人トシナイト云フコトニナレバ、矢張法人トシタト同ジ様ナ結果ヲ來スコトガ出來ルノデス、ソコデ法人トシタ根本義ハ何處ニ在ルカト、之ヲ御尋シタノデアリマスケレドモ、是ハ後ニ譲リマシテ、次ニ勞働組合ヲ設立スルノニハ、行政官署ニ届出ラシナケレバナラヌ、届出ラシタナラバ、當然ソレハ法人デアアル、斯ウ云フ立方デアアル、ソコデ勞働組合ヲ設立スルノニハ、勞働規約ト云フモノヲ設ケナケレバナラナイ、組合ノ規約ヲ設ケナケレバナラナイ、規

約ト云フモノハ法令ニ違反シテハイカ

備へ、届出書ニ錯誤ガナケレバ、一應是

ハ受理シナケレバナラヌト考ヘテ居ル

○原(夫)委員 法令ニ違フ居テモ……

○長岡政府委員 法令ニ違反シタ事ハ

イケマセヌ

何デアラウガ一應其組合ハ成立シタモ

○原(夫)委員 イカヌト言ッテモ、規定

ノトシ、其組合ハ當然法人デアル、サウシ

ハナイ

テ登記モスル、ソレカラ後ニ何條デアリ

○長岡政府委員 第一條、第五條ノ本

マシタカ、行政官廳ガ取調ヲシテ、規約ガ

旨ニ違ヒ、事實上労働組合デナイ、サウ

法令ニ反シテ居ル場合ニ於テハ、之ヲ取

消シ若クハ解散スルコトガ出來ル、斯ウ云

フ手續ニナツテ居ル、規約ガ違フ居ラウ

合デナイカラ、受理シナイト云フコト

ガ何デアラウガ、届出サヘスレバ組合

ニナルト思フ

ハ當然成立スル、當然法人デアル、斯ウ

○原(夫)委員 具體的ニ言ヘバ、第一

云フ立テ方ヲセラレタノハドウ云フ理

條ノ同一又ハ類似ノ職業又ハ産業労働

由デアリマセウカ、ソレヲ承リタイ

者ト原則ガ掲ゲテアル、同一又ハ類似

○長岡政府委員 是ハ御承知ノ通り商

法其他ニモゴザイマス、又産業組合等

ニモ届出主義ニ依テ直ニ法人格ヲ取得

出ヲスル、是ハ貴方ノ仰シヤル規約ニ

スル、是ハ公益法人以外ニモゴザイマ

反シテ居ル、併ナガラソレハ組合ガ成

立シテ立派ニ法人トナル、後カラ行政

官廳ガ解散ノ手續ヲ執ルトカ、或ハ御

政上ノ實際ノ取扱ヲ御參考迄ニ申上ゲ

叱リヲ受ケルヤウナ場合ガアルカモ知

マス、又御叱リヲ受ケルト恐縮デゴザ

レマセヌガ、届出レバ法人ガ成立スル

イマスガ、今迄ノ實例ヲ申上ゲマス、

ト云フコトニナツタノハ、ドウ云フ意味

産業組合ニ致シマシテモ、届書ヲ受理

カト云フノデス

シマス時ニ、随分不備缺點ガ多イノガ

○長岡政府委員 了解致シマシタ、届

事實デゴザイマス、其時ニハ何時モ係

出ハ勿論事實上ノ届出ガナケレバナリ

官ヨリ指示致シマシテ、間違ッタ所ヲ直

マセヌカラ、事實ニ反スル届出、若クハ

サセテ受理致シマス、サウ云フ手續ヲ

虚偽ノ届出ハ、是ハ正式ノ「届出ト見ル

執ツテ居リマスカラ、實際上ノ不便ハ除

譯ニ參ラヌト思ッテ居リマス

クコトガ出來ルト考ヘマスケレドモ、

○清瀬委員 司法省ノ政務次官ガ御見

法律的ニ申上ゲレバ、形式的ノ要件ヲ

エニナツテ居リマスカラ、此處デ承ッテ

置キタイ事ガ一ツアリマス、今原君ノ

御質問ニナリマシタヤウニ、届出ニ依

テ法人ハ成立致スノデアリマス、サウ

スルト今迄ナカッタ權利主體ヲ作ルト

云フ行爲ニナリマス、是非訟事件デ

アリマス、此非訟事件ト云フモノハ、日

本ノ憲法デハ所有權ノ主體ヲ創設スル

コトデアリマスカラ、人ヲ一人作ルコ

トデアリマスカラ、明治三十年以後カ

ラノ立法例ハ總テ法律ニナツテ居ル、民

法ノ法人ハ非訟事件手續法ノ百十六條

デアリマス、商法ノ法人ハ商法非訟

事件ト云フノデ、法律ノ根據ヲ以テ爲

スノデアリマスガ、此法律ノ立方ヲ見

マス、却テ登記ニ關スル事項、即チハ

條ノ第二項ニ「本法ニ規定スルモノノ

外登記ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム」トアツテ、兎モ角勅令ニ委
任致シテ居リマスカラ、登記バカリハ
今迄ノ立法例ヲ追ッテ居リマスケレド
モ、届出ヲスルノニ、先ヅ第一ニ何處ヘ
届出ルカト云フコトモ法律ニ規定ガ無
イ、又届出義務者ト云フモノモ、理事ノ
全員カラシタラ宜イノカ、一人カラシ
タラ宜イノカ、ソレ等ノ點モ何等規定
ガ無イノデアリマス、長イ間遵守シテ
來ッタ我國ノ立法方針ト違フヤウニ思
ヒマスガ、何等カ御考ガアルノデアリ
マセウカ、或ハ又是ハ司法省ニ於テハ
餘リ御關與ナク、労働立法ガカラ、ドウ
デモ宜イノダト云フ風ナ御考デ脱落シ
タノデアリマセウカ

○本田政府委員 御答申上ゲマスガ、

主トシテ此法案ハ内務省ノ方デ起案ニ

ナリマシタノデアリマス、司法省ノ方

モ一應御協議ニ與ツタト云フ内情ニナツ

テ居リマス、併ナガラ今仰セニナリマ

シタヤウニ、多クノ場合ハ清瀬君ノ御

說ノヤウニ、法律ヲ以テ制定スルト云

フコトニナツテ居リマスカラ、尙ホ此法律

ヲ以テ勅令ニ委任スルト云フ形式ガ全

ク無イト云フコトモゴザイマセヌ、是

デハ瑣末ニ互ル點ハ勅令ニ委任シテ、

勅令ヲ以テ定ムルコトニシタ方ガ簡潔

ニ法律ガ成立スルト云フ考デアリマス

カラ、其例外法ニ依テ是ハ制定サレタ

モノデアルト考ヘテ居リマス

○清瀬委員 第八條ニ登記ニ關スル方

ハ委任サレテ居ル、此立前ハ何處カ行

政官廳ニ届出ヲスルト、行政官廳カラ

登記ヲ囑託スルノデスカラ囑託以後ノ

コトハ法律デ委任ガアリマスカラ、命

令デアツテモソレデ宜イデスケレドモ、

一番初メノ届出ト云フコトニ付テハ、

此處ニ規則モ無ク、委任ノ規則モ無イ、

ソレヲ不思議ニ思フ、何レ施行規則デ

モ作ルカト存ジマスケレドモ、届出人

ガ誰デアルカ、何處ノ行政廳ヘ届出ル

カト云フコトガ要ルト私ハ思フ、即チ

第四條ノ方ニモ第八條ト同ジヤウナ委

任ノ規則ガ要リハセヌカ、斯ウ云フコ

トニナル

○本田政府委員 今ノ御質問ノ事ハ、

登記ニ關シマス事項ノ中ニ入ルモノデ

アリマス、例へば漁業法デアルトカ、森林法デアルトカト云フノモ、矢張此形式ヲ執ツテ居リマス、ソレデ差支ナイ積リデゴザイマス

○清瀬委員 是レ以上押問答シテモイケマセヌガ、此法ハ一番初メハ登記ヲスル積リデ書イテ居ツタ、所ガ届出ニシテ、届出ヲ受理シタ官廳カラ囑託スルコトニナツタカラ、是ハ脱落シタノダラウト思フ、初メカラ當事者ハ登記ヲスルノナラバ登記ノコトハ法律ニ委任シタラ宜イ、當事者ガ届出ト云フコトニシタカラ、囑託登記ニナツテ、何處ヘ届ケルカト云フト、恐ラクハ縣廳ニ届ケテ、縣廳ガ之ヲ受理シテ、其囑託以後ノコトハ委任命令ニナツテ居ル、此以上押問答シテモ益ナイコトデアリマスカ

○原(夫)委員 本法ニ於テハ、届出ヲシタ組合ト云フモノハ法人デアリ、同じ組合ヲ設立シテモ、届出ヲシナケレバ法人ニハナレヌ、斯ウ云フ立前デアル、ソレカラ十條ノ規定カラ申スト、組合ノ聯合會ト云フモノヲ設立スルコトガ出來ルコトニナツテ居ルガ、届出ヲ爲シタル組合、即チ法人ト法人トガ聯合

會ヲ設立スル場合ハ、疑ハナイノデアリマスガ、法人ト法人ニ非ザル組合トガ聯合スル場合ニハ、届出ヲシナイモノデアツテモ、此聯合會ニ加入シ得ルヤウナ規定ヲ設ケタノデアルガ、其點ヲ伺ツテ置キマス

○長岡政府委員 法人タル組合ト法人タルザル組合トノ聯合ヲ認メテ居ルノハドウ云フ譯カ、斯ウ云フ御質問ノヤウデアリマスガ、是ハ其出來マシタ組合聯合會ナルモノハ、法制上ノ法人デハゴザイマセヌ、單ニ事實上ノ聯合會デアツテ、第十條ニ於テハ事實斯ウ云フモノガアルト云フコトヲ示シタツケデ、一向實際上ニ不都合ハ生ジテ來ナイダラウト思ヒマス

○原(夫)委員 若シサウ云フヤウナ御意見デアアルトスルナラバ、ソナ事ハ全然組合法ノ規定中カラ取去ラナケレバナラヌ事項デナイカト思ヒマス、此聯合會ヲ開イテモ、ソレガ法律上組合法ナルモノニハ毫末モ觸レナイ、唯事實上ノ問題デアアルナラバ、何モサウ云フ事ハ組合法デ干涉スベキ事柄デモナシ、又法律上何等ノ關係ノナイ事柄デアアルトスルナラバ、サウ云フ事ヲ此十條ニ謳ツテ置クト云フコトハ意味ヲ成サヌコトニナルノデスガ、サウ諒解シテ宜シウゴザイマスカ

○長岡政府委員 第十條ニハ組合トシテ行動ヲ致シマスルコトニ付キマシテ、重要事項ヲ列舉シテ居ルノデアリ

マスカラ、組合聯合會ト云フモノガ法制上ノ法人デアリマセヌデモ、組合トシテ聯合會ニ入ルカ入ラヌカト云フノハ、事實上ノ問題トシテモ重要ナ事項デアリマスカラ、ソレ等ノ事ハ幹部ノ專決處分トシテ行フヨリモ、總會ノ決議事項トシタ方ガ穩當デアラウ、即チ重要事項ヲ列舉スルコト云フ意味ニ於テ揭ゲタ次第デアリマス

○原(夫)委員 此聯合會ニ付テハ、此委員會ニ於テモ色々是迄質問應答ガアッタヤウデアリマスガ、私ノ私見トシテハ、法人ト法人トガ聯合ヲ爲シ、其聯合ノ上ニ法人ヲ形造ルト云フコトハ、法人ノ觀念ヨリシテ如何ガハシキモノデハナイト云フ考ヲ持ツテ居ルノデスガ、併シ法人ト法人ニ非ザル組合トガ聯合スルコトヲ、此法律デ認メテ居ルト云フコトデアアルナラバ、此組合法全體ノ方針ト其處ニ相容レナイ觀念ガ起リハセヌカト思ヒマスガ、是ハ削ツテモ宜シイ條項デアアル、又之ヲ置イテ、何處迄モ聯合會ト云フモノヲ此案デ認メルト云フコトデアアルカ、ソレヲ承リタイ

○長岡政府委員 此十條ニ掲ゲマシタ趣旨ハ、組合聯合會ト云フモノヲ法ガ間接ニ認メルト云フ意味合デ、是ハ直接ノ目的デハゴザイマセヌノデ、先程モ申上ゲマシタヤウニ、或ル組合聯合會ニ入ルトスル、凡ソ組合聯合會ト云フモノニハ、一ツノ旗印ガゴザイマシテ、思想上ノ背景ガ決ツテ居リマスカラ、幹

部ノ專制ヲ以テ、法人タル組合ト其思想背景ノ違ウヤウナ組合聯合會ニ入ルト云フコトハ、組合トシテ餘程重要問題デアリマスカラ、是ハ幹部ノ專制ニ委セズシテ、總會ノ議ニ付シタ方ガ至當デアアル、斯ウ云フ趣旨デアリマス

○原(夫)委員 サウスルト認メラレタル法人、即労働組合中ニハ、例へば労働者ガ、他ニ營利ノ目的ヲ以テスル、若クハ營利ノ目的ヲ以テセザル法人ニ、其労働者ガ其法人中ノ組合員トナルコトガ出來ルカドウカ、此點ヲ伺ツテ置キマス

○長岡政府委員 只今ノ御問ハ一寸諒解シ兼ネマシタガ、法人ノ組合ノ構成分子ニ成レルカト云フノデスカ

○原(夫)委員 労働組合ヲ造ツテ、届出ヲシタラ當然法人ニナレルト云フカラ、其労働組合中ニ——少シ問題ヲ變ヘテ御尋シマセウ、此労働組合中ニ外國人ハ入ルコトガ出來ルカドウカ、此點ニ付テハ政府委員ハ、日本ニ於テハ外國ノ労働者ヲ入レナイト云フコトニ、條約デスカ何カニ在ル、斯ウ云フ御答辯ニナツテ居ッタヤウデアリマスガ、ソレハ労働者デナクテモ、例ノ十二條ニ依テ入ルコトモ出來ルガ、外國人モ此法人中ニ入ルコトガ出來ルカドウカ、先ヅ此點カラ一ツ伺ヒマス

○長岡政府委員 此間ノ私ノ御答ハ、絶對ニ日本ニハ外國人ノ労働者ガ無イト云フヤウニ聞エルカノ如キコトヲ申

上ガマシタ、併ナガラ清瀬君ノ御話モ
ゴザイマシタガ、労働者トシテ入國セ
ヌデ日本ニ來マシテモ、日本デ資産ヲ

失ツテ労働者ニナルヤウナコトモ、是ハ
想像シ得ルノデアリマス、絶對ニ日本
内地ニハ外國人タル労働者ガ無イト云
フコトハ中上兼ネルト思ヒマス、ソレ
ハ本法ノ組合ニ加入スルコトハ差支ナ
イト云フ解釋デゴザイマス

○原(夫)委員 ソコデ此労働組合ノ構
成分子ノ問題デアリマスガ、例ヘバ此
労働者ガ労働團體ト云フモノヲ、何カ
外ノドンナ名義ノモノデモ宜イカラ、

法人組織デ此營利會社カ何カ此労働
云フコトダケヲ目的トシテ會社ヲ起シ
テ居ル、例ヘバ穢ナイ話デアリマスル

ケレドモ、清潔含ナラ清潔舍、或ハ金屬
ヲ目的トスル會社ヲ起シテ居ル、其法
人ガ茲ニ設立サレル、是ハマア労働者
デスネ、無形ナル労働者デゴザイマス、
サウ云フモノハ此労働組合ノ構成分子
ニナルコトガ出來ルカドウカ、此點ヲ
伺ヒマス

○長岡政府委員 只今ノ法人タル労働
者ハ労働組合ノ中ニハ這入レナイ、文
字解釋トシテハ或ハ御議論モゴザイマ
セウガ「同一又ハ類似ノ職業又ハ産業
ノ労働者」是ハ自然タル労働者タル
意味ニ取ツテ居リマス、ソレカラ十二條
ノ三項ニアリマス「總會ノ決議ニ依リ
加入ヲ許サレタル者」是モ文字解釋ト
シテハ御議論モアルカモ知レマセヌ

ガ、是モ自然人ト云フ意味ニ解釋シテ
居ル積リデアリマス

○原(夫)委員 ソレカラ此労働組合ナ
ルモノハ、規約デ總會ニ代ル總代會ヲ
設クルコトガ出來ルト云フ規定ニナッ
テ居リマスガ、是ハ實際ノ便宜カラ起ッ
タモノデアリマセウカ、何千人何萬人
ト云フコトヲ基準トスル總會ハドウナ
ルカ、是ハ何ニ依テ斯フ云フ規定ヲ設
ケラレタノデアリマセウカ、ソレカラ
常設タルト臨時タルトハ間ハヌノデア
リマスカ、ドウデアリマスカ

○長岡政府委員 是ハ組合規約ニ定メ
テアリマスレバ、常設デモ臨時デモ差
支ナイト考ヘマス

○原(夫)委員 労働組合ノ規約デ定メ
タラバ、大體ノ事ハ總テ許シテ差支
ナイト思ヒマスガ、是ダケヲ拾ヒ上ゲ
テサウシテ特ニ設ケラレタノハ、ドウ
云フ意味デアリマスカ

○長岡政府委員 是ハ先程モ申上ゲマ
シタヤウニ、又原君ノ御想像ニナリマ
スヤウニ、何萬何千ト云フ組合、而モ場
所的ニ分布サレテ居ル組合ガ、總會ヲ
開クト云フコトハ事實不可能ナ場合ガ
ゴザイマス、而シテ其總會ニ付議スベキ
事項ガ明ニ此十條ニ規定シテゴザイマ
スカラ、總代會ノコトヲ規定シテ置キ
マセヌト——十條ノ一カラ四ニ至リマ
スル各項ノ事ニ付テ、總代會デ代ッテ決
議シ得ルト云フコトヲ明ニシテ置キマ
シタ方ガ、宜シカラウト心得テ居リマ

ス

○原(夫)委員 ソレカラ私ハ言フ迄モ
ナク此法人ガ解散シタル場合ニ於テ
ハ、法人ハ解散致シテ直グ無クナルモ
ノデハナイ、是ハ法人ノ通念デアリマ
スガ、即チ其後仕末ニ關シテハ、矢張法
人ハ繼續シナケレバナラヌ性質ノモノ
デアル、消エテシマウモノデハナイ、所
デ此本法ノ二十一條ヲ見ルト云フト、

組合ガ合併又ハ分割シタル時ハ當然解
散ニナル、斯ウ云フ規定ガアッテ、是モ
結構デアリマスガ、然ルニ労働組合ハ
合併若クハ分割ヲシタ場合ニ於テハ、

矢張行政官廳ニ届出ヲスル、届出ヲシタ
ラ直グ合併若クハ分割ノ效力ガ現實ニ
現レル、即チ合併シタ前ノ法人ト云フ
モノハ無クナツテシマウ、分割シテモ矢
張無クナツテシマウ、斯ウ云フ主義ヲ
取ツテ居ル、其時ニ又登記ヲスレバ——
直グ合併又ハ分割ノ法人ト云フモノガ
新ニ登記セラレル、サウスルト是ガ矢
張同ジコトデ、合併又ハ分割セラレル、

法人ガ、此債權者ガ居ッテソレニ未ダ借
金ヲ拂ハナイデ、到底合併又ハ分割ノ
效力ヲ全ウスルコトノ出來ナイ場合ニ
於テモ、其債權者對分割若クハ合併前
ノ法人ハ、有功ニハ合併又ハ分割ガ出
來ナイト云フ性質ノモノデアアル、是ハ
特別ニ法律ニ規定シテ居ル、サウシテ
其範圍内ニ於テハ、法人ハマダ殘ッテ居
ル性質ノモノデアアルニ拘ラズ、行政官
廳ヘ直グ届出ヲスル爲ニ、前ノ者ガ直グ

消エテシマフ、斯ウ云フ結果ニナルガ、
是ハドウ云フ譯デアアルカ

○長岡政府委員 合併分割ノ場合ニ於
キマシテ、清算ノ規定ヲ省キマシタノ
ハ、是ハ民法ト餘程違フテ居リマ
ス、是ハ此労働組合ノ性質ト致シマシ
テ、財産ヲ主體トスル團體デゴザイマ
セヌカラ、成ベク此合併、分割等ニ際シ
マシテ、清算ノ手續ヲ簡ニシ、之ヲ省略
スルト云フ方ガ、労働組合自體ノ性質
ニ適合スルデアラウト云フ趣旨ニ外
ナラヌデアリマス、此場合ニ於テ第

三者ノ利益モ無論尊重シナケレバナリ
マセヌケレドモ、第三者ノ利益ヲ害セ
ザル程度ニ於テ、手續ヲ簡便ニスル方ガ
宜シカラウ、民法ノ公益法人ノ如キ慎
重ナ清算ノ手續ヲ取ラヌデモ、合併分
割ノ場合ニハ、原則ト致シマシテ權利
義務ハ公益法人ニ繼續スルト云フ精神
法ヲ取ツテモ、大シタ損失ヲ第三者ニ與
ヘルト云フコトハナカラウト云フ意味
カラ出タモノデアリマス

○原(夫)委員 只今ノ政府委員ノ御答
辯ニ依ルト云フト、少クトモ私ハ二ツ
ノ疑點ガ起ル、ソコデ私ハ最初ニ於テ
御尋シテ置イタノデアリマスガ、法人
ノ根本義如何ト云フ問題デアッタノデ
アリマスガ、今政府委員ノ御答辯ニ依
ルト云フト、此労働組合ヲ法人ニシタ
場合ニ於テハ、法人——労働組合ニハ
大シタ財産ト云フモノヲ持タナイシ、
財産ト云フコトニ重キヲ置イタモノデ

ナイノデアルカラ、ソコデ其合併或ハ分割ト云フ場合ニ於テモ、簡略ナ主義ヲ執ラレタノデアルト云フ御言葉デアアルノデアリマス、此法人ノ通念カラ申シマスト云フト、ドウシテモ此多數ノ人間ガ寄り集ル場合ニ於テハ、財産ガ何デアツテモ、財産ガナケレバ法人ト云フモノハ成立タナイ、ソコデ其法人ガ成立スレバ、必ズ、或ル一種ノ財産ト云フモノガ喰付クノデアアルカラ、此法人トシナケレバナラヌト云フヤウナ其法人ノ通念ガアルノデスガ、ソコデ此勞働組合デアツテモ財産ヲ持ッテ居ル、ソレガ幾ラデアツテモ、財産ハ必ズ明カデアアル、必ズ財産ガアルノデアアルカラ、茲ニ第三者トノ關係ガ生ジテ來ル、第三者トノ關係ガ生ジテ來レバ、其處ニ債權債務ノ關係ガ起ルノデアリマスカラ、現ニ二十二條ノ規定ニハ明ニチャント規定シテアル「債權者前項ノ期間内ニ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ合併又ハ分割ヲ爲スコトヲ得ス」ト斯ウアル、ソレカラ又「前二項ノ規定ニ違反シテ合併又ハ分割ヲ爲シタル場合ニハ其ノ合併又ハ分割ハ之ヲ以テ當該債權者ニ對抗スルコトヲ得ス」斯ウ云フ規定ヲ爲シテ居ル、サウスルト此規定ニ反シテ是ガ出來ナイト云フコトガアルニ拘ラズ、總會ニ於テ組合ノ合併又ハ分割ヲ決議シテシマフ、サウスルト直ニ其組合ハ解散ニナル、其届出ヲス

レバ行政官デハ前ノ届出ニ拘ラズ組合ハ消滅スルト云フコトガ第二十四條ニアル、一面ニ債權者ニ對シテハ、又權利ヲ存續シナケレバナラヌ、然ルニ一面ニ於テ存續シテ居ルニ拘ラズ、届出ヲ爲シタガ爲ニ、總會デ決議ヲ爲シタル爲ニ、法人ガ消エテシマフト云フコトハ、何タル矛盾デアアリマセウカ、此點ヲ御説明ヲ願ヒマス

○長岡政府委員 先程財産問題ニ對シテ、御議論デアリマシタガ、私ハ勞働組合ニ財産ガ無イト云フ意味ニ申上ゲタトスレバ、私ハ言葉ガ足ラヌノデアリマシテ、勞働組合ト云フモノハ、財産ヲ主トスル團體ニ非ズト云フ意味ニ申上ゲタノデアリマスカラ、其點ハ御諒承ヲ願ヒマス、ソレカラ二十二條ノ二項三項ハ、只今原君ノ御指摘ニナリマシタヤウニ、是ハ第三者ノ利益ヲ保護シタ規定デアリマシテ、此規定ニ違反シテ合併又ハ分割ヲ爲シタル場合ニハ、當該債權者ニ對抗スルコトガ出來ナイ、即チ第三項ニ違反シテモ合併ハ成立スルケレドモ、當該債權者ニハ對抗出來ナイト云フ意味デアリマス

○原(夫)委員 其結果ハ如何デアリマセウカト云フノデス、二十四條ニハ、前條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ、行政官廳ハ直ニ合併又ハ分割ニ因リテ消滅シタ組合ニ付テハ、解散ノ登記ヲ直ニ行フ、斯ウ云フ事ニナル、會社ガ消滅スル際ニ、債權者ニ對シテハ會社ハ存續スル形ニナッテ居ルガ、此點ヲ伺ヒマス

○森田委員長 原君、ドウデス、幹部會ハマダデスカ

○長岡政府委員 第二十二條ノ三項ガゴザイマスカラ、債權者ニ對シテハ、當該債權者ハ何處マデモ追究シテ行クノハ差支ナカラウト思ヒマス、此點ダケニ付テハ、當該債權者ハ對抗出來ル、相手ハ三項ノ範圍内ニ於テ残ッテ居ル……

○原(夫)委員 元ノ組合ハ二十四條デ消滅シテ無クナッテ居ル、誰ヲ相手トスルカ

○長岡政府委員 ソレハ他ノ場合ニ於キマシテモ、法人ガ解散シテ死ニマシテモ、清算ノ範圍内ニ於テハ、法ハ生キテ居ルト云フヤウナ例ガアリマス、ソレト同ジヤウニ、二十四條ニ於テハ法人ハ原則トシテ死ンデ居リマスケレドモ、二十二條ノ三項ノ範圍内ニ於テハ、之ニ對シテ對抗出來ルト云フ意味ニ御解釋ヲ願ヒマス

○原(夫)委員 其御答辯ハソレハイケマセヌ、普通ノ會社ガ解散シテ、清算ノ範圍ニナル場合ニハ、チャント民法、商法ニ規定シテアル、其清算ノ範圍内ニ於テハ、前ノ法人ガ繼續スルモノデアルト云フ特別ノ規定ガアルカラ、ソコデ之ヲ相手トスルコトガ出來ル、本法ニ於テハモウ消滅シテシマフト云フコトヲ規定シテ居ルカラ、前ノ相手ガ無イノニ、何ヲ相手トシテサウ云フコトヲ爲スノデアリマスカ、ソレハ今デナクテモ宜イカラ、モウ少シ御考ニナッテ

御答辯ヲ願ヒマス

○森田委員長 原君、ドウデス、幹部會ハマダデスカ

○長岡政府委員 只今ノ御話ノ第三項ノ範圍内ニ於テ存在シテ居ルト云フ解釋ヲ執ッテ居リマスケレドモ、只今御同情アル御言葉モアリマシタカラ、尙ホ能ク其邊ハ研究致シマスガ、今迄ノ解釋トシテハ、二十四條ニ依テ原則トシテ解散スル、併シテ二十二條ノ三項ノ範圍内ニ於テハ残ッテ居ル、尙ホ折角ノ御注意デアリマスカラ、研究致シマス

○原(夫)委員 ソレナラモウ組合法ハ是ダケニ致シマシテ、ソレカラ次ニ調停法デアリマスカ、先程ノ問題ニ牽聯シテ、組合法デ組合タル法人ノ構成分子中ニ、外國人モ組合員ト爲スコトガ出來ルト云フ政府委員ノ御答辯デアリマシタガ、サウスルト此調停法ノ調停委員ニモ、外國人ハ此裁判官ノ地位ニナリ得ルト云フ御解釋デアアルカドウカ、此點ヲ先ツ御伺ヒマス

○長岡政府委員 御解釋ノ通リト考ヘテ居リマス

○原(夫)委員 當事者——爭ニ係ル人間ヲ裁判官ノ地位ニ置クト云フコトハ、是ハ調停法ニ矛盾シハシナイカ、即チ調停スル者ハ第三者デアツテ、爭ヲ爲シテ居ル當事者以外ニ超越シタル人間ガ調停委員ニナルベキデアル、爭ノ渦中ニアル人間ヲ調停委員トスルノハ、調停法ノ趣旨ニ矛盾スルノデハナイカ、

○長岡政府委員 第二十二條ノ三項ガゴザイマスカラ、債權者ニ對シテハ、當該債權者ハ何處マデモ追究シテ行クノハ差支ナカラウト思ヒマス、此點ダケニ付テハ、當該債權者ハ對抗出來ル、相手ハ三項ノ範圍内ニ於テ残ッテ居ル……

○原(夫)委員 元ノ組合ハ二十四條デ消滅シテ無クナッテ居ル、誰ヲ相手トスルカ

○長岡政府委員 ソレハ他ノ場合ニ於キマシテモ、法人ガ解散シテ死ニマシテモ、清算ノ範圍内ニ於テハ、法ハ生キテ居ルト云フヤウナ例ガアリマス、ソレト同ジヤウニ、二十四條ニ於テハ法人ハ原則トシテ死ンデ居リマスケレドモ、二十二條ノ三項ノ範圍内ニ於テハ、之ニ對シテ對抗出來ルト云フ意味ニ御解釋ヲ願ヒマス

○原(夫)委員 其御答辯ハソレハイケマセヌ、普通ノ會社ガ解散シテ、清算ノ範圍ニナル場合ニハ、チャント民法、商法ニ規定シテアル、其清算ノ範圍内ニ於テハ、前ノ法人ガ繼續スルモノデアルト云フ特別ノ規定ガアルカラ、ソコデ之ヲ相手トスルコトガ出來ル、本法ニ於テハモウ消滅シテシマフト云フコトヲ規定シテ居ルカラ、前ノ相手ガ無イノニ、何ヲ相手トシテサウ云フコトヲ爲スノデアリマスカ、ソレハ今デナクテモ宜イカラ、モウ少シ御考ニナッテ

御答辯ヲ願ヒマス

此點ヲ伺ヒマス

○長岡政府委員 只今ノ點ハ、調停委員會ハ裁判ト云フヤウナ觀念ト餘程趣ヲ異ニシテ居ルト考ヘマス、而モ此結果ニ依テ當事者ヲ拘束スルコトハナイ、又勞働爭議ハ多クノ場合ニ於テ、法律問題ヨリモ事實問題ノ争ノ方が多イノデアリマスカラ、當事者ノ利害ヲ代表スル者ガ、調停委員ノ間ニ加ハリマシテ、相互ノ事實上ノ互讓ニ依テ事件ノ解決ヲ圖ルノガ、一番適當デアルト云フ考カラ加ヘマシタ次第デアリマス

○原(夫)委員 次ニ調停委員會ノ會議ニ、特ニ當該官吏ヲ臨檢立會セシムルコトガ出來ルト云フ一箇條ガアリマスカドウモ是ハ眼障リニナルノデスガ、兎角争ノ場合ニ於テ、當該官吏ノ此秘密ノ調停委員會ニ立會ラセシムルト云フコトノ規定ヲ置クノハ、ドウモ眼障リデナラヌヤウニ思ヒマスガ、一體此規定ヲ設ケテ趣意ハ何處ニ在リマスカ

○長岡政府委員 只今ノ當該官吏ハ、調停委員會ノ承認ヲ得タ場合ニノミ這入レルノデアリマスカ、多クノ斯カル場合ニ於テハ、其間ノ記錄ヲ作ルトカ、或ハ事務ノ整理ヲ致シマスツカ、書類ヲ整理シマスツカ、又取寄セマシタ材料ヲ分類シマスツカ云フコトハ、此選出サレタ委員若クハ第三者タル委員デハ不十分ノ場合ガアルノデアリマス、其場合ニ手足トナッテ働イテ事務ノ整理ヲ致スト云フ意味ニ於テ、委員會ノ

同意ガアツタ場合ハ、當該官吏ガソコニ參リマシテ、御世話ヲ申上ゲルト云フコトハ、却テ便宜デアラウ、又場合ニ依テハ調停委員會ノ方デ希望シナイ事ガアルカモ知レマセヌガ、要スルニ調停委員會ノ意思ニ反シテ臨席スルノデハアリマセヌカラ、寧ロ之ハ調停委員會ノ便宜ヲ圖ル上ニ於テ便利デアラウト考ヘテ居ルノデアリマス

○原(夫)委員 今政府委員ノ答辯ハ、條文ヲ能ク御記憶ガナイデヤナイカト思ヒマスガ「行政官廳ハ調停委員會ノ承認ヲ得テ當該官吏ヲシテ會議ニ臨席セシムルコトヲ得」此「臨席」ト云フコトハ、今ノ御説明デハ大層御世話ヲスルトカ、或ハ會議錄ダトカ、色ニナ事ノ世話ヲスルト云フノデアルガ、サウデハナイノデ、其處ニ臨ンデ——席ニ臨ム、之ハ威力ノアル官吏ノ威嚴ヲ示ス特著タ規定ナンデス、若シ今政府委員ノ言ハレルヤウナ趣旨デアルト、ソレハ此條文ニ、サウ云フ小使役ミタイナ書記ノ役ヲスルヤウナ事ナラバ、斯ナ事ヲ法令中ニ規定スル筈ハナイ、何カ他ニ趣意ガアラウト思ヒマスガ、今仰シヤツタ通りデアリマスカ

○長岡政府委員 他ニ何ノ趣意モアリマセヌ、「臨席」ハ「出席」ノ意味デゴザイマシテ、其時ノ可否ノ數ニモ加ハラズ、又調停委員會カラ申出ガナケレバ、意見モ進ンデ陳述シナイト云フ意味デ「出席」ト輕イ意味デ御酌取リヲ願ヒタル

イ

○原(夫)委員 最後デスガ、是迄質問應答ノアツタ點デアリマス、第十九條デス、罰則ニクツ付イテ居ル、即チ治安警察法第十七條ニ代ルベキ規定ヲ持ッテ來ラレタ此十九條デゴザイマス、之ハ從來政府委員ノ御説明ニ依リマシテモ、政府委員ノ御答辯ガ極メテアブナツカシイ點デアル、此點ハ長岡政府委員ハ殊ニドウモ堪能ナ頭腦ヲ以テ本案ノ立案者デアリマスガ、此場合十九條ニ至ルト云フト、洵ニ御困リニナルヤウデス、是ハ甚ダ御同情申上ゲル、恐ラク十九條ノ此規定ナルモノハ、長岡政府委員ガ見ラレテモ——堪能ナ長岡政府委員ガ見ラレテモ、此罰則ト云フモノノ意味ガ分ラナイ、ソコデ司法省カラ「現ニ其ノ爭議ニ關係ナキ者」ト云フ解釋ニ付キ、或ハ當事者、勞働者側、資本家側ト云フ色ニナ説明デ、結局吾々ガ手ニシテ居ル一枚ノ此説明ヲ要スル規定デ、ドウモ長岡政府委員デモ十九條ノ「現ニ其ノ爭議ニ關係ナキ者」ト云フ此數文字ニ付テハ、御理解ガナイト思フ、サウスルト之ハ刑法法規デアッテ、所謂法ナケレバ刑ナシト云フ、法律ニ規定ノナイモノハ、ドンナ事ヲシヤウガ罰スルコトガ出來ナイ、ソレト共ニ又法律ノ規定ガアレバ、ドンナ行爲ヲナシテモ之ハ罰セラレルノデアリマス、キチント法律ニ於テ法文デ明カナ

ル如ク、六千萬國民ガ見テドウモ之ハ罰セラレル事デアルト云フ行爲ノ羈絆ヲ示ス法律デアアルノデアリマスカラ、ソレヲドウモ政府委員ニモ十分分ラナイ、サウシテ委員ノ間ニモ十分分ラナイト云フ法律ヲ作ッテ、之ヲ滿天下ニ公布シテ置イテ、之デ刑罰法規ト云フモノ、圓滿ニ行ハレル筈ハナイ、是ハ政府委員カラ頂戴シタ司法省ノ解釋デアリマスガ、之ヲ讀ンデ見テモ一向分ラナイ、ソレハ先ヅ當事者ト云フ事ト、爭議ニ關係ノアル者ト云フコトノ二ツガ十分ニ分ッテ居ナイ、又實際此條文デハ事ガムツカシイカラ、極ク明カナ點ダケヲ指摘シテ政府委員ニ御伺シタイノデス、此爭議ガ發生シタ場合ニ於テ、當事者タルベキ者ニハ少ナクトモ三通リアル、先ヅ勞働者側ガ請求ヲシテ争ノ當事者ヲ定メル場合、雇傭者ノ側ニ於テ争ヲ求メル場合、最後ニ行政官廳ガ勝手ニ必要アリト認メテ或ル種類ノ人間ヲ爭議調停法ニカケル場合ガアル、此三ツノ場合ガアル、而シテ最後ニ行政官廳ガ勝手ニ必要アリト認メテ爭議ヲ開始スル場合ニ於テハ、十九條ノ適用ヲ爲ス場合ニ行政官廳ノ手心ニ依テ、幾ラデモ人ヲ羅致シテ、ドンナニデモ之ヲ處罰スルコトガ出來ルヤウニナル、例ヘバ茲ニ紡績會社ナラ紡績會社デ、資本主側ト雇人側トノ間ニ同盟罷工ヲ爲シテ居ル、行政官廳ガ其内ノ同盟罷工者ヲ五十人ナラ五十人ヲ羅致シテ、之ヲ爭議ニ掛ケル、サウスルトソレ

ガ當事者ニナツタ場合ニ於テ、行政官廳ハ其五十人ニ對シテ仲裁ヲスル、サウスルト十九條ニ至ッテ「現ニ」ト云フノハ政府委員ノ説明ノ如ク其爭議ニ通知ノアツタ場合デアリマス、其五十人ト云フコトニ限定サレル、斯ウ云フ規定ヲ設ケルト云フコトハ、十九條ハマルデ政府ノ得手勝手ニ、ドンナニデモ罰スルコトガ出來ルヤウナ法律規定ニナッテ居ル、此點ヲ政府ハ如何ニ御考ニナルノデアアルカ、ソレヲ伺ッテ置キマス

○長岡政府委員 私ガ十九條ニ付諒解ヲ持ッテ居ラスト云フ御批評ヲ受ケマシテ、甚ダ汗顔ノ至リニ堪ヘナイ、併シ此解釋ハ司法省ニ教ハリマシタモノデハアリマセヌノデ、其當時申上ゲタヤウニ、司法省ト法制局ト内務省ト相談致シマシテ決メマシタモノデ、私ノ自分ノ解釋ガ此通りデ宜シイト考ヘテ居ル、強制調停ノ場合ニ於テハ、使用者ト實際ノ問題ヲ爭ッテ居ル勞働者ノ集團ニ對シテ、行政官廳ノ指定セル範圍デト云フコトヲ申上ゲテ置キマシタガ、實際爭議ニ關係ノ無イ者ヲ行政官廳ガ指定スルトカ、又ハ濫ニ行政官廳ガ亂暴ナ行動ヲシタ場合ニ、甚ダ危險デアルト云フ御懸念ノヤウデアリマスガ、是ハ非常ニ行政官廳ガ非常識、無理ヲスルモノデアルト云フモノナラバイザ知ラズ、實際罷業ニ關係ノナイ者ヲ、行政官廳ガ罷業ニ關係アルト云フコトヲ言ヒマシテモ、斯カル干涉的ノ法制ハ

今日爲スベキモノデモゴザイマセヌ、先ヅ行政官廳ガ勞資ノ間ニ立ッテ、公平ニ事務ヲ處理スルト云フヤウニ御信用ヲ願ヒタイト思ヒマス

○原(夫)委員 要スルニ此強制調停ノ場合ニ於テハ、其當事者ヲ定ムルコトハ、行政官廳ノ認定ニ任カスト云フ法律ノ趣意ニ外ナラナイ、ソコデ人數ノ範圍モ隨テ行政官廳ガ認定次第其範圍ヲ造ル、斯ウ云フコトニ今ノ御説明ニ依テ間違ナイト思ヒマス、ソコデ行政官廳ナルモノガ、公平無私デアルト云フコトニ付テ満足ノ行クモノデハナイ行政官廳ノ實際働キヲスル者ハ人間デアアル、現ニ人權蹂躪ノ問題ナドハ頻々トシテ起ッテ居ル、斯ノ如キ絶大ナル認定權ノ下ニ刑罰法規ガ始終動カサレルト云フコトハ、是ハ刑罰法規ト云フモノハ、マルデ成ッテ居ナイコトニナルガ是ハ如何デスカ

○長岡政府委員 行政官廳ガ指定致シマシタ範圍ト云フモノハ、申上ゲタ通りデアリマスガ、是ハ行政官廳ノ指定シタ範圍ト云フモノハ、矢張事實ニ則リマス、事實上爭議ニ關係シテ居ラヌ者、マルデ沒交渉ノ者ヲ指定スルト云フコトハ、想像モ出來マセヌ、事實上爭議ニ關係シテ居ル者デ、行政官廳ノ指定シタ者、事實ヲ離レタ指定ト云フコトハ事實上無イト考ヘマス

○原(夫)委員 此十九條ノ勸誘ト云フ

文字ハ、現行治安警察法ノ誘惑若クハ煽動ト云フ文字ト同意デアルトカナイトカ云フ質問應答ガ随分アリマシタガドウモ此立法ノ遺方ヲ見ルト、治安警察法ノ第十七條ハ、是迄世間デヤカマシイカラ、此方ハ廢止シテ置イテ、更ニ此十九條ノ方ヘ持ッテ來タ、是ハ間違ナイ事實デアアル、所ガ治安警察法ノ十七條ノ此罰則ヨリ、十九條ノ規定ノ罰則ノ方ガ、遙ニ範圍ガ廣イト云フコトヲ政府委員ハ御認メナナルカドウカ、私ノ見ル所ニ依ルト、治安警察法十七條ヨリカ此新タニ出來タ所ノ十九條ノ方ガ遙ニ適用ノ範圍ガ廣クナッタト思ヒマスガ、其點ハドウカ

○長岡政府委員 只今ノ御尋ハ誘惑煽動ガ勸誘ト云フ文字ニ變ッタ爲ニ、廣クナツタカト云フコトニ諒解シテ宜シウゴザイマスガ

○原(夫)委員 其點モ、尙ホ總テノ點ニ於テ……

○長岡政府委員 勸誘ト云フ文字ヲ以テ誘惑煽動ニ變ヘタコトニ付キマシテハ、是ハ何等影ノアルモノデモ何デモアリマセヌ、過日清瀬君ニ御答致シマシタ通り、大審院ノ判決ガ古イトカ、前例ヲ追ッテ居ルト云フ御非難モゴザイマシタケレドモ、兎ニ角今日ニ於テ大審院ノ判決ヲ、誘惑煽動ト云フコトヲ勸誘説得ト爲サウニ解シテ居ル以上ドウモ致シ方ナイト思ヒマス、其誘惑煽動ト云フ文字ヲ勸誘ト變ヘタ爲ニ、

決シテ廣クスルト云フ意思ハアリマセヌ、全ク同一義ニ解シテ居リマス、唯勸誘ト云フ文字デアリマス、如何ニモ其影ニ隠レテ居ルコトガ惡事ノ如ク聞エナイ、誘惑煽動ト言ヒマス、誘惑サレ煽動サレル、同盟罷業事體ガ如何ニモ惡イ事ニ見ラレマスカラ、寧ロサウ云フ誤解ヲ惹キ易イ文字ヨリモ、勸誘ト云フ平易ナ文字ニ變ヘテ、事實誘惑煽動ト一致サセタ方ガ宜イト云フダケノコトデ、虛心坦懷ニ考ヘタノデアリマス

○原(夫)委員 一寸一例ヲ、具體的ノ早分リスル例ヲ出シテ見タイト思ヒマス、或ル職工ガ盛ニ同盟罷工ノ火ノ手ヲ揚ゲテ居ルガ、マダ職工中ニ同盟罷工ノ範圍ガ十分ニ分ッテ居ナイ、ソコデ旗幟不鮮明ナ職工ガ出掛ケテ來テ、其渦中ニ投ジテ演説ナラ演説ヲスル、自分ハ是カラ同盟罷工ニ大賛成ヲスル、必ズ此目的ヲ遂行スルコトニ努メル、斯ウ云フ演説ヲシテ其場ヲ退ク、治安警察法ノ十七條デハソレヲ罰スルコトハ出來ナイ、煽動ニモアラズ誘惑ニモアラズ、他人ヲ説得シタ部類ニモ這入ラス、自分ノ意思表示ヲシタダケニ止マル、無罪デアアル、所ガ今度ノ調停法ニ依ルト、是ハ立派ニ十九條デ罰セラレル結果ニナルト思ヒマスガ、取敢ヘズ其點ニ付テモ明ニ今度ノ調停法ノ範圍ガ廣イト思ヒマスガ如何デスカ

○長岡政府委員 只今迄ノ判決例ニ依

リマス、如何ナル方法ヲ以テスルトヲ問ハズ、他人ノ自由意思ノ決定ニ影響ヲ及ボス場合ナラバ、總テ這入ッテ居リマス、若シ他人ガ大ニ援助スルト云フ言葉ヲ聞イテ、他人ノ決定ニ影響ヲ及ボシタト云フコトナラバ、文字ガ煽動誘惑デアリマセウトモ、又勸誘デアリマセウトモ、何等此間ニハ差別ハナカラウト考ヘマス(原(夫)委員、其理由ヲ伺ヒタイト呼フ)是ハ大審院ノ判決例ガ此所ニ澤山アリマスガ、要スルニ判決例ハ、誘惑ハ其程度方法ニ付キ何等制限ガナイ、ソレ故ニ詐言ヲ用イテモ、詐術ヲ用キテモ、又ハ單ニ甘言ヲ以テシテモ、將タ又何ノ方法ヲ以テトヲ間ハズ皆ハ勸誘説得ダト云フコトニナッテ居リマスカラ、ドウモ勸誘説得ト云フ文字ト勸誘ト云フ文字ト違ヒガアルヤウニハ私ハ存ジマセヌ、ソレカラ先程非常ニ原君ノ御同情アル御注意ニ依テ、尙ホ研究ヲ致サセマシタガ、先程答辯申上ゲタ通り、商法ノ規定ニ於キマシテモ、商法七十九條第二項第三項及八十二條ヲ御參照願ヒマス、商法ノ七十九條ノ三項ノ規定ニ依リマシテモ「對抗スルコトヲ得ス」ト云フ文字ヲ債權者ニ對スル關係ニ於テハ、法人ハ尙ホ消滅シナイト見ル趣旨ニ解シテ居ル、デアリマスカラ先程私ガ御答申上ゲタヤウニ更ニ御諒承ヲ願ヒタイ

○原(夫)委員 十九條ハ暫ク措イテ、今ノ御答辯ハソレヲ讀ンデハイケマセヌ、モウ少シ頭ニ入レテ御答辯ヲ願ヒタイ、ソレハ何故カト云ヘバ、先程私カラ政府委員ニ御注意申上ゲタ商法ノ其規定ハ、法人ガマダ繼續シテ居ルト見ルカラサウナノデアアル、今ノ此組合法ト云フモノハ、消滅シタモノトチヤント明文ヲ以テ定メテ居リマス、其點ガ違ヒハシナイカト云フノデアリマスガ、ソレハ今デナクテモ宜シイノデアリマス、ソレハドナタガ御書付ケニナッタカ知リマセヌガ、ドウゾ少シ能ク練ッテ戴キタイ

○長岡政府委員 商法ノ八十二條ニ「合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ス」トアリマシテ、其合併サレタ會社ガ活キテ居ルト云フ規定ハ、少シモ私ハ見當リマセヌ、何條デアリマスカ

○原(夫)委員 商法ノ合併ノ規定ハ、其規定ヲ前後ラズツト能ク讀ンデ戴クト、其範圍内ニ於テドウシテモ債權者ノハ殘ッテ居ルト云フコトニナル、今ノヤウナ合併ノ届出ニ依テ直グ消エルト云フ規定ハナイノデアリマス

○長岡政府委員 考ヘテ置キマス

○有馬委員 大分同僚ノ諸君カラ非常ニ細カイ御質問ガアリマシタカラ、私ハモウ御尋スル事ガ無イヤウデアリマスガ、簡單ニ御尋致シマス、是ハ總括的ノ問題デアリマスカラ、鈴木參與官ニ一寸御尋申シタイト思ヒマス、社會局

ノ案ト云フモノハ、先日長岡サンノ御話デ、アレハ全然社會局ノ私案ダト云フ話デアリマス、若シサウダト致シマスレバ、アノ社會局案ト云フモノハ、社會局デ實際勞働行政ニ携ッテ居ラシヤル長岡長官ヲ初メ、部長課長ノ方ミノ理想的ノ本當ノ氣持ノ現ハレテ居ル案デアルト私ハ思フノデス、勞働行政ノ實際ニ携ッテ居ラレル方ミノ立場カラ見テ、最モ理想的デアルト御考ニナッテ御作リニナッタモノガ、此社會局案ト思フノデス、サウスルト今回政府カラ出マシタ案ハ、社會局ノ案トハ此所デ論議ヲ繰返サレテ居リマス重要ナ點ガ、可ナリ違ッテ居ルノデアリマス、サウスルト先程安藤君カラ一寸御尋ガアリマシタ、大體長岡サンノ御考ハ分ッテ居ルノデアリマスガ、詰リ政府ノ今度出シマシタ案デハ、實際ニ勞働行政ニ携ッテ居ラシヤル方ミノ立場カラ言ヘバ、極メテ不満足ナ感ジヲ御持チニナッテ居ルノデハナカラウカト私ハ推測スルノデアリマス、決シテ是ハ伺フノデアアリマセヌガ、多分サウダラウト思フノデス、然ルニ又一方政府カラ出テ居リマスル案ニ對シマシテハ、是ハ行政調査會、殊ニ之ヲ言換ヘテ見マスレバ、他ノ省ノ陸海軍、大藏省、商工省、其他ノドチラカト言フト資本家側ニ近イ方ニ居ラシヤル方ミノ意見ガ、是ハ非常ナ理想的ナ案デハナイカモ知レマセヌケレドモ、是ハ非常ニ良イ案ダト云フコトヲ仰シ

ヤッテ居ラシヤル、所ガ此委員會ノ空氣カラ其他ノ様子ヲ見ルト、憲政會及新正俱樂部ノ方ミカラ、斯ウ云フ風ニ修正シタイト云フ意見ガ新聞ニ表ハレテ居ル、其修正意見ヲ見ルト、ソレガ社會局原案ニ戻ルヤウナ風ニナッテ居ル、若シ政府ガ今御出シニナッテ居ルモノヲ、最モ良イモノト思ッテ居ラレルナラバ、此修正ガ通レバ、政府ノ御考ハ全然覆サレルコトニナルト思フ、ソコデ私ハ甚ダ迷フノデアリマス、一體勞働組合法ト云フモノハ、ドウ云フノガ本當ノモノデ、ドレガ一番良イノカ、サッパリ雲ヲ掴ムヤウナ風ニ分ラナクナッテシマフ、若シ政府ノ御出シニナッタヤウナモノガ理想的ノモノダト云フナラバ、若シソレガ通ラナイヤウナラバ、寧ロ此組合法ハ通ラナイ方ガ宜イト御考ニナルノデアリマス、或ハ何時カ新聞ニ若槻サンノ御話トシテ出マシタヤウニ、ドンナモノデモ兎ニ角通レバ宜イト言ッタヤウナ、曲リナリニモ通シタイト云フコトヲ言ッタヤウニ出テ居リマシタガ、ドンナ修正ヲ施サレテモ、通レバ宜イト云フ御考デアリマス、ドウモ其邊ガ私等ニ能ク分ラナイノデアリマスガ、所謂政府ノ立場トシテ、參與官ノソレニ對スル御考ヲ伺ヒタイノデス、恐ラク此組合法ハ、此委員ノ間ニ於キマシテモ、非常ニ考ガ違ッテ居ルヤウデアリマス、ソレカラ憲政會ノ修正トカ、新正俱樂部ノ修正トカ言ッテ居リマス

ルケレドモ、本黨ニ於テモ政友會ニ於テモ、恐ラク黨内ニ於テサヘモ非常ナ思想上ノ違ヒカラ、區々ノ意見ガ出テ、又衆議院デ非常ニ進歩シタモノヲ作リマシテモ、貴族院デ逆戻リサレルト云フヤウナコトニナツテ、結局ハ餘リ初メノ目的ニ副ハナイヤウナ勞働組合法ガ出來テシマヒハセヌカト思フ、若シサウ云フモノデアルナラバ、政府ハ出來ナイ方ガ宜イノデアリマス、或ハ曲ツタモノデモ通ル方ガ宜イト云フ御考デアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイ

○鈴木政府委員 只今有馬サンノ御質問デアリマシタ、私カラ御答ヲ致シマス、政府ハ此案ヲ最モ適當ナル案ト考ヘテ居ルノデアリマス、而シテ此事ニ付キマシテハ、昨日モ一寸申述ベタコトガアリマスルガ、私トシマシテハ多分此案デ皆様ノ御協賛ヲ得ラレルモノト思ヒ、議論ハナサシマシテモ、議論ハ議論トシテ、結局歸著スル所ハ此所ラ邊ヨリ外アルマイト云フ位ノ所デ、皆様ノ御協賛ヲ得ラレルコト、思ヒマス、唯併シ非常ニ修正ヲサレテシマツテ、ソレガ兩院ヲ通過シタラドウスルカト云フコトニナリマス、根柢ニ觸レル、而シテ餘リ「リーゾナブル」デナイ修正デアリマス、政府トシテハ洵ニ困ルノデアリマス、然ラザル場合ニ於キマシテ、是ハ何デモカンデモ政府ノ同意ガアラウガアルマイガ、修正ヲ無暗ニナサツテ、而モソレガ兩院ヲ通過シタ

ト云フ場合ニ、政府ハ之ヲ如何トモスルコトハ出來ナイノデアリマス、此點ダケヲ申上ゲタノデ、或ハ言葉ガ足ラナクテ、外ノ意味ニ御解釋下サツタノカモ知レマセヌガ、政府ノ趣旨ハサウ云フ譯デアリマスカ、左様御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス、而シテ社會局ガ所謂私案ナルモノヲ發表致シマシタ、此私案ヲ發表致シマシタ、爲ニ色々餘計ナ紛議ヲ醸シマシテ、前ノ案ノ方ガ宜イデヤナイカ、前ノ案ニ斯ウナツテ居ルノニ、何故斯ウ變ヘタカト云フコトヲ屢申サレルノデ、其度毎ニ社會局當局ハ大變恐縮致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ此遣方ハ將來モ起ルコトト存ジマス、民法ニシロ、刑法ニシロ、獨逸ナドニ於キマシテハ、政府ニ於テ一旦成案ヲ得レバ、之ヲ公表シテ、所謂社會ノ曝シ物ニシテ、社會ノ意嚮ヲ聽イテ、其意嚮ガ合理的ナモノデアレバ、或ル程度迄容レテ、更ニ案ヲ練ツテ、其案ヲ議會ニ提出シテ、協賛ヲ仰グト云フ立前ニナツテ居リマス、從來ノ日本ニハ左様ナ遣方ハ餘リ無カッタヤウデアリマス、陪審法案ノ提出ノ時分ニ、稍之ニ似寄タ經過ガアリマシタガ、是ハ政府ノ豫期シナイ經過デサウ云フヤウナ事ニナツタノデアリマシテ、政府部内カラ自ラ案ヲ示シテ輿論ニ問ウテ、輿論ノ存スル所ヲ多少デモ參酌シテ、更ニ之ヲ他ノ機關ニ掛ケテ、其議論ヲ聽イテヤッタト云フノハ、今回ガ始めテデハ

ナイカモ知レヌガ、最モ著シキ例ノ一ツデアラウト存ジマス、此遣方ハ私ハ將來ヤツテ然ルベキコトダト思フ、唯困ル事ハ、前ノ案ニ斯ウアツタノニ、今度ハ斯ウ變ヘタ、政府ハ確信ガナイデヤナイカ、前ノ案ノ方ガ良イカラ引戻セトカ何ト云フヤウナ意味ノ御議論ヲ聽クト云フコトハ、實ハ甚ダ恐縮スルノデアリマス、是ハ成べく御寛大ノ態度ヲ以テ見テ頂キタイト思フノデアリマス、ソレカラ委員會ノ空氣ニ付テノ御話ガアリマシタガ、成程委員會ニ於テ多ク雄辯ヲ御揮ヒナサツタ方ハ、何レモ此問題ヲ深く研究ナサツタ少壯有爲ノ方デアリマシテ、而モ大部勞働者側ニ餘計理解ノアル方ミデ居ラシヤイマス、而シテ發言セザル方ハドウヤカト云フト、是ハ進ミ過ギテ居ルト云フ意見モアルヤウニ思フ、此點ハ聲ガ大デアアルカラソレガ眞理デアルトバカリモ申上兼ネルカト思ヒマスガ、此點ハ餘リ申スト舌禍ヲ買フ危險ガアリマスカ、此程度ニ止メテ置キマスルガ、色々ノ各方面ノ意見ヲ參酌シテ定メタナラバ、自ラ此案ガ極メテ穩健著實ナル案デアルト云フコトニ落付クコトト私ハ確信シテ居ル次第デゴザイマス、此段御答申上ゲマス

○有馬委員 其點ハ重ネテ御尋ハ致シマセヌ、又今ノ事ハ御尋スベキ性質ノモノデモナイト思ヒマスガ、私ハ決シテ前ノ社會局案ト今度ノ政府案ト違フカラ、惡イト言ツテ非難シタ積リデハナイ、只今ノ曝シ物ニスルト云フ御話ハ、私モ同感デアリマス、政府ガ案ヲ作ラレテ、暫クソレヲ社會ニ示サレテ、輿論ヲ聽イテ適當ニ直サレルト云フコトハ、今後モヤルダラウト云フ御話ハ、洵ニ結構ダト思ヒマスガ、社會局ノ案ヲ御出ニナツテ、サウシテ世間ノ輿論ヲ御聞キニナツタ上デ、今度ノ案ニ御直シニナツタトスレバ、ドウモ餘リ輿論ヲ御聽キニナツタヤウニハ思ハレナイ、若シ行政調査會ヲ經タモノヲ曝シ物ニナスツタノデアアルナラバ、洵ニ結構ダト思ヒマスガ、サウデハナカッタ、勞働團體ノ中ニ於テモ、前ノ案ナラ反對スルケレドモ、今度ノ政府ノ案ナラ幾分良イデヤナイカト言ツテ居ル者モアルヤウデアリマスカ、前ノ曝シ物ハ少シドウカト思ヒマス、社會局ノ案ヲ御出シニナツテ、世間ハ社會局ノ案ガ良イト言ツテ居タモノヲ、今日ノ世間ノ輿論ニ合ハヌモノヲ御出シニナツタノハ、曝シ物ニスルト云フ意味ニ合ハナイト思フ、今後曝シ物ニスルナラバ、斯ウ云フ意味デナクヤツテ頂キタイ、此希望ダケ申上ゲテ置キマス、モウ一ツ根本的ノ問題ヲ伺ヒタイノデアリマスガ、此勞働組合法ト云フモノハ、階級的立法ナノデアアルカ、私言葉ヲ能ク知リマセヌガ、協調的立法ナノデアアルカ、是ハ長官ニデモ伺ヒタイノデスガ、勞働者ノ保護、勞働團體、勞働運動ノ發達ヲ助成スルト云フヤウ

ナ意味デ此組合法が出来テ居ルト云フ所カラ見ルト、所謂資本家ニ對シテ労働者が團體ヲ作ッテ對抗シテ行ク、其運動ヲ助ケルト云フ意味ニ於テハ、確ニ闘争的デ、謂ハハ階級闘争ト云フモノヲ原則トシテ認メナクテモ、少クトモ事實トシテ認メルト云フ立場カラ出テ居ルト思フ、然ルニ内容ヲ見ルト、ソレ等ノ點ニ於テハ非常ニ缺ケテ居ル、例ヘバ團體交渉權ヲ入レテナイトカ、多クノ方ミガ論セラレマシヤウニ、労働者ノ團結權、労働團體ノ闘争ト云フヤウナコトヲ助ケルニハ、非常ニ力ガ弱イヤウニ思フ、一方ニハ日本ノ産業ノ事モ考ヘナケレバナラヌトカ、或ハ資本家ノ事モ考ヘナケレバナラヌトカ仰シヤル所ヲ見ルト、協調的立法ダト思フ、若シ協調的立法デアルトスルナラバ、丁度小作組合ヲ内務省ガ獎勵シテ居ルヤウニ、労働者モ資本家モ一緒ニ入レタ組合ヲ作ッタ方ガ、協調ノ目的ヲ達スルノデハナイカト思フ、所ガサウ云フ點ニナリマス、雇傭者トカ資本家ノ代表ト云フモノハ絶對ニ排斥サレテ、労働者デナケレバ労働組合ニ入レナイト云フコトヲ規定シテ居ル、サウナルト闘争ヲ目的トシタ階級的ノ意味ハ立法カ、或ハ協調的ノ意味ノ立法カ、能ク分ラヌノデアリマスガ、其點ヲ御伺シタイノデアリマス

○長岡政府委員 大變ムヅカシイ御質問デ當惑致ス次第デアリマス、階級的、

協調的ト云フ文字ノ意味ニ依リマシテハ、階級的トモ協調的トモ言ヘヤウト思ヒマスガ、文字ノ用例ガハッキリ定ッテ居リマセヌカラ、如何様ニ申上ゲテ宜イカ惑フノデアリマスガ、労働者ガ個個ノ力ヲ以テシテハ、強力ナ資本家ニ對抗スルコトガ出来ナイ、之ニ相當ノ保護ヲ與ヘテ、團結ヲ公認シヤウト云フ意味ノ階級的デアルト云フコトデアラナラバ、是ハ階級的トモ言ヘマセウガ、然ラバ階級的ト言ッテ、労働組合ニ依テ階級闘争ヲ助長シ、激烈ナラシムサウデハゴザイマセヌ、労働組合ハ寧ロ將來勞資間ノ圓滿ナル協調ヲ圖ル爲ニ、秩序的ニ發達シタ方ガ、労働者ノ爲ニモ、資本家ノ爲ニモ宜シイト考ヘルノデゴザイマシテ、之ヲ團體的ニ能ク協調シテ行クコトガ、労働者ニモ資本家ニモ利益デアル、又社會ニモ利益デアル、此意味ニ於テ労働組合ガ發達シ、組織ガ完備シテ、而シテ秩序ガ整フト云フコトガ、階級闘争ヲ助長スル手段トハ考ヘテ居リマセヌカラ、若シ階級的ト云フコトヲ階級闘争ト云フヤウナ強い意味ニ用ヒルトスレバ、是ハ階級的デハナイト云フコトヲ申上ゲル外ハナイノデアリマス、一ツ事ヲ竝ベテ答辯ノ態様ヲ成シテ居リマセヌクレドモ、先ヅ其邊デ御諒承ヲ願フヨリ外ハゴザイマセヌ

○有馬委員 斯ウ云フヤウナ質問ハ止

メマスガ、第一條ノ——是ハドナタカ御質問ガアリマシタナラバ、速記録ヲ拜見致シマスカラ、御答ガナクモ結構デアリマス、自由労働者ノ組合ハ、同一若クハ類似ノ職業ニ従事スルト云フ風ニ御考ニナッテ、自由労働者ノ組合ハ御認メニナルノデアリマスガ、御認メニナラヌノデアリマスガ、自由労働者ノ事ハ、申上ゲル迄モナイコトデアリマスガ、サウ云フ労働者ト云フコトカ言ヘバ同一デアリマスガ、其個々ノ職業、關係スル産業ハ、皆バラ／＼ニ違ヒマス、個人カラ考ヘマシテモ、其日ミミニ依テ職業ガ違フト云フ有様デアリマス、自由労働者ト云フモノ、團體ハ、労働組合トシテ御認ニナルノデアリマスカ、御認ニナラヌノデアリマスカ

○長岡政府委員 自由労働者ノ中ニハ、其日ミミニ依リマシテ、職業ノ態様ヲ多少異ニ致シマスクレドモ、最早自由労働者若クハ日雇労働者ト申シマス

ト、社會的ノ觀念ガハッキリ致シテ居リマス、而シテ是ハ短期間デハアリマスケレドモ、雇傭契約ノ下ニ働イテ居リマスカラ、御説ノ通りニ自由労働者組合ト云フモノヲ認メテ宜カラウト考ヘテ居リマス

○有馬委員 先日原夫次郎君デアッタト思ヒマスガ、本會議ノ爭議調停法ノ御質問ノ時ニ、農業労働者モ此中ニ包含スルト云フ風ノ總理大臣ノ御答辯デアッタト思ヒマスガ、農業労働者ト申シマシテモ、其從事シテ居リマス仕事ハ、非常ニ多岐ニ互ッテ居ルト思フノデス、工業ノ方面デハ同一若クハ類似ト云フヤウニ制限サレテ居リマスガ、農業、林業、漁業等ニ付キマシテハ、其内部ニ於テ幾ラ違ッテ居リマシテモ、農業労働者トシテ團結シテ居リマスレバ、農業労働者トシテ組合ヲ御認メニナリマスカ、ナリマセヌカ

○長岡政府委員 小作人ヲ除キマシタ農業労働者ハ、是亦自由労働者ノ如ク多少労働ノ態様ヲ異ニシテ居リマス、例ヘバ養蠶ヲ手傳ヲスル者モ居リマスレバ、又賃銀ヲ得テ麥ヲ刈ル、種子ヲ蒔クト云フコトヲ致ス者モゴザイマスガ、是モ今日労働者ノ一ツノ觀念ノ中ニ加ッテ居リマスカラ、之ヲ一ツノ産業ト見テ、農業労働者ヲ認メテ差支ナイト考ヘテ居リマス

○有馬委員 小作人ノ事ニ付テ少シ伺ヒタイノデスガ、是ハ寧ロ農林省ノ方ニ伺ヒタイノデスガ、農林省ノ方ガ御出ニナリマセヌカラ、ドナタデモ結構デゴザイマス、小作人ヲ此労働組合ニ於テハ除外シテ御出ニナルヤウデアリマスガ、小作人ヲ労働者トシテ御認メニナラナイノハドウ云フ譯デアリマスガ、其理由ハ此間ノ御答辯カラ一寸推測致シマス、小作人ハ労働者デナイト云フ學問的ノ解釋カラ來テ居ルヤウデスガ、勿論私モ小作人ガ賃銀労働者デナイト云フコトハ承知致シテ居リマス

ガ、小作人ガ企業家デアルト云フノハ、所謂純粹ノ學問的ノ立場カラノ御解釋デハナカラウカト思フノデス、此勞働組合ヲ御作リニナリマス趣意カラ申シマス、學問的ナ立場カラバカリ御考ニナッテ居ラシヤルデハナイカ、寧ロ實際上ノ立場カラ考慮シテ戴キタイト思ヒマス、サウ云フ立場カラ考ヘテ見

此勞働組合ガ出來テ居ルノデアツテ、單ニ此勞働者ト云フ名前ニ因ハレテ居ルモノデナイト云フナラバ、私ハドウシテモ小作人ト云フモノハ入レルノガ當然ト思フノデスガ、ドウシテ小作人ハ御省キニナリマスカ、其理由ヲ伺ヒタイト思ヒマス

トハ、爭議ノ性質ナリ實行ナリガ餘程違ヒマス、是等ノ日本ノ古來ノ慣例等モ斟酌ヲ致シマシテ、小作人組合ニ適當ナル立法ヲ致サナケレバナラヌ、併ナガラ小作人デアアルガ故ニ、甚ダ偏頗ナ壓迫ヲ加ヘルト云フコトハ、是ハ不都合デゴザイマセウガ、兎ニ角其他ノ種々ノ點ニ於テ一般勞働者ト甚ダ違ッテ居ル點ガアリマスカラ、是ハ既ニ御協賛ヲ得マシタ小作制度調査ニ關スル費用ヲ以テマシテ、此ノ問題ニ限ラズ小作人制度ニ關スル調査會ヲ來年度カラ開キマシテ、十分ナル研究ノ末ニ、案ヲ練ッテ小作人勞働者組合法案ナルモノヲ近キ將來ニ提出ヲ致シタイト云フ考デ、多少ハ延ルカモ知レマセスケレドモ、農業勞働者ヲ保護シナイデ突ッ放スト云フ譯デハゴザイマセヌ、是等ハモウ少シ實際ノ狀況ヲ調査シタ上ニ、適當ナ法案ヲ作リタイト思ッテ、調査モ致シ、種々ノ方面ノ研究ヲ致シテ居リマス、右様ニ御承知ヲ願ヒマス、ソレカラ國際會議ニ於テ那須君ト政府代表トノ間ニ議論ノアリマシタコトハ、御記憶ノ通りデアリマスガ、私ノ傳聞致シテ居ル所ニ依リマス、其時ハハッキリ議決ニ依テ那須君ノ意見通り決定シタヤウニハ承知致シマセヌ、是ハ尙ホ事務局ニ於テ研究スルト云フ懸案ニ貽ッテ居ルヤウニ、私ノ記憶ガ違ッテ居レバ失禮デゴザイマスガ、私ノ記憶ニハサウ貽ッテ居ルノデアリマス、附加ヘテ申

上ゲテ置キマス ○有馬委員 只今工業勞働者ト小作人トハ大分違フカラト云フ御話ガアリマシタ、勿論私モサウ考ヘマスカラ、調査シテ案ヲ作ラレルコトニ異存ハナイノデアリマスガ、小作組合ト云フモノガ、將來是カラ小作制度調査會ヲ設ケテ、ソレハ何レ作ルノダ、成ベク早ク作ルノダト云フ御話デアリマスケレドモ、小作爭議調停法ハ勞働爭議調停法ヨリ先キニ出來テシマッテ居ル、寧ロ其時代ノ考カラ申シマス、勞働爭議ヨリモ小作爭議ノ方ガ世ノ中ノ注意ヲ餘計ニ惹イタ結果カモ知レマセヌガ、兎ニ角先ニ出來テ居リマス、又小作制度調査會ハ、今開始メテ出來ルノデアリマセヌノデ、隨分前カラアルノデアリマス、一遍在ッタモノガ暫ク止メニナッテ、復タ出來ルノデアリマス、小作法モ小作調停法モ、農林省デ疾クニ出來テ居リマスコトハ、私ガ農商務省ニ居リマシタ時ニ出來テ居リマシタカラ、能ク承知シテ居リマス、而シテ小作組合ハ、勞働組合ヨリモ、其數ニ於テモ、内容ニ於テモ多イノデアリマス、然ルニ勞働組合法ダケガ出來テ、小作組合法ガ別段ニ取扱ハレルコトハ、偏頗ノヤウニ思ヒマス、ソレハ意見トシテ申スノデアリマスガ、ソレカラ小作人ヲ勞働組合ニ入レルコトハ、弊害ガアルノデ御除キニナッタノデアリマス、勞働組合運動ヲ非常ニ有效ニスル爲ニハ、小

ガ、小作人ガ企業家デアルト云フノハ、所謂純粹ノ學問的ノ立場カラノ御解釋デハナカラウカト思フノデス、此勞働組合ヲ御作リニナリマス趣意カラ申シマス、學問的ナ立場カラバカリ御考ニナッテ居ラシヤルデハナイカ、寧ロ實際上ノ立場カラ考慮シテ戴キタイト思ヒマス、サウ云フ立場カラ考ヘテ見マスルト、農業勞働者ト云フ者ガ認メラレテ、小作人ト云フモノガ省カレルト云フコトハ、ドウモ實際上カラ參リマスト理窟ニ合ハナイヤウニ私ハ思ヒマス、小作人ガ企業者デアアルカラ、小作人ハ勞働者デナイト仰シヤル、ソレハ純粹ノ議論カラ申シマスレバサウデアリマスケレドモ、實際上カラハ、日本ノ小作人ハ勞働者ト同一ノ取扱ヲ致シマスルノガ本當ト思フ、是ハ萬國ノ勞働會議ニ於テ、農科大學ノ那須君ノ力說サレマシタ、日本ノ所謂政府ノ代表者ハ、小作人ハ勞働者ト違フト力說サレマシタケレドモ、結局那須君ノ所謂實際上ノ農業勞働者ハ、他ノ勞働者ト同様ニ取扱フベキモノデアルト云フ主張ガ頭に通ッテ、小作人ハ農業勞働者トナッタコトハ御承知ノ事ト思フ、サウ云フ實際ノ立場カラ、農業勞働者ト同様ニ小作人ヲ御取扱ニナルト云フコトハ、適當デハナイカト思ヒマス、此有産階級、所謂資本主義ノ下ニ削除サレテ居ル所ノ階級ヲ援助スルト云フ所謂無産階級ノ者ヲ保護スルト云フ立前カラ、

○長岡政府委員 小作人ト農業勞働者ト其他ノ勞働者ト生活狀態其他ニ付テ殆ド同様デアアル、之ヲ區別スルノハ餘リニ學問ニ偏シタ意見デアルト云フコトハ、是ハ洵ニ御尤ト思ヒマス、其點ハアルト考ヘマス、餘リ學問上ノ理論ニ捉ヘラレマシテ、實際ニ適シナイ立法ヲスルコトハ、慎ムベキコトデアリマスケレドモ、亦學問的理論的ノ事ヲ全然無視スル譯ニハ參ラヌノデアリマスカラ、實際カラ申シマシテモ、雇傭關係ノ下ニ於テ是ハ賃金勞働者ト云フヨリモ、企業者ト云フ解釋ガ出來ルカモ知レマセスケレドモ、小作人ハ企業的ノ性質ヲ帶ビテ居ルト云フノガ普通ノ考デアリマス、唯小作人ノ組合ニ對シテ、マルデ顧ミナイト云フト、只今ノ御意見ノヤウニ或ハ大ナル不都合ガ生ズルカモ知レマセヌガ、此事ハ近ク成案ヲ得ル積リデアリマス、生活狀態其他ニ付キマシテハ、是ハ大シタ差異ハアリマセスケレドモ、小作人ト他ノ工業勞働者ノ狀況トハ、餘程趣ヲ異ニシテ、一例ヲ引イテ申上ゲマスナラバ、小作人ノ爭議ノ場合ト、工業的ノ爭議ノ場合

トハ、爭議ノ性質ナリ實行ナリガ餘程違ヒマス、是等ノ日本ノ古來ノ慣例等モ斟酌ヲ致シマシテ、小作人組合ニ適當ナル立法ヲ致サナケレバナラヌ、併ナガラ小作人デアアルガ故ニ、甚ダ偏頗ナ壓迫ヲ加ヘルト云フコトハ、是ハ不都合デゴザイマセウガ、兎ニ角其他ノ種々ノ點ニ於テ一般勞働者ト甚ダ違ッテ居ル點ガアリマスカラ、是ハ既ニ御協賛ヲ得マシタ小作制度調査ニ關スル費用ヲ以テマシテ、此ノ問題ニ限ラズ小作人制度ニ關スル調査會ヲ來年度カラ開キマシテ、十分ナル研究ノ末ニ、案ヲ練ッテ小作人勞働者組合法案ナルモノヲ近キ將來ニ提出ヲ致シタイト云フ考デ、多少ハ延ルカモ知レマセスケレドモ、農業勞働者ヲ保護シナイデ突ッ放スト云フ譯デハゴザイマセヌ、是等ハモウ少シ實際ノ狀況ヲ調査シタ上ニ、適當ナ法案ヲ作リタイト思ッテ、調査モ致シ、種々ノ方面ノ研究ヲ致シテ居リマス、右様ニ御承知ヲ願ヒマス、ソレカラ國際會議ニ於テ那須君ト政府代表トノ間ニ議論ノアリマシタコトハ、御記憶ノ通りデアリマスガ、私ノ傳聞致シテ居ル所ニ依リマス、其時ハハッキリ議決ニ依テ那須君ノ意見通り決定シタヤウニハ承知致シマセヌ、是ハ尙ホ事務局ニ於テ研究スルト云フ懸案ニ貽ッテ居ルヤウニ、私ノ記憶ガ違ッテ居レバ失禮デゴザイマスガ、私ノ記憶ニハサウ貽ッテ居ルノデアリマス、附加ヘテ申

上ゲテ置キマス ○有馬委員 只今工業勞働者ト小作人トハ大分違フカラト云フ御話ガアリマシタ、勿論私モサウ考ヘマスカラ、調査シテ案ヲ作ラレルコトニ異存ハナイノデアリマスガ、小作組合ト云フモノガ、將來是カラ小作制度調査會ヲ設ケテ、ソレハ何レ作ルノダ、成ベク早ク作ルノダト云フ御話デアリマスケレドモ、小作爭議調停法ハ勞働爭議調停法ヨリ先キニ出來テシマッテ居ル、寧ロ其時代ノ考カラ申シマス、勞働爭議ヨリモ小作爭議ノ方ガ世ノ中ノ注意ヲ餘計ニ惹イタ結果カモ知レマセヌガ、兎ニ角先ニ出來テ居リマス、又小作制度調査會ハ、今開始メテ出來ルノデアリマセヌノデ、隨分前カラアルノデアリマス、一遍在ッタモノガ暫ク止メニナッテ、復タ出來ルノデアリマス、小作法モ小作調停法モ、農林省デ疾クニ出來テ居リマスコトハ、私ガ農商務省ニ居リマシタ時ニ出來テ居リマシタカラ、能ク承知シテ居リマス、而シテ小作組合ハ、勞働組合ヨリモ、其數ニ於テモ、内容ニ於テモ多イノデアリマス、然ルニ勞働組合法ダケガ出來テ、小作組合法ガ別段ニ取扱ハレルコトハ、偏頗ノヤウニ思ヒマス、ソレハ意見トシテ申スノデアリマスガ、ソレカラ小作人ヲ勞働組合ニ入レルコトハ、弊害ガアルノデ御除キニナッタノデアリマス、勞働組合運動ヲ非常ニ有效ニスル爲ニハ、小

作人ヲ入レナケレバナラス、寧ロ入レ
タ方ガ宜イト考ヘマス、現在勞働組合
ガ「ストライキ」ヲヤルト、短時日ノ間
ニ資本家ニ負ケテシマウ、ソレハ金ガ
無イカラデアル、資本家カラ賃銀ヲ貰
テ勞働者ハ生活シテ居ルノデアリマス
カラ、喧嘩ヲスルト賃銀ガ貰ヘナクナ
ルノデ、直グニ負ケルノデアリマス、一
二箇月デ「ストライキ」ヲヤルコトガ困
難ニナリマスカラ、自然勞働者ガ負ケ
ルノデアリマス、之ニ反シテ小作人ハ
喧嘩ヲスレバ喧嘩ヲスル程、小作米ヲ
地主ニヤラナイカラ收入ガ多イ、隨テ
小作爭議ニ五年モ六年モ續イテ居ルモ
ノデアリマス、然ルニ勞働組合ニ小作
人ヲ入レ、バ、勞働爭議ハ有利ニ導ク
コトガ出來ルト思ヒマス、サウ云フ意
味カラ勞働組合ヲ有效ニ活動セシメヤ
ウト思フナラバ、小作人ヲ包含セシメ
タ方ガ、勞働組合トシテ非常ニ有利ト
思ヒマス、併シ有利ニナルカラ小作人
ヲ省イタノデアルト仰シヤルナラバ別
デアリマスガ、小作人ヲ省クニ付テハ、
唯漫然ト農業者ト勞働者トハ違フカラ
ト云フノデ御省キニナッタノデアリマ
スカ、或ハ他ニ兩者ノ性質ガ違フカラ、組
合モ亦別ニ作ラナケレバナラスト云フ確
タル理由ガソコニアルノデアリマスガ
○長岡政府委員 御意見御尤ト存ジマ
スガ、吾々ノ考トシテハ、利害關係ノ密
接ナルモノガ組合ヲ作ルコトガ、自然
且ツ利益デアルト先ニモ申上ゲマシタ

ノデアリマシテ、成程一緒ニシタ場合
ニ、小作人ノ出シタ會費ヲ以テ工業勞
働者ノ爭議ヲ助ケルナラバ、勞働者ニ
ハ利益デアリマスケレドモ、此利益ノ
アル所即チ又害ノアル所デ、小作人ハ
工業勞働者ノ爲ニ其積立テタ金ヲ取ラ
レテハ困ル、利害相反スル爲ニ組合ノ
内部ガ圓滿ニ往カナイデ、軋轢ヲ生
ズルト云フヤウナコトガ、一面ニハ想
像ガ出來ルノデアリマス、要スルニ小
作人ト勞働者トハ餘程其趣ヲ異ニシテ
居ルノデアリマシテ、小作爭議ハ日常
生活ニ直接關係ヲ及ボスコトハ少ナイ、
成程米ハ生活必需品デアリマスケレド
モ、部分的ニ起リマシタ農業爭議ハ、餘
リ影響ヲ及ボシマセヌ、地主ト小作人
トハ、勞働者ト資本家ニ較ベテ、人的關
係ガ密接デアリマス、又小作爭議ハ性質
ガ早急デアリマセヌ、短時日ニ終了シ
ナイコトヲ以テ常トシテ居リマスカラ、
進行ガ急デ、解決ヲ速ニスルコトヲ要
スル勞働爭議ト一緒ニ扱フコトハ出來
マセヌ、又小作爭議ハ、過去ノ小作條件
ヲ變更スルト云フ如キ法律關係ガ多イ
ノデアリマスガ、勞働爭議ハ多クハ事
實問題ノ爭ニナルノデアリマス、要ス
ルニ範圍ガ農業ニ限リ、且ツ土地ニ關
スルモノハ、別箇ノモノトシテ扱フノ
ガ自然、且便宜デアルト云フ點カラ致
シマシテ、農林省ニ於テ他ノ法制ヲ以
テ規定シヤウトスル譯デアリマス、非
常ニ遅レタコトハ申譯アリマセヌガ、

精々農林省ヲ督勵致シマシテ、早ク提
案ノ運ニ至リマシヤウニ、御趣旨ノア
ル所ヲ傳達致シマス
○有馬委員 第二條ノ共同利益ノ保護
増進ニ付テ、色々御舉ゲニナリマシタ
ガ、勞働者ノ教育ガ割合ニ閑却サレテ
居リマス、英國ノ勞働者教育會ノ下ニ、
勞働組合ガ中心トナッテ勞働學校ヲ經
營シテ、更ニ進ンデ大學マデモ經營シ
テ居リマスガ、勞働運動ノ健全ナル發
達ヲ希望セラル、當局ハ、勞働學校ノ
發達ハ希望シテ居ラレト思ヒマスガ
サウ云フ教育機關ヲ設置シテ、勞働者
ノ教育ヲスルコトヲ必要ト認メタトキ
ニ、第一ニ必要ナモノハ金デアリマス
ガ、サウ云フコトヲ組合トシテ其金ガ出
來ルト御考ニナルノデアリマスガ、營
利事業ハ全然ヤラセナイ御方針デア
ルト云フト、組合ハドウシテサウ云フ仕
事ガヤッテ往ケルノデアリマスガ、勞働
行政ノ立場カラ御意見ヲ伺ヒマス
○長岡政府委員 只今ノ前段ノ御說ハ
御同感デアリマス、修養教育ニ勞働組
合ガ盡力スルコトハ、極メテ宜シイ傾
向ト考ヘマス、此點ニ付テ只今ノ御說
ニ御同感ノ意ヲ表シマス、後段ニ御引
例ノ事ハ、今日ノ實情ヲ能ク穿ツタ御言
葉デアリマシテ、日本ノ勞働組合ニ於
テ勞働學校ヲ經營シテ居ルモノモ、近
頃大分増加致シマシタケレドモ、資金
充實ノ足りナイ爲ニ、經營難ヲ告ゲテ
居リマス、現在勞働組合ノ經營シテ居

リマス勞働學校ニ對シ、資金ノ御心配
ニ御著眼ニナッタ所ハ、實際的ノ御考ト
敬承致シマスガ、併ナガラ獨リ學校ノ經
營ノミニ限ラズ、日本ノ勞働組合ノ資
金ガ潤澤デナイト云フコトガ、總テノ
病根ヲナシテ居ルノデアリマス、ドウ
モ此佛蘭西人モサウ云フ傾向ガアルサ
ウデアリマスガ、十分ニ會費ヲ出セヌ
ト云フ今日ノ狀態ハ、アマリ好マシカ
ラス、又組織ガ整備シテ居リマセヌガ
爲ニ、ドウモ資金ガ充實シナイ、資金ガ
出來マスト基本財産ヲ有ッテ居リマス
ト、組合自體ガ既ニ爭議ヲ起サナイデ
モ、相當ノ偉力ヲ持チ得ルノデアリマス、
今日トシテハ組織ヲ完全ニスルコト、
組合ノ基本財産ヲ潤澤ニスルコトガ、
勞働組合自體トシテ考ヘナケレバナラ
ヌコト、考ヘテ居リマス、併シ是ハド
ウモ組合ノ性質トシテ、成ベク組合ノ
集メタ經費ヲ以テ支辨スルノガ當然デ
アリマシテ、此營利事業ヲ始メテ大變
宜イ成績ヲ表セバ格別デアリマスケ
レドモ、先程カラ申ス如クニ、勞働組合
ノ營利事業ハ悉ク失敗シテ居ルノデア
リマス、今日之ヲ認メルト云フコトガ、
必ズシモ勞働組合ヲ保護シ、資金關係
ヲ潤澤ナラシメル所以ニアラズト思ヒ
マス、此點ハ右様ニ御了承ヲ願ヒマス
○有馬委員 第十二條ニ付テ少シ承リ
タイト思ヒマスガ、曾テ勞働者タリシ
者ト云フノガアリマスガ、是ハドウシ
テ判ルノデアリマスガ、何カ方法ガア

ルノデアリマセウカ

○長岡政府委員 是ハ例ヘバ紡績業ノ組合デアリマスレバ、紡績業ニ從事シテ居ッタクレドモ、解雇サレタ、或ハ失業状態ニ居ルト云フヤウナ者ガ、現在同ジ産業ノ勞働者デナクテモ、自分ハ曾テ紡績業ニ從事シテ居ッテ、解雇サレタ者デアル、今失業状態ニ居ルケレドモ、追ッテ又紡績業ニ從事スルト云フ者ノ加入ヲ認メルモノデアリマシテ、是ハ實際組合員名簿等ヲ調べマスレバ、左様ナ困難ハナイヤウニ考ヘテ居リマス

○有馬委員 例ヘバ紡績業ニ從事シテ居ッタ者ガ新ニ這入ッテ來ル場合ハサウデアリマセウガ、之ヲサウ云フ者デナイモノガ、サウダト言ッテ這入ッテ來マス時ニ、サウデナイト云フコトヲ突止メルヤウナ方法ガ無イヤウニ思ヒマシガ、例ヘバ何カ登録シテ居ルトカ、何トカ云フコトガアルナラバ判リマスケレドモ、全然違フ鐵工組合ニ關係シテ居ッタ者ガ、私ハ前ニ紡績組合ニ這入ッテ居ッタノダト言ッテ、紡績組合ニ這入ッテ來レバ、サウダト言ッテ所デ、之ヲサウデナイト云フコトヲ立證スル方法ガ無イダラウト思ヒマシカラ、斯ウ云フコトガ書イテ出シテアッテモ、何等意味ヲ爲サナイト思ヒマスガ、何カ特別ニ此規定ヲ御入レニナル必要ガアリマスカ

○長岡政府委員 之ヲ入レマシタ理由ハ、勞働者ハ何時ノ時代ニ限ラズ失業シタリ、又業ヲ得タリスルト云フコト

ヲ繰返サレルコトガ多イノデアリマシテ、斯カル場合ニ現在其職ニ就イテ居ナイカラト申シテ、組合ニ加入ヲ認メナイト云フコトハ、不自然デアラウト云フ考デ加ヘタ次第デアリマス、登録制度ナルモノハ成程ゴザイマセヌガ、工場法ヲ適用サレテ居ル工場ニハ職工名簿ガアリマスガ、勞働組合自體ガソレヲ調べニ行クナド、云フコトハ出來マセヌ、要スルニ此場合ニハ、個々ノ場合ニ於テ勞働組合自體ガ判斷スルヨリ外ハナイト考ヘテ居リマス

○有馬委員 第十九條「主務大臣」ト云フノハ内務大臣ダト云フコトデアリマスガ、例ヘバ砲兵工廠ノ組合ヲ解散サセルト云フヤウナ場合ニ、内務大臣ノ方カラ之ヲヤルコトガ少シモ差支ナク出來ルノデアリマセウカ

○長岡政府委員 勞働行政ノ主管ハ内務省デゴザイマシカラ、只今ノヤウナ場合ニモ内務大臣ガ致シテ差支ナカラウト思ヒマス、ノミナラズ其場合ニ於テ陸軍省ト云フモノハ、雇傭者ノ位置ニアリマシテ、第三者デゴザイマセヌ、職工ヲ使ッテ金ヲ拂ッテ居ル其所管事務ニ付テ、陸軍大臣ニ解散權ヲ與ヘルト云フコトハ、即チ言ヒ換ヘテ申セバ、雇傭者ニ解散權ヲ與ヘルト云フコトニナリマシカラ、矢張勞働行政ノ一般的官廳デアアル内務大臣ニ解散權ヲ持タシタ方ガ適當デアラウト思ヒマスガ、唯少シ言葉ガ足りナイ爲ニ、誤解ヲ殘スト

イケマセヌノデ、尙ホ附加ヘテ置キマスガ、原則トシテ内務大臣ノ積リデアリマスケレドモ、海員勞働ニ付キマシテハ、或ハ遞信大臣ニ解散權ヲ與ヘルト云フヤウナ意見モアリマス、ソレハ勅令ニ依テ規定致ス積リデアリマスガ、是ハ遞信大臣ガ直接船員ヲ雇ッテ居ルノデハナクシテ、船員ヲ雇ッテ居ル雇傭者ト云フモノハ船會社デアリマスカラ、此場合ハ遞信大臣ニスルカモ知レマセヌガ、是ハマダ決定シテ居リマセヌガ

○有馬委員 私ハ初メ主務大臣トハ内務大臣デハナイト思ヒマシテ、若シ雇傭者ノ立場ニアル商工大臣ガ製鐵所ノ組合ヲ解散スルコトガ出來ルト云フヤウナ場合ハ面白クナイト思ヒマシタガ、只今ノ御答デ満足致シマシタガ、ソレト同時ニ私一寸オカシイト思フノデ申上ゲマスガ、只今各省ハ其各省ニ關係アル事業ニ付テハ、雇傭者ノ立場ニ在ルト云フコトデアリマスガ、行政調査會ニ社會局案ガ出サレテ、各省ノ行政調査會ノ方ニガ集ッテ、アノ法案ヲ御作リニナッタト云フコトハ、何ダカ私ハオカシイヤウニ思ヒマスガ、資本家ノ意見ヲ全然聽イタコトガナイト仰シヤルガ、各省ノ御方ノ意見ガ這入ッテ居ルノデハ、要スルニソレハ資本家ノ意見ガ這入ッテ居ルヤウニ思ヒマスガ、是ハ殊更ニ御質問スル譯デハアリマセヌガ、當然其勞働行政ト云フモノガ内務

省ニ統一サレマスコトヲ私ハ切ニ希望スルノデアリマス、ソレカラ第二十一條「組合員ノ缺乏」ト云フコトガアリマスガ、是ハ初カラ組合員ノ數ニ限定ガナイノニ、ドウシテ缺乏ニナリマスカ

○長岡政府委員 組合員ガ病氣デ死ニ絶エタヤウナ場合ヲ云フノデアリマス

○有馬委員 組合員ガ死ンダノニ、缺乏ト云フ字ガアリマスカ

○長岡政府委員 全部退會シタヤウナ場合モ豫想シテ居リマス、全部退會シタヤウナ場合モアリマス

○有馬委員 私能ク法律ノコトハ判リマセヌガ、今ノ御答ニ、死スト云フヤウナ場合ト、全部退會ト云フヤウナ意味ヲ含メタモノヲ「缺乏」ト云フノデアリマスカ

○長岡政府委員 ソレデ宜カラウト思ヒマスガ、全部無クナッタ場合デアリマス

○有馬委員 現在アリマス勞働組合ノ中ニハ唯一人デ三ツモ四ツモ組合ヲ拵ヘテ居ル男ガアルノデスガ、サウ云フノモ矢張一人デモアリマスレバ差支ナイノデアリマスガ、此勞働組合法トシテ御認メニナル點ハ……

○長岡政府委員 只今ノ問題ハ餘リ私モ固執シテ申上ゲル次第デハアリマセヌガ、選出ノ時ハ二人以上ナケレバナラヌ、併シソレガ減ジテ一人ニナッタ場合モ、組合員ノ死亡デ宜カラウト云フ

法律ノ解釋ダサウデアリマス、併シ實際ノ場合ハサウ云フヤウナ事ハ餘リ實ハ豫想シテ居リマセヌ、正直ニ申シマスト……

○有馬委員 最後ニモウ一ツ伺ヒマス、只今勞働行政ノ事ハ總テ内務省ノ社會局デ統一サレルト云フコトデ、洵ニ結構ダト思ヒマスガ、將來小作組合ナドガ出來マシタ場合ニ、此小作ニ關スル事柄モ矢張内務省ノ方デ御取扱ニナルヤウニナルノデアリマセウカ、現在デモ小作ニ關スルコトハ、兩省ニ互テ居ルヤウニ思ヒマス、小作爭議ニ關スル事柄ハ、警保局デモ御取扱ニナリ亦農林省デモ取扱ッテ居ルヤウデアリマス、甚ダ其邊ハ統一ヲ缺イテ居ルヤウニ思ヒマス、此勞働ニ關スル事ハ、總テ内務省デ統一スルト云フコトニナレバ、農業方面ノ勞働ニ關スル問題モ、矢張内務省ノ方デ御統一ニナルノデスカ

〔速記中止〕

○有馬委員 私ノ質問ハモウ是デ打切リマスガ、甚ダ不眞面目ナヤウナ事ヲ申シテ相濟マスト思ヒマスガ、此勞働組合法バカリデナク、總テノ問題ガサウデアリマスガ、各省ノ間デ色ミナ立場、自分達ノ立場ヲ固執サレルコトハ、誠ニ結構ダト思ヒマスノデスガ、一ツノ仕事ガ非常ニ各省ニ互テ居リマス、サウシテ各省ガ御互ニ勝手ナ事ヲ言ヒ合ッテ居ルコトハ、總テノ問題ノ上ニ常ニ支障ヲ來シテ居ルヤウニ思フノデア

リマス、願クバ此勞働行政ノコトモ、將來ニ於テハ全然内務省デ統一サレルコトガ出來ルナラバ、農業方面ノ小作組合ノ問題モ、内務省ノ方ニ御取リニナルトカ何トカ云フ風ニ統一シテ頂キタイト思フ、サウ致シマセヌト各省ガ爭ッテ豫算ノ關係カラカモ知レマセヌガ、ドウモ頻リニ爭フノデアリマス、私ハ勞働爭議調停トカ、小作爭議調停ヨリモ、各省ノ爭議調停ガ必要デアラウト思ハレル程常ニ爭議ガアルヤウニ思フノデス、是ハ將來ノ運用ノ上カラ申シマシテモ、ドウシテモ統一サレルコトガ極メテ必要ダト思ヒマスノデ、是ハ希望ダケヲ申上ゲテ、私ノ質問ヲ打切リマス

○森田委員長 木暮武太夫君

○木暮委員 私ハ唯一ツダケ伺ヒタル、此意業ト云フコトデアリマスガ、意業、非常ニ狭イ意味デ仕事ヲヤラヌ意味ニ取リマスガ、サウデナク廣イ意味ノ意業「サボタージユ」ニ付テハ、御承知ノ通り私共ガ考ヘテ見テ、國民經濟ノ功利的ノ立場カラ見テモ、健全ナ勞働運動ノ發達ノ點カラ申シマシテモ、社會ノ公正トカ或ハ道德上ノ立場カラ見テモ、此廣イ意味ノ「サボタージユ」ニ付テハ、勞働運動者ノ間ニ可ナリ非難ノ聲ガアル、サウシテ之ニ含マレルモノトシテハ、社會局長官モ御承知ノ通り、機械其他ヲ故意ニ損傷セシムルヤウニ使用スル場合デアルトカ、或ハ

又道路ノ人夫ナドガ能クヤル「ヤナギ」デ行ク「トカ」云ッテ、一日一人デ出來ル仕事ヲ故意ト四人モ五人モカ、ルト云フ仕事ノ仕振リヲヤル、或ハ私ノ聞ク所ニ依レバ、鑄物業者ナドハ「オ釋迦ヲヤル」ト云フノデ故意ト違ッタ型ヘ簞ルヤウナモノヲ皆ナデ拵ヘルト云フヤウナコトガ、此廣イ意味ノ「サボタージユ」ニハアルト考ヘマス、斯ウ云フヤウナカラ見マシテモ、健全ナル勞働運動ノ發達ノ上カラ見マシテモ、亦社會正義ノ上カラ見テモ、道德上カラ見テモ、誰ガ見テモ、非難ヲ受クベキモノダト私ハ考ヘテ居リマス、是ナドガ出來ルト云フノモ、詰リ勞働組合ト云フモノガ團體協約權ガ認めラレナイ結果デアル、サウカト云ッテ同盟罷工ト云フコトニ依テ、賃銀ヲ消失シテマデ闘フト云フダケノ力ノナイモノハ、勢ヒ茲ニ流レ出ナクテハナラナイヤウナ現在ノ狀態ニナッテ、洵ニ氣ノ毒デアリマスガ、斯ウ云フモノガ例ヘバ勞働組合法ノ第十五條ノ但書ニ依テ、勞働條件ノ維持改善ノ爲ニヤラレタ爲ニ、別ニ損害賠償ノ責ニ任ズナド、云フコトニナッテ居ルノデゴザイマセウカ、ソレカラ又モウ一ツ「サボタージユ」ガ起リマシタ場合、同盟罷業ガ起ッタ場合ニハ、必ラズ之ヲ調停スルト云フ問題ガ直グ起リマスガ、サウ云フ同盟罷工ノヤウナ的確ナ背景デナク、斯ウ云フ鑄物業者ガ

「オ釋迦ヲヤル」トカ、或ハ道路人夫ガ「ヤナギ」デ行ク「トカ」云フ仕事ヲスルトカ、サウ云ウ風ナコトヲ結束シテヤリマシタコトヲ、爭議調停法ノ場合ニ、爭議ト看做シテ直ニ政府ハ之ニ對シテ相當ニ調停ヲスルト云フ風ニ、積極的ニ働クノデアアルダラウカ、是ハ國民經濟ノ立場カラ見テモ、道德的ノ判斷カラ致シマシテモ、健全ナル勞働運動ヲ達成スルト云フ立場カラ見テモ、極メテ私ハ重大ナル問題デアルト思ヒマス、ドナタカ御聽キニナルカト思ッテ控ヘテ居リマシタガ、ドナタモ御聽キニナラナイヤウデアリマスカラ、此點ヲハツキリ伺ヒタイ

○長岡政府委員 「サボタージユ」ニ關スル御解釋ハ、前段ニ御述べノ通りニ私共モ承知シテ居リマス、之ヲ意業ト譯シマスノハ、甚ダ間違ッテ居リマス、或ル場合ニハ妨「サマタゲル」、妨業ト云フ場合モゴザイマセウ、ソレカラ規則ノ過度ノ遵守ト云フ場合モゴザイマセウ、「サボタージユ」ニ付テハ色ミ解釋ガアリマセウクレドモ、單ニ意業ト言ヒ放スコトハ「サボタージユ」ノ意義ニ反スルコト、思ヒマスガ、併シ是ハ私ガ講義ガマシク申上グルマデモナク、木暮君ハ能ク御存ジノコトデ、要スルニ是ハ佛蘭西系統ノ勞働者カラ始マツタモノデ、先刻申上ゲマシタヤウニ、佛蘭西デハ勞働組合ノ基礎ガ非常ニ弱イ、資金ガ乏シイ、又組合ノ加入脱退ガ

常デナイト云フヤウナコトガ、從ッテ同盟罷業ノ場合ニ資金ノ無イ爲ニ、罷業ガ永續セズシテ失敗ニ終ルト云フヤウナ原因、色々ノ原因カラ佛蘭西ノ「サボタージュ」ハ始ッテヤウニ記憶シテ居リマスガ、是等ハ先程申上ゲマシタヤウニ、勞働組合ノ組織ト、ソレカラ資金ト云フ問題ガ潤澤ニナリ、組織ガ立派ニナリマスルト云フト、勢ヒ斯ウ云フ妙ナ手段ニハ出ナクナル傾向ヲ持ッテ居ルダラウト思ヒマス、併シハ大體デアリマス、只今御示シノヤウナ場合、機械ヲ故意ニ毀スト云フヤウナ場合ニハ、是ハ正當ナ同盟罷業トハナラヌノデアリマスカラ、雇傭者ガ損害ヲ受ケタル場合モ、是ハ辨償規定ニ當儀マラスト思ヒマス

○本幕委員 材料ヲ使ッテ場合ハドウデスカ

○長岡政府委員 材料ヲ故意ニ使ッテ場合、サウ云フ場合モ是ハ不當ナ同盟罷業トハ云ヘナイト思ヒマスガ、併シ只今御引用ニナリマシタ道路人夫デアルトカ、鑄物業トカ云フヤウナ、個々ノ場合ニ、少數ナ人、數人ノ人ガ所謂「サボタージュ」ヲヤッテ居ルト云フヤウナ場合ハ、是ハマダ勞働爭議ト云フマデノ域ニ達シテ居ナイノデアリマスカラ、サウ云フ場合ハ調停法ノ働キハマダ動カナイモノデヤナйкаト、斯様ニ心得テ居リマス、之レガ大規模ノ怠業ヲスルト云フヤウナコトニナリマスル

ト、此怠業ハ即チ同盟罷業ト看做スヤウナ場合モ起ッテ來ルト思ヒマス、ソレカラ是ハ蛇足カモ知レマセヌガ、今聽ク所ニ依リマス、大審院ノ判決デハ怠業ハ勞働運動ノ合法的戰術ト認メナイト云フ判決ガアルサウデアリマス

○原(惣)委員 今一ツダケ聽イテ置キタイノデスガ、官業勞働者ノ事ニ付テ伺ヒタイノデスガ、鐵道省ニ現業委員會ト云フモノガアリマスガ、是等ト組合トハ何等關係ガナイト云フヤウナ御話デアリマシタガ、廣ク官業ノ勞働者ニハ全部サウ云フ組合ヲ御認メ下サルノデアリマスカ

○長岡政府委員 勞働組合ヲ認メルカドウカト云フ御質問デアリマスガ、是ハ認メル積リデアリマス

○原(惣)委員 例ヘバ遞信省ノ郵便配達夫、ア、云フ者モ矢張官業勞働ノ中ニ入レルノデスカ

○長岡政府委員 雇員以下ノ筋肉勞働者ノ團結ハ認メル積リデアリマス

○原(惣)委員 サウシマス郵便法ノ規定トノ牴觸ヲドウナサイマスカ

○長岡政府委員 配達人ニハ其適用ガナイヤウニ思ヒマスガ、若シ特別法ノ適用ガアリマスレバ、特別法ノ適用ニ服スル外ナイト思ヒマス

○原(惣)委員 サウスルト結局組合ヲ認メナイト云フコトニナリハセヌカト思ヒマス

○長岡政府委員 只今御例示ノ點ハ郵便法、電信法ダケデアリマスガ、其他ニハ斯ウ云フ特別法ハ私ハ記憶致シテ居リマセヌ、過日モ申シマシタ通り、特別法ナルモノハ、一般法ニ先立ッテ其適用ガアルト云フヤウニ御認メヲ願ヒタイト思ヒマス

○原(惣)委員 併シ今ハ立法者ノ御意思ヲ聽イテ居ルノデアリマスカラ、サウ云フヤウナ特別法トカ普通法ノ關係デナクシテ、一般的ノ官業勞働者ヲ御認メニナルト云フ御意思ガアッテ、ソレガ立法者ノ御精神デアラナラバ、サウ云フヤウナ特別法規ハ廢セナケレバナラヌノデアリマセヌカ

○長岡政府委員 只今ノ御意見ハ御尤ト思ヒマスガ、今日迄政府部内デ打合セマシタコトニ依リマス、特別法ノアルモノハ、普通法ノ適用ヨリ先ニスルト云フコトニナッテ居リマス、ソレガ不都合デアルト云フ御意見ハ別トシテ、今ハ左様デアリマス、ソレカラ郵便法ノ問題デアリマスガ、是ハ私ガ間違ッテ居リマシタナラバ御詫ビヲ致シマスガ、郵便法ノ五十三條ニ「郵便事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ郵便物ノ取扱ヲ爲サス又ハ之ヲ遲延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ郵便事務ニ從事スル者重大ナル過失ニ因リ郵便物ヲ失ヒタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス」ソレカラ電信法ノ第三十六條ニ「電信若ハ電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナ

クシテ通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遲延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス」斯ウアリマスガ、此他ニ私ノ知ラヌモノガアリマスナラバ別デアリマスガ、是ダケナラバ勞働組合ヲ組織スルト云フコト自體ニハ、直接觸レテ來ナイヤウニ思ヒマス

○原(惣)委員 私ハマダ他ニモアルト思ッテ居リマスガ、今其條文ヲ舉ゲロト言ハレテハ困リマスガ、要スルニ組合法ノ適用ガ出來ナカクナラバ、假リニ組合法ヲ御認メニナッテモ無意義ニナリマス、其牴觸ヲドウナサイマスカ

○長岡政府委員 假ニ只今以外ノ條文ヲ頭ニ置キマセヌデ、御答申上ゲマス、其場合ニハ「正當ノ事由ナクシテ」ト云フ問題ヲ如何ニ解スルカト云フ問題ニナッテ來マス、相當ノ賃銀値上ヲ要求スル爲ニ、同盟罷業ヲ以テ、正當ノ事由ト看做セバ之ニ當儀リマスガ、是ガ正當デナイト認メレバ、當儀ラヌ、是ハ要スルニ裁判所ノ解決如何ニ依ルコトニナッテ來ルト思ヒマス

○原(惣)委員 ソレガ裁判所ノ問題ニナッテ行クマデニ、正當デアるか否ヤハ——俺達ハ賃銀ヲ上ゲテ呉レナケレバ辭メマスト云フ其間、休止狀態ニ居ッタナラバ、事實其條文ニ當儀リマス、事由ガ有ッテモ無クテモ當儀ッテ行クト思フ、斯様ニ官業勞働者ニハキツト特法ガアルノデアリマス、法律デナクテモ或ハ

「達」ト云フヤウナモノガアリマス、サ
ウ云フヤウナ場合ニ於テ、常ニ特法ハ
普通法ニ勝ルト云フヤウナ勢デアッタ
ナラバ、結局筋肉労働者組合ヲ御認メ
ニナツテモ、サウ云フモノヲドン／＼省
イテ行ツテハ何ニモナラナイ、又労働組
合ノ本質カラ言フテモ、斯ノ如キ特法ハ
省イテ行クト云フ御意思デナケレバ、
組合法ヲ御認メニナツタ御趣旨ガ意味
ヲ爲サナイノデハナイカト思ヒマス

○長岡政府委員 大體御意見ノ事ハ能
ク拜承致シマシタ、私ノ記憶及此處ニ
參ッテ居リマス同僚ノ記憶ニ依リマス
ト、逕信省關係ノ郵便法電信法、簡易法
是以外ニハ澤山無イヤウニ聞イテ居リ
マス、ドノ官業労働ニモ、特別法ガアル
ト云フヤウニハ承ツテ居リマセヌガ、是
ハ尙ホ調査シタ上デナケレバ分リマセ
ヌガ、併シ只今迄ハ特別法ガアレバ普
通法ヨリ先ニ行クト云フコトノ解釋デ
來テ居リマス、特別ノ技術關係ノ下ニ
居ル者ハ、其特別法ノ命ズル所ニ依テ、
ソレニ服スルト云フコトニナツテ居リ
マス、此特別法其モノガ不都合デア
カラ改廢ヲ要スルト云フ御意見デア
リマスナラバ、是ハ將來ノ問題トシテ、篤
ト考慮シタイト考ヘテ居リマス

合ノコトヲハッキリ仰シヤツテ戴キタイ
○長岡政府委員 「サボタージユ」ノ中
怠業デスネ

○木暮委員 怠業モアルシ、材料ヲ故
意ト云フコトヲ認メラレヌカ知ラヌ
ガ、少シ餘計使ヒ過ギタトカ、或ハ油ノ使
ヒ方ガ多カッタトカ、サウ云フヤウナ事
ヲ大勢デアル、或ハグヅ／＼シテ居ッテ
労働條件ノ維持改善ノ目的ヲ達シヤウ
トスル、サウ云フ事ヲ共同デヤッタ場合
ニ、免責規定ニ當儀マルカドウデスカ
○長岡政府委員 其例ハ色ミアリマセ
ウガ、一々單純ニ當儀マル當儀ラナイ
ト云フコトハ御答致シ難イノデアリマ
シテ、例ヘバ器物ヲ壞シタトカ、材料ヲ
餘計使ツタトカ云フ場合ニハ、免責規定
ニハ入ラスト思ヒマスケレドモ、併シ
怠業ヲシテ居ッタ——怠業ト罷業トノ
關係ハ餘程「デリケート」デゴザイマス
カラ、單純ニ怠業ヲシテ勞務ヲ荒廢シ
テ居ッタト云フダケデアリマスレバ、免
責規定ニ這入ルト思ヒマス

果、一體經常費幾ヲ要スル御見込ニ
ナツテ居リマスカ、此御見込ダケヲ承ッ
テ置クコトガ大變必要デアラウト思
フ、餘リ金ガ掛カッテハ、施行モ如何デ
アラウカト思フ

○長岡政府委員 是ハ藏園サンニ御願
デスガ、速記ヲ止メテハイケマセヌカ
○藏園委員 宜シウゴザイマス
○森田委員長 速記ヲ止メテ下サイ
〔速記中止〕
○森田委員長 ソレデハ質問ハ終結致
シマシタ、後ノ討論ハ私ノ希望トシマシ
テハ、五日午後ニ討論ヲ致シマシテ、之
ヲ本會議ニ上シタイ積リデ居リマス、
所ガ只今ドナタカノ御注意ニ依リマ
スト、六日ニハ關稅ノ問題ガ上程セラ
ル、ノミナラズ、此間能ク考ヘタイ、斯
ウ云フ御意見モアリマスカラ、八日午
前中ニ討論ヲ致シマシテ、八日ハ月曜
日デアリマスケレドモ、本會議ガアル
ト致シマスレバ、八日ニ本會議ニ上程
ヲシタイ、斯ウ云フ積リデアリマス、月
曜日デアリマスガ、本會議ガアレバー——
サウ云フ積リデス、大分此間時間ガア
リマスカラ、ドウカ左様ニ願ヒタイ、何
レ本會議デヤラナケレバ、此處デハ例
ノ如ク形式ダケデアリマスカラ——ド
ウカ左様ニ御承知ヲ願ヒマス、是ニテ
散會ヲ致シマス

午後四時五十一分散會

大正十五年三月四日印刷

大正十五年三月五日發行

衆議院事務局

印刷者 民友社